

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

## 教育委員会の点検・評価

(平成29年度対象)

平成30年11月

鎌ヶ谷市教育委員会

# 目 次

## 鎌ヶ谷市教育委員会点検・評価の概要

1 趣旨及び目的	・・・ 1
2 教育委員会の活動	・・・ 1
3 点検・評価の対象及び評価基準等	・・・ 4
① 点検・評価の対象	・・・ 4
② 評価基準	・・・ 6

## 個別点検・評価シート

評価結果一覧表	・・・ 8
政策Ⅰ：生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	
(1) 施策1：いきいきとした生涯学習の推進	・・・ 11
(2) 施策2：生涯スポーツ・レクリエーションの振興	・・・ 22
(3) 施策3：芸術・文化の振興	・・・ 27
政策Ⅱ：人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	
(1) 施策1：生きる力を育てる義務教育の充実	・・・ 33
(2) 施策2：児童・生徒の健康と安全の確保	・・・ 45
(3) 施策3：高度学習への道（高等教育の充実）	・・・ 52
(4) 施策4：青少年の健全育成	・・・ 54

## 学識経験者の意見

鎌ヶ谷市教育委員会の点検・評価（平成29年度対象）についての意見	・・・ 59
平成29年度 鎌ヶ谷市教育委員会の点検・評価について	・・・ 71

## 鎌ヶ谷市教育委員会の点検・評価の概要

### 1 趣旨及び目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。）第26条の規定により、全ての教育委員会は、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等（以下「教育委員会の点検・評価」という。）を毎年度、行うことが義務付けられています。平成29年度に鎌ヶ谷市教育委員会が行った事業について、その取組みの状況を点検し、成果や課題を明確にすることを目的に評価を行い、ここに広くその結果を公表します。

#### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2 教育委員会の活動

#### （1）教育委員会の実績と成果

##### 《教育委員会の会議》

- 教育委員会の会議は、原則として毎月第4水曜日に開催される「教育委員会定例会」と「教育委員会臨時会」からなり、平成29年度は18回開催しました（定例会12回、臨時会6回）。

##### （教育委員会会議開催状況）

年 度		27年度	28年度	29年度
開催回数	定例会	12	12	12
	臨時会	7	5	6
計		19	17	18

- 教育委員会の会議では、教育委員会規則等の制定や改正、教育計画の施策等の策定や教育委員会の点検・評価報告書の作成、平成31年度使用の小中学校教科用図書の採択、各審議会等において委嘱する委員候補等の審議を行いました。

(教育委員会会議審議状況)

年 度		27年度	28年度	29年度
付議案件数	議 案	33	35	40
	報 告	49	64	55
計		82	99	95

○教育委員会議決内容及び件数：40件

- ① 教育委員会規則等の制定改廃：7件
- ② 議会の決定を要する事件の意見の申し出：7件
- ③ 附属機関の委員の任命・委嘱：12件
- ④ 教科書その他の教材の取扱いの方針：1件
- ⑤ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価：1件
- ⑥ 職員の人事の方針：2件
- ⑦ 職員の分限及び懲戒の処分：6件
- ⑧ 指定文化財の指定及び解除：0件
- ⑨ その他：4件

教育懇談会

区 分	教育懇談会
件 数	6

教育長が出席した会議の報告をはじめ、鎌ヶ谷市いじめ防止基本方針や新学習指導要領にかかる勉強会、会場を戸外に移して「一本松遺跡のフィールドワーク」などを行いました。

《教育委員会の会議以外の活動状況》

- 教育委員会の一層の活性化を図るため、毎年、定例の教育委員会会議を市内学校で開催し、児童生徒、保護者の様子及び各学校の課題について、現場の教師と直に意見を交換することとしており、29年度は北部小、第四中で開催しました。
- 小中学校の入学・卒業式や運動会・体育祭、成人式等への出席の他、市や教育委員会、PTA連絡協議会の研究会をはじめ各種団体の主催事業など、数多くの行事に出席し、子どもたちの成長する姿を見守りました。
- 管内教育委員会の緊密な連携協議を図り、民主的教育行政の確立などを目的とする千葉県市町村教育委員会連絡協議会、東葛飾地区教育委員会連絡協議会や関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会等の総会及び研修会に出席しました。
- 新しく建設された五本松小学校の校舎(普通教室棟と特別教室棟)の内覧会を行いました。
- 「小中学校の教科用図書」の採択、「教育委員会の点検・評価」などの重要な案件は、定例会とは別に検討会を設けました。

## (2) 今後の取組み

- 教育施策の実現に向け、予算の確保など適切に取り組めます。
- 教育委員会のさらなる活性化を図るため、各小中学校において引き続き定例会を順次開催し、児童生徒、保護者の様子及び各学校の課題等について、現場の教師と直に意見交換する場を設けます。
- 「小中学校の教科用図書の採択」や「教育委員会の点検・評価」など重要な案件や内容が多岐にわたるものは、定例会とは別に検討会を設けるなどして理解を深め、より良い審議ができるようにします。

### 《教育委員会の委員の構成》

(平成30年3月現在)

	役 職	氏 名	備 考
1	教 育 長	皆 川 征 夫	
2	教 育 長 職 務 代 理 者	皆 川 準 一	
3	委 員	奥 村 さかえ	
4	委 員	住 石 英 治	
5	委 員	石 川 宏 貴	

### 3 点検・評価の対象及び評価基準等

#### ① 点検・評価の対象

教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価は、鎌ケ谷市教育委員会の事業評価を概観できるように、その対象単位を「鎌ケ谷市総合基本計画—レインボープラン2 1—後期基本計画」（以下「後期基本計画」という。）で示されている7つの施策ごととしました。

政策 I	生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります
<b>【施策1：いきいきとした生涯学習の推進】</b>	
目的 (基本事業)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生涯学習の環境づくり</li> <li>2) 生涯学習活動の推進</li> <li>3) 学習成果を活かす場づくり</li> </ol>
<b>【施策2：生涯スポーツ・レクリエーションの振興】</b>	
目的 (基本事業)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) スポーツ活動の充実</li> <li>2) スポーツ関係団体・指導者の育成</li> <li>3) スポーツ施設の整備・充実</li> </ol>
<b>【施策3：芸術・文化の振興】</b>	
目的 (基本事業)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多様な市民文化活動の推進</li> <li>2) 歴史・文化遺産の保存・承継・活用の推進</li> </ol>

政策Ⅱ	人間性豊かな子どもの育成環境をつくります【重点政策】
<b>【施策1：生きる力を育てる義務教育の充実】</b>	
目的 (基本事業)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり</li> <li>2) 専門性と社会性を備えた教職員の育成</li> <li>3) 安全・安心な教育環境づくり</li> </ol>
<b>【施策2：児童・生徒の健康と安全の確保】</b>	
目的 (基本事業)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健安全教育の充実</li> <li>2) 児童・生徒の安全確保</li> <li>3) 学校給食の充実と施設の整備</li> </ol>
<b>【施策3：高度学習への道（高等教育の充実）】</b>	
目的 (基本事業)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 義務教育修了者の進路選択への支援</li> <li>2) 高度学習ニーズへの対応</li> </ol>
<b>【施策4：青少年の健全育成】</b>	
目的 (基本事業)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 青少年の育成指導体制の充実</li> <li>2) 青少年の社会参加・体験活動の機会づくり</li> <li>3) 非行防止対策の推進</li> <li>4) 家庭・地域の教育力の向上</li> </ol>

## ② 評価基準

各施策及び施策の目標に対しては、効果、達成度、有効性を総合的に判断し、下表1に示す3区分（A～C）とし、個別の実績及び進捗状況の評価（項目評価）は下表2に示す5区分（a～e）により自己評価を実施しました。

自己評価の方法は、まず、個々の実績及び進捗状況を評価（項目評価）し、その評価を基に、基本事業に位置付けられる目的の評価（目的評価）を行い、最終的な施策に対する評価（施策評価）を行いました。

表1 施策評価・施策の目標（目的評価）に対する評価基準

評 価		評 価 基 準
A	順調に達成している	○活動及び施策の目的達成に向けて大きな成果を上げた。
B	概ね達成している	○活動及び施策の目的達成に向けて一定の成果を上げた。
C	殆ど達成していない	○活動及び施策の目的達成に向けて成果が上がらなかった。

表2 項目評価に対する評価基準

評 価	評 価 基 準
a	○十分な成果を得た（達成・完了）
b	○ほぼ成果を得た（予定どおり進捗中）
c	○ある程度の成果を得たが、多少の改善検討が必要
d	○満足のいく成果が得られず、事業の見直しが必要
e	○中止、大幅見直し等

# 個別点検・評価シート

評価結果一覧表

**政策Ⅰ 生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります**

<b>施 策</b>	<b>1 いきいきとした生涯学習の推進</b>	<b>B</b>
目 的	1) 生涯学習の環境づくり	B
項 目	1) -1 学校施設の地域開放 (P11)	b
	1) -2 図書資料の充実 (P12)	a
	1) -3 生涯学習研修会の実施 (P13)	b
目 的	2) 生涯学習活動の推進	B
項 目	2) -1 学習センター等での講座や研修会の実施 (P14)	b
項目詳細	2) -1-1 (生涯学習の推進) (P15)	b
	2) -1-2 (青少年健全育成) (P16)	b
	2) -1-3 (指導者養成) (P17)	b
	2) -1-4 (地域活動の促進・援助) (P18)	b
	2) -1-5 (芸術・文化活動の促進) (P19)	b
	2) -1-6 (家庭教育の充実) (P20)	c
目 的	3) 学習成果を活かす場づくり	B
項 目	3) -1 市民との協働による事業運営 (P21)	b
	3) -2 学習成果の地域還元 (P21)	b
<b>施 策</b>	<b>2 生涯スポーツ・レクリエーションの振興</b>	<b>B</b>
目 的	1) スポーツ活動の充実	A
項 目	1) -1 スポーツ・イベント活動の取り組み (P22)	a
	1) -2 スポーツ推進委員活動の促進 (P23)	b
目 的	2) スポーツ関係団体・指導者の育成	B
項 目	2) -1 体育協会加盟団体の育成 (P24)	b
	2) -2 スポーツ少年団の育成	a
目 的	3) スポーツ施設の整備・充実	B
項 目	3) -1 スポーツ施設の整備・充実 (P25)	b
	3) -2 民間事業者との協働による財源確保 (P26)	b
<b>施 策</b>	<b>3 芸術・文化の振興</b>	<b>B</b>
目 的	1) 多様な市民文化活動の推進	B
項 目	1) -1 芸術鑑賞事業 (P27)	b
	1) -2 芸術文化活動の支援 (P28)	b
目 的	2) 歴史・文化遺産の保存・継承・活用の推進	B
項 目	2) -1 埋蔵文化財発掘調査事業 (P29)	a

	2) -2 国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業 (P29)	c
	2) -3 歴史・民俗資料の調査・収集・整理・保存事業 (P30)	b
	2) -4 展示事業 (P31)	b
	2) -5 教育・普及事業 (P32)	b

## 政策Ⅱ 人間性豊かな子どもの育成環境をつくります

<b>施策</b>	<b>1 生きる力を育てる義務教育の充実</b>	<b>B</b>
目的	1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり	A
項目	1) -1 少人数指導の推進 (P33)	b
	1) -2 特別支援教育推進指導教員 (P34)	a
	1) -3 学校図書館司書 (P35)	b
	1) -4 学校支援地域本部事業 (P36)	b
	1) -5 ICT 教育環境整備 (P37)	a
	1) -6 外国語活動の推進 (P38)	a
	1) -7 キャリア教育 (P39)	b
	1) -8 心の教育 (P40)	b
目的	2) 専門性と社会性を備えた教職員の育成	B
項目	2) -1 教職員の指導力向上 (P41)	b
	2) -2 指導訪問 (P42)	b
	2) -3 市教育委員会研究指定校 (P42)	b
目的	3) 安全・安心な教育環境づくり	A
項目	3) -1 義務教育施設維持補修事業 (P43)	a
	3) -2 義務教育施設校舎増設事業 (P43)	a
	3) -3 就学援助の実施 (P44)	a
<b>施策</b>	<b>2 児童・生徒の健康と安全の確保</b>	<b>A</b>
目的	1) 保健安全教育の充実	A
項目	1) -1 児童・生徒の健康管理 (P45)	a
	1) -2 子どもの健康管理にかかる研究会の実施 (P46)	a
目的	2) 児童・生徒の安全確保	A
項目	2) -1 通学路安全対策事業の実施 (P47)	a
	2) -2 児童・生徒安全パトロール事業 (P48)	a
目的	3) 学校給食の充実と施設の整備	A
項目	3) -1 学校給食の充実 (P49)	a
	3) -2 学校給食における食育の推進 (P50)	a
	3) -3 学校給食PF I 事業のモニタリング (P51)	b

<b>施 策</b>	<b>3 高度学習への道（高等教育の充実）</b>	<b>B</b>
目 的	1) 義務教育修了者の進路選択への支援	B
項 目	1) -1 より良い進路選択の支援 (P52)	b
目 的	2) 高度学習ニーズへの対応	B
項 目	2) -1 大学との連携による高度な学習機会の提供 (P53)	b
<b>施 策</b>	<b>4 青少年の健全育成</b>	<b>B</b>
目 的	1) 青少年の育成指導体制の充実	B
項 目	1) -1 青少年関係団体への支援 (P54)	c
目 的	2) 青少年の社会参加・体験活動の機会づくり	B
項 目	2) -1 青少年活動の充実 (P55)	b
目 的	3) 非行防止対策の推進	A
項 目	3) -1 青少年の非行防止活動 (P56)	a
目 的	4) 家庭・地域の教育力の向上	B
項 目	4) -1 家庭教育の啓発 (P57)	b

政策	I 生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	評価欄						
施策	1 いきいきとした生涯学習の推進	政策評価	(A・B・C)	B				
目的	1) 生涯学習の環境づくり	目的評価	(A・B・C)	B				
	1) -1 学校施設の地域開放	項目評価	(a・b・c・d・e)	b				
評価対象項目・事業	<p>【目標】</p> <p>○ 学校を地域の生涯学習の場として、市民の学習や交流の拠点となるよう、学校施設を地域に開放するほか、学校、団体、地域相互の連携・協力を推進し、地域の教育力の向上をめざします。また、学校の持っている教育機能を活かしたオープンセミナーを開催します。</p>							
	<p>【取組み】</p> <p>○ 学校の体育館・校庭・コミュニティルーム・柔剣道場について、各校コミュニティスクール運営委員会で各団体間の利用調整を行い市民の利用に供しました。</p> <p>○ 学校、地域、団体が相互に連携協力できる体制を推進するため、継続してコミュニティスクール運営委員会会議の場を活用し、子どもの安全をテーマに最近のインターネット事情についてのDVD視聴及び意見交換を実施しました。また、近隣住民からの騒音やマナーに関する苦情に対応するため、利用団体と学校施設使用マニュアルを再確認し、注意喚起を行いました。</p> <p>○ 新たな団体の受入れについて、既存団体と調整を図りました。</p>							
	<p>【実施結果・成果】</p> <p>○ 小中学校全14校の学校開放を行いました。</p> <p>○ 29年度は、159の団体登録があり、校庭では少年野球や少年サッカー、グラウンドゴルフ、体育館ではミニバスケットボールやバレーボールなど子どもから高齢者まで幅広く利用されました。</p> <p>○ 新たな団体の受入れのため、既存団体と合同利用とする調整を図りました。</p> <p>○ コミュニティスクール運営委員会会議では、学校開放の利用調整のほか、最近のインターネットトラブルについてのDVDを視聴し、子どもたちや地域の安全について意見交換し、地域の教育力の向上を図りました。また、同会議において、学校施設使用マニュアルを再確認し、近隣住民への配慮について利用団体へ周知を図った結果、苦情件数の減少につながりました。</p> <p>○ 学校の教員が講師となり、市民を対象にオープンセミナーを開催しました。</p> <p>○ パソコン入門講座、ペーパーアート教室については、講師の都合により開催には至りませんでした。</p>							
			H27	H28	H29			
			利用件数(件)	利用人数(人)	利用件数(件)	利用人数(人)	利用件数(件)	利用人数(人)
	小中学校	鎌ヶ谷	618	18,170	575	17,793	664	19,903
		東部	620	12,279	544	9,094	574	10,222
		西部	356	5,680	412	7,623	436	8,564
		南部	707	16,941	700	16,838	710	16,567
		北部	468	15,401	401	13,411	372	13,240
中部		396	9,692	658	15,238	629	14,628	
初富		1,079	32,160	1,060	31,138	1,028	28,758	
道野辺		671	20,928	729	20,800	643	21,492	
五本松		667	21,057	713	22,882	698	22,191	
中学校	鎌ヶ谷	467	7,363	477	7,391	470	6,559	
	第二	838	19,087	1,015	22,831	1,015	22,362	
	第三	266	3,549	334	4,567	372	5,328	
	第四	413	8,458	372	8,244	543	12,776	
	第五	358	6,911	381	6,210	385	5,968	
		7,924	197,676	8,371	204,060	8,539	208,558	
		H27		H28		H29		
		講座名	参加者数	講座名	参加者数	講座名	参加者数	
		みんなで楽しく音楽教室	34人	みんなで楽しく音楽教室	32人	みんなで楽しく音楽教室	28人	
		ペーパーアート教室	11人	ペーパーアート教室	12人	—	—	
		コカリナ体験教室	10人	コカリナ教室	21人	コカリナ教室	13人	
		パソコン入門講座	12人	—	—	—	—	
		4講座	67人	3講座	65人	2講座	41人	
<p>【課題・今後の取組み】</p> <p>○ 学校開放の対象施設に限りがあるため、新たな団体の受入れについて既存団体と調整を図ることが必要です。</p> <p>○ 近隣住民から騒音やマナーに関する苦情が寄せられていること、利用団体による施設破損の事例が生じていることから、学校教育に支障をきたすことのないよう注意喚起を行うとともに、引き続き利用にあたってのルール遵守の徹底につとめます。</p> <p>○ オープンセミナーについては、学校の持つ教育資源の有効活用として現役の教員が講師となって開催していますが、教員の多忙化から開催に至らないことが多いため、対象となる講師について幅広く検討します。</p> <p>○ コミュニティスクール運営委員会会議の場を活用し、自然と交流に結び付くような環境を提供し、地域の交流を図ります。</p>								

目的	1) 生涯学習の環境づくり	目的評価	(A・B・C)																																
	1) -2 図書資料の充実	項目評価	(a・b・c・d・e)	a																															
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 多様化・高度化している市民の学習欲求に対応します。また、インターネットを通しての蔵書検索・予約貸出システムを構築します。																																		
	<b>2 【取組み】</b> ○ 市民のニーズに対応した図書の収集にできる限りつとめ、利用者数、図書館資料貸出冊数等が昨年度より増加しました。 ○ 図書館開館30周年を記念して、写真展(図書館の歩み)や記念スタンプによるスタンプラリーを実施しました。 ○ 館内に「アクティブ・ライフ応援コーナー」を設置し、月毎にテーマを変えて図書展示を行いました。																																		
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 市民の学習欲求及び利便性に対する取組みを行いました。 ○ 図書の利用者数や図書館資料貸出冊数が増加しました。またインターネット予約件数が増加しています。インターネットを使用しない方についても、読書週間(10月27日から11月9日まで)に合わせ、市広報に図書館事業のお知らせを掲載し、利用促進を図りました。さらに「アクティブ・ライフ」(図書館だより)を年4回発行しており、市内公共施設に配布しています。 ○ 「認知症予防におすすめ図書館利用術」の著者を講師とした講演会を行いました。その後、認知症に優しい本棚コーナーを1階に常設し、関連する図書等を配架しています。																																		
	 <p data-bbox="264 1754 581 1789">「認知症に優しい本棚コーナー」</p>	<p data-bbox="951 871 1177 894">写真展(図書館の歩み)</p>  <p data-bbox="776 1343 979 1378">30周年記念スタンプ</p>  <p data-bbox="1190 1336 1377 1394">「アクティブ・ライフ 応援コーナー」</p> <table border="1" data-bbox="724 1396 1458 1568"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書の蔵書数</td> <td>303,029冊</td> <td>303,599冊</td> <td>301,619冊</td> </tr> <tr> <td>視聴覚資料数</td> <td>3,271点</td> <td>3,398点</td> <td>3,536点</td> </tr> <tr> <td>インターネット予約件数</td> <td>30,916件</td> <td>32,269件</td> <td>35,034件</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>122,780人</td> <td>120,872人</td> <td>123,135人</td> </tr> <tr> <td>図書館資料貸出冊数</td> <td>408,725冊</td> <td>397,206冊</td> <td>405,089冊</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="724 1591 1458 1652"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レファレンス件数</td> <td>8,874件</td> <td>8,757件</td> <td>7,980件</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="654 1661 1492 1801">※ コンシェルジュ(お客様案内係)を本館に配置しています。コンシェルジュスタッフがフロアを巡回することで、利用者が声をかけやすい環境を作っています。状況に応じて、こちらからお困りのことがないか、お声がけすることもあります。</p> <p data-bbox="654 1808 1492 1870">※ レファレンス件数のうち、資料案内、文献調査は司書が行い、利用案内はスタッフ全員が行っています。</p>		H27	H28	H29	図書の蔵書数	303,029冊	303,599冊	301,619冊	視聴覚資料数	3,271点	3,398点	3,536点	インターネット予約件数	30,916件	32,269件	35,034件	利用者数	122,780人	120,872人	123,135人	図書館資料貸出冊数	408,725冊	397,206冊	405,089冊		H27	H28	H29	レファレンス件数	8,874件	8,757件	7,980件	
	H27	H28	H29																																
図書の蔵書数	303,029冊	303,599冊	301,619冊																																
視聴覚資料数	3,271点	3,398点	3,536点																																
インターネット予約件数	30,916件	32,269件	35,034件																																
利用者数	122,780人	120,872人	123,135人																																
図書館資料貸出冊数	408,725冊	397,206冊	405,089冊																																
	H27	H28	H29																																
レファレンス件数	8,874件	8,757件	7,980件																																
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 蔵書や視聴覚資料が市民の学習欲求に答えられているかを統計をもとに検証し、収集計画に反映します。 ○ 31年1月の図書館システムの更新に向けて、システム構築に取り組みます。 ○ 今後も「アクティブ・ライフ」(図書館だより)の発行に取り組みます。																																			

目的	1) 生涯学習の環境づくり	目的評価	(A・B・C)																			
	1) -3 生涯学習研修会の実施	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																		
	<b>1 【目標】</b> ○ 生涯学習の担い手である職員・ボランティア団体関係者などの専門的・実践的知識の向上をめざします。																					
	<b>2 【取組み】</b> ○ 市民や施設利用者、職場内など多種多様な人々と接する際に必要な能力を高め、より良い業務に繋がるよう生涯学習職員研修会を実施しました。 ○ 教育委員会は、鎌ケ谷市地域防災計画の中で、「避難所運営」の役割を担っており、有事の際の避難所生活などを想定することは、まちにとって不可欠なことであるため、職員の意識づけ及びコミュニケーション能力の向上を図る観点からテーマを設定しました。 内容：『公共施設における避難所について』																					
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 29年7月に職員や教職員をはじめ行政関係職員を対象に研修会を行いました。 ○ 災害時に公共施設が避難所となることから、日本防災士会の防災士を講師に研修会を実施し、災害時における職員の意識や知識など一人ひとりのスキルアップの向上を図りました。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">H27</th> <th colspan="2">H28</th> <th colspan="2">H29</th> </tr> <tr> <th>実施回数</th> <th>参加人数</th> <th>実施回数</th> <th>参加人数</th> <th>実施回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回</td> <td>30人</td> <td>1回</td> <td>46人</td> <td>1回</td> <td>52人</td> </tr> </tbody> </table>				H27		H28		H29		実施回数	参加人数	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数	1回	30人	1回	46人	1回	52人
H27		H28		H29																		
実施回数	参加人数	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数																	
1回	30人	1回	46人	1回	52人																	
	※ 施設職員だけでなく他部署からの参加があり、職員の意識向上を図ることができました。																					
	○ 各年の研修会のテーマは、次のとおりです。 27年度 『優しさが伝わるマナーとコミュニケーション』 28年度 『こどもがワクワクするしかけづくり～キッズニアにおける取組み～』 29年度 『公共施設における避難所について』																					
	<b>4 【今後の課題・取組み】</b> ○ 市民の学習ニーズや学習相談に応えられる、幅広い視野を持った職員・ボランティア団体関係者の育成に努めるため、継続して生涯学習研修会を実施します。また、職員をはじめとする学習者が興味をもって受けられるような魅力あるものや現代的課題をテーマとして選び、資質向上につとめます。 ○ 多くの人に受講してもらえるよう、講座の編成を見直すなど工夫につとめます。																					

評価対象項目・事業

目的	2) 生涯学習活動の推進	目的評価	(A・B・C)	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	2) -1 学習センター等での講座や研修会の実施	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
評価対象項目・事業	1 【目標】																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	○ 大学等高等教育機関・各種機関・団体との連携を図り、市民の学習要求に対応する事業を展開するとともに、情報化問題や高齢者問題など、現代的課題に対応した事業を実施します。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	2 【取組み】																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	○ 各学習センターでは、発達課題や現代的課題に応じた学習機会を提供しました。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	○ 受講者を対象に「アンケート」を実施し、事業報告に基づき、30年度の事業検討を行いました。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	3 【実施結果・成果】																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	○ 各学習センターでは講座や研修会を行い、学習機会の充実を図ることができました。 〔※区分別事業件数・受講者数は下表のとおり〕																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	区分別事業件数・受講者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>項目</th> <th>館名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>区分</th> <th>項目</th> <th>館名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">生涯学習の推進</td> <td rowspan="6">事業件数(件)</td> <td>東学</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td rowspan="12">指導者養成</td> <td rowspan="6">事業件数(件)</td> <td>東学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>中央</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>北部</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>北部</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>南部</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>南部</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>東初</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>東初</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>14</td> <td>合計</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">受講者数(人)</td> <td>東学</td> <td>732</td> <td>775</td> <td>814</td> <td rowspan="6">受講者数(人)</td> <td>東学</td> <td>72</td> <td>120</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>869</td> <td>675</td> <td>895</td> <td>中央</td> <td>207</td> <td>106</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>北部</td> <td>696</td> <td>803</td> <td>836</td> <td>北部</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>南部</td> <td>983</td> <td>934</td> <td>928</td> <td>南部</td> <td>31</td> <td>36</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>東初</td> <td>412</td> <td>417</td> <td>268</td> <td>東初</td> <td>33</td> <td>47</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,692</td> <td>3,604</td> <td>3,741</td> <td>合計</td> <td>391</td> <td>357</td> <td>332</td> </tr> <tr> <td rowspan="12">青少年健全育成</td> <td rowspan="6">事業件数(件)</td> <td>東学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td rowspan="12">地域活動の促進・援助</td> <td rowspan="6">事業件数(件)</td> <td>東学</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>中央</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>北部</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>北部</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>南部</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>南部</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>東初</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>東初</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>合計</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">受講者数(人)</td> <td>東学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td rowspan="6">受講者数(人)</td> <td>東学</td> <td>8,608</td> <td>8,893</td> <td>8,289</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>中央</td> <td>3,328</td> <td>3,198</td> <td>3,197</td> </tr> <tr> <td>北部</td> <td>0</td> <td>23</td> <td>92</td> <td>北部</td> <td>2,300</td> <td>2,000</td> <td>2,200</td> </tr> <tr> <td>南部</td> <td>100</td> <td>150</td> <td>87</td> <td>南部</td> <td>821</td> <td>958</td> <td>1,038</td> </tr> <tr> <td>東初</td> <td>0</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>東初</td> <td>611</td> <td>890</td> <td>982</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100</td> <td>193</td> <td>197</td> <td>合計</td> <td>15,668</td> <td>15,939</td> <td>15,706</td> </tr> <tr> <td rowspan="12">芸術・文化活動の促進</td> <td rowspan="6">事業件数(件)</td> <td>東学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td rowspan="12">家庭教育の充実</td> <td rowspan="6">事業件数(件)</td> <td>東学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>中央</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>北部</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>北部</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>南部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>南部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>東初</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>東初</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>合計</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">受講者数(人)</td> <td>東学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td rowspan="6">受講者数(人)</td> <td>東学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>中央</td> <td>224</td> <td>78</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>北部</td> <td>117</td> <td>244</td> <td>252</td> <td>北部</td> <td>0</td> <td>30</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>南部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>南部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>東初</td> <td>102</td> <td>105</td> <td>0</td> <td>東初</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>219</td> <td>349</td> <td>252</td> <td>合計</td> <td>224</td> <td>108</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>												区分	項目	館名	H27	H28	H29	区分	項目	館名	H27	H28	H29	生涯学習の推進	事業件数(件)	東学	2	2	2	指導者養成	事業件数(件)	東学	1	1	1	中央	3	3	3	中央	2	1	1	北部	2	2	2	北部	1	1	1	南部	3	6	6	南部	1	1	1	東初	3	3	1	東初	1	1	1	合計	13	16	14	合計	6	5	5	受講者数(人)	東学	732	775	814	受講者数(人)	東学	72	120	108	中央	869	675	895	中央	207	106	111	北部	696	803	836	北部	48	48	48	南部	983	934	928	南部	31	36	25	東初	412	417	268	東初	33	47	40	合計	3,692	3,604	3,741	合計	391	357	332	青少年健全育成	事業件数(件)	東学	0	0	0	地域活動の促進・援助	事業件数(件)	東学	2	2	2	中央	0	0	0	中央	1	1	1	北部	0	1	1	北部	1	1	1	南部	1	2	1	南部	1	1	1	東初	0	1	1	東初	1	1	1	合計	1	4	3	合計	6	6	6	受講者数(人)	東学	0	0	0	受講者数(人)	東学	8,608	8,893	8,289	中央	0	0	0	中央	3,328	3,198	3,197	北部	0	23	92	北部	2,300	2,000	2,200	南部	100	150	87	南部	821	958	1,038	東初	0	20	18	東初	611	890	982	合計	100	193	197	合計	15,668	15,939	15,706	芸術・文化活動の促進	事業件数(件)	東学	0	0	0	家庭教育の充実	事業件数(件)	東学	0	0	0	中央	0	0	0	中央	1	3	2	北部	2	2	2	北部	0	1	1	南部	0	0	0	南部	0	0	0	東初	1	1	0	東初	0	0	0	合計	3	3	2	合計	1	4	3	受講者数(人)	東学	0	0	0	受講者数(人)	東学	0	0	0	中央	0	0	0	中央	224	78	45	北部	117	244	252	北部	0	30	15	南部	0	0	0	南部	0	0	0	東初	102	105	0	東初	0	0	0	合計	219	349	252	合計	224	108	60
	区分	項目	館名	H27	H28	H29	区分	項目	館名	H27	H28	H29																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
生涯学習の推進	事業件数(件)	東学	2	2	2	指導者養成	事業件数(件)	東学	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		中央	3	3	3			中央	2	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		北部	2	2	2			北部	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		南部	3	6	6			南部	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		東初	3	3	1			東初	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		合計	13	16	14			合計	6	5	5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	受講者数(人)	東学	732	775	814		受講者数(人)	東学	72	120	108																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		中央	869	675	895			中央	207	106	111																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		北部	696	803	836			北部	48	48	48																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		南部	983	934	928			南部	31	36	25																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		東初	412	417	268			東初	33	47	40																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		合計	3,692	3,604	3,741			合計	391	357	332																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
青少年健全育成	事業件数(件)	東学	0	0	0	地域活動の促進・援助	事業件数(件)	東学	2	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		中央	0	0	0			中央	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		北部	0	1	1			北部	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		南部	1	2	1			南部	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		東初	0	1	1			東初	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		合計	1	4	3			合計	6	6	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	受講者数(人)	東学	0	0	0		受講者数(人)	東学	8,608	8,893	8,289																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		中央	0	0	0			中央	3,328	3,198	3,197																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		北部	0	23	92			北部	2,300	2,000	2,200																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		南部	100	150	87			南部	821	958	1,038																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		東初	0	20	18			東初	611	890	982																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		合計	100	193	197			合計	15,668	15,939	15,706																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
芸術・文化活動の促進	事業件数(件)	東学	0	0	0	家庭教育の充実	事業件数(件)	東学	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		中央	0	0	0			中央	1	3	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		北部	2	2	2			北部	0	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		南部	0	0	0			南部	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		東初	1	1	0			東初	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		合計	3	3	2			合計	1	4	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	受講者数(人)	東学	0	0	0		受講者数(人)	東学	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		中央	0	0	0			中央	224	78	45																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		北部	117	244	252			北部	0	30	15																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		南部	0	0	0			南部	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		東初	102	105	0			東初	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		合計	219	349	252			合計	224	108	60																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>項目</th> <th>合計</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>事業件数[件]</td> <td>合計</td> <td>30</td> <td>38</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>受講者数[人]</td> <td>合計</td> <td>20,294</td> <td>20,550</td> <td>20,288</td> </tr> </tbody> </table>												区分	項目	合計	H27	H28	H29	合計	事業件数[件]	合計	30	38	33	受講者数[人]	合計	20,294	20,550	20,288																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
区分	項目	合計	H27	H28	H29																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
合計	事業件数[件]	合計	30	38	33																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	受講者数[人]	合計	20,294	20,550	20,288																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
※「芸術・文化活動の促進」事業は大規模改修工事による事業休止のため、「家庭教育充実」事業は、実施回数の減や地区行事との重複の影響で参加者数が減少しました。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
4 【課題・今後の取組み】																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
○ 各種の学習機会を魅力あるものとするため、講座実施にあってはアンケートを行うなどして、学習者である市民の意見を反映させます。応募者の増をめざし、チラシやポスターなど広報媒体を工夫し、事業のPR方法を検討していきます。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
○ アンケート結果による検討を、受講者にお知らせできるような工夫を検討していきます。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										

目的	2) 生涯学習活動の推進	目的評価	(A・B・C)	
	2) -1-1 学習センター等での講座や研修会の実施(生涯学習の推進)	項目評価	(a・b・c・d・e)	b

### 1 【目標】

- 市民の多様な学習要求に応えるため、さまざまな課題に応じた講座や研修会を実施します。

### 2 【取組み】

- 学習センターでは「東部シニア倶楽部」「北部タウンセミナー」「いきいき倶楽部」など、生涯の各時期に応じた講座を開催しました(カリキュラム中、公開講座を取り入れました)。
- 南部公民館では、市民団体との協働企画事業(ファミリーコンサート、講演会、新春初笑い寄席)を開催しました。
- 「市民セミナー(古典文学講座)」「北部タウンセミナー」では、市内の人材を講師に迎えるなど、人材育成・まちへのふるさと意識の醸成につなげました。「東部市民セミナー」においては公開講座として、「きらりホール」の事業PRを兼ねた『ミニコンサート(チェロ演奏)』をレインボーホールで開催しました。

### 3 【実施結果・成果】

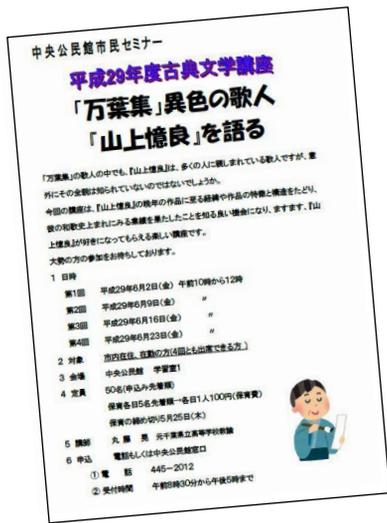
- 各学習センターでは、専門の講師を招いての講座や研修会を行うなど、学習機会の充実・深化を図りました。〔施設ごとの事業名・受講者数は下表のとおり〕

事業名	館名	H27	H28	H29	事業名	館名	H27	H28	H29
オープンカレッジかまがや (千葉経済大学短期大学部開放講座)	中央	632人	384人	609人	東部シニア倶楽部	東学	545人	371人	386人
市民セミナー (古典文学講座)	中央	121人	132人	156人	東部市民セミナー	東学	187人	404人	428人
市民セミナー (文学講座)	中央	116人	159人	130人	南部シルバーセミナー (軽スポーツを楽しむ)	南部	117人	109人	99人
市民セミナー (家庭教育セミナー)	中央	224人	78人	45人	南部シルバーセミナー (きらりコース)	南部	501人	413人	417人
北部シルバーカレッジ	北部	363人	414人	413人	市民団体協働企画事業 (講演会ほか)	南部	365人	412人	412人
北部タウンセミナー	北部	333人	389人	423人	いきいき倶楽部	東初	304人	313人	268人
					陶芸教室初級編	東初	54人	53人	-
					陶芸教室入門編	東初	54人	51人	-
					計		3,916人	3,682人	3,786人

業は※を、東休大初止規公し模公民し修館た工の。事に芸よ教室り室事

※28年度のオープンカレッジかまがやは、受講者数の算定方法を見直したため減となりました。

評価対象項目・事業



市民セミナー(古典文学講座)



東部市民セミナーでのミニコンサート(公開講座)

### 4 【今後の課題・取組み】

- 各種の学習機会を(魅力)あるものとし、対象者の学習意欲に応えるため、アンケートなどによって「参加者ニーズ」を把握し、そうしたニーズに則った内容のものを企画します。また、回収したアンケートについては、その結果を分析し、今後のセミナーなどの企画に活かしていきます。

目的	2) 生涯学習活動の推進	目的評価	(A・B・C)	b																										
	2) -1-2 学習センター等での講座や研修会の実施 (青少年健全育成)	項目評価	(a・b・c・d・e)																											
	<p>1 【目標】</p> <p>○ 青少年が社会性や社会規範を身につけ、自立心や思いやりの心を培うことができるような活動機会を提供します。</p> <p>2 【取組み】</p> <p>○ 北部公民館では、創作活動の場・体験の場を通じて学習意欲や自主性を育むため、「子どもチャレンジ」を実施しました。また、南部公民館では青少年の健全育成に努めるとともに、子育て支援活動の一環として「親子セミナー」を開催しました。東初富公民館では、手すきはがきの作成を体験し、地域の高齢者にお届けして、手紙によるコミュニケーションを図り、地域の方とのふれあいを通じて心豊かな感性を育むため「こども体験教室」を開催しました。</p> <p>3 【実施結果・成果】</p> <p>○ 児童センター・地区社協等と連携し、講座や研修会を行い、学習機会の充実を図りました。</p> <p>○ 子どもチャレンジは、市内高等学校と連携し部活動の生徒が講師となり、実施回数を増やすことで参加者が増となりました。</p> <p>※親子おはなし会は、28年度は親子セミナーの一環として実施しましたが、29年度は親子セミナーに一元化しました。</p>																													
評価対象項目・事業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>館名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子どもチャレンジ</td> <td>北部</td> <td>-</td> <td>23人</td> <td>92人</td> </tr> <tr> <td>親子セミナー</td> <td>南部</td> <td>100人</td> <td>115人</td> <td>87人</td> </tr> <tr> <td>親子おはなし会</td> <td>南部</td> <td>-</td> <td>35人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>こども体験教室</td> <td>東初</td> <td>-</td> <td>20人</td> <td>18人</td> </tr> </tbody> </table>		事業名	館名	H27	H28	H29	子どもチャレンジ	北部	-	23人	92人	親子セミナー	南部	100人	115人	87人	親子おはなし会	南部	-	35人	-	こども体験教室	東初	-	20人	18人	 <p>子どもチャレンジ「こども書き初め講座」</p>		
	事業名	館名	H27	H28	H29																									
子どもチャレンジ	北部	-	23人	92人																										
親子セミナー	南部	100人	115人	87人																										
親子おはなし会	南部	-	35人	-																										
こども体験教室	東初	-	20人	18人																										
	 <p>南児童センター・南部公民館 南部地区社会福祉協議会共催事業 親子セミナー</p> <p>南児童センター・南部公民館 親子セミナー</p>		<p>南児童センター・南部公民館・ 南部地区社会福祉協議会共催事業 「親子セミナー」</p>																											
	<p>4 【今後の課題・取組み】</p> <p>○ 各種の学習機会を魅力あるものとするため、講座実施にあつては企画委員会などを設け、学習者である市民の意見を反映させます。児童センターなどの関係機関との連携を強化し、他の公民館でも実施に向けた検討を行います。</p>																													

目的	2) 生涯学習活動の推進	目的評価	(A・B・C)																																											
	2) -1-3 学習センター等での講座や研修会の実施(指導者養成)	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																																										
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 市民の学習活動を活発化するため、団体・グループの育成を図り、指導者の養成につとめます。																																													
	<b>2 【取組み】</b> ○ 「読み聞かせ」のボランティア活動をしている市民や市民団体を対象に、『読み聞かせボランティア・アドバンス研修会』を年3回開催しました。うち1回は、子育て中の保護者でも参加できるよう、一般市民も対象に実施し、広く参加を呼びかけました。 ○ 「望ましい社会教育団体活動のあり方」について啓発を含め、『サークル懇談会』を開催しました。 ○ フリースペースを効果的に活用し、東部学習センターでは新聞紙で作る避難所スリッパを使用したオブジェを展示することで、地区の方々の防災意識向上につなげました。北部公民館では県立鎌ヶ谷西高等学校美術部と協力し、高校生が作ったステンドグラスのオブジェを展示しました。実施にあたり指導者である部活顧問の先生などとの意見交換を行うことにより、地区を盛り上げる意識の醸成につなげました。 ○ 各中学校区で開催した「コミュニティスクール運営委員会」において、子どもの安全をテーマに最近のインターネット事情についてのDVD視聴及び意見交換を行い、自治会・子ども会など地域団体の代表と子どもの安全について議論することで、地域の教育力向上及び人材育成につながりました。																																													
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 生涯学習推進センターが主催して、「読み聞かせボランティアアドバンス研修会」を実施しました。																																													
	<table border="1" data-bbox="293 931 1008 1029"> <thead> <tr> <th>読み聞かせボランティアアドバンス研修会</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>137人</td> <td>108人</td> <td>145人</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="261 1052 1438 1087">※チラシ・広報等のPRのほか、ボランティアによる積極的な呼びかけにより参加者が増となりました。</p> <table border="1" data-bbox="293 1124 1252 1431"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>館名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サークル説明会</td> <td>東学</td> <td>72人</td> <td>120人</td> <td>108人</td> </tr> <tr> <td>サークル懇談会</td> <td>中央</td> <td>207人</td> <td>106人</td> <td>111人</td> </tr> <tr> <td>北部サークル懇談会</td> <td>北部</td> <td>48人</td> <td>48人</td> <td>48人</td> </tr> <tr> <td>サークル懇談会</td> <td>南部</td> <td>31人</td> <td>36人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>サークル懇談会</td> <td>東初</td> <td>33人</td> <td>47人</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>391人</td> <td>357人</td> <td>332人</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="217 1471 1490 1536">○ 行政、利用者が一体となり、よりよい公民館運営を行うため、サークル懇談会を実施しました。幅広い市民の方々が受けられるよう、つとめました。</p>				読み聞かせボランティアアドバンス研修会	H27	H28	H29		137人	108人	145人	事業名	館名	H27	H28	H29	サークル説明会	東学	72人	120人	108人	サークル懇談会	中央	207人	106人	111人	北部サークル懇談会	北部	48人	48人	48人	サークル懇談会	南部	31人	36人	25人	サークル懇談会	東初	33人	47人	40人	計		391人	357人
読み聞かせボランティアアドバンス研修会	H27	H28	H29																																											
	137人	108人	145人																																											
事業名	館名	H27	H28	H29																																										
サークル説明会	東学	72人	120人	108人																																										
サークル懇談会	中央	207人	106人	111人																																										
北部サークル懇談会	北部	48人	48人	48人																																										
サークル懇談会	南部	31人	36人	25人																																										
サークル懇談会	東初	33人	47人	40人																																										
計		391人	357人	332人																																										
<b>4 【今後の課題・取組み】</b> ○ 学習者である市民の意見を反映するため、アンケートを踏まえた講師の検討などを行い、企画段階から「ボランティア実践者」との協議を進め、その具現化につとめます。 ○ ギャラリー展示は、アイデア一つで、充実した情報を提供できるものであることから、使用者にアイデアを提供するため、今後もテーマパークなどの展示を研究しつつ、施設として使用予定のない期間にフリースペースを効果的に活用し展示を行います。																																														

目的	2) 生涯学習活動の推進	目的評価	(A・B・C)																																									
	2) -1-4 学習センター等での講座や研修会の実施(地域活動の促進・援助)	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																																								
	<b>1 【目標】</b> ○ 地域における自主的な交流や学習、情報交換など団体・グループの活動を促進し、ネットワークづくりを進めます。																																											
	<b>2 【取組み】</b> ○ 各学習センターでは地域活動の促進を図るため、各種団体と連携し、ふれあいまつりなどを開催しました。 ○ フリースペースを効果的に活用し、北部公民館では県立鎌ヶ谷西高等学校美術部の協力により、高校生が作ったステンドグラスのオブジェを展示しました。来館者の年齢層の幅が広がり、地域活動の促進につながりました。																																											
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 各学習センターではイベントを行い、地域活動の充実を図ることができました。																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>館名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部ふれあいまつり</td> <td>東学</td> <td>2,938人</td> <td>2,781人</td> <td>2,915人</td> </tr> <tr> <td>いきいきライフ教室</td> <td>東学</td> <td>5,670人</td> <td>6,112人</td> <td>5,374人</td> </tr> <tr> <td>中央公民館ふれあいまつり</td> <td>中央</td> <td>3,328人</td> <td>3,198人</td> <td>3,197人</td> </tr> <tr> <td>北部ふれあいまつり</td> <td>北部</td> <td>2,300人</td> <td>2,000人</td> <td>2,200人</td> </tr> <tr> <td>南部公民館まつり</td> <td>南部</td> <td>821人</td> <td>958人</td> <td>1,038人</td> </tr> <tr> <td>ひょうたんまつり</td> <td>東初</td> <td>611人</td> <td>890人</td> <td>982人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>15,668人</td> <td>15,939人</td> <td>15,706人</td> </tr> </tbody> </table>				事業名	館名	H27	H28	H29	東部ふれあいまつり	東学	2,938人	2,781人	2,915人	いきいきライフ教室	東学	5,670人	6,112人	5,374人	中央公民館ふれあいまつり	中央	3,328人	3,198人	3,197人	北部ふれあいまつり	北部	2,300人	2,000人	2,200人	南部公民館まつり	南部	821人	958人	1,038人	ひょうたんまつり	東初	611人	890人	982人	計		15,668人	15,939人	15,706人
事業名	館名	H27	H28	H29																																								
東部ふれあいまつり	東学	2,938人	2,781人	2,915人																																								
いきいきライフ教室	東学	5,670人	6,112人	5,374人																																								
中央公民館ふれあいまつり	中央	3,328人	3,198人	3,197人																																								
北部ふれあいまつり	北部	2,300人	2,000人	2,200人																																								
南部公民館まつり	南部	821人	958人	1,038人																																								
ひょうたんまつり	東初	611人	890人	982人																																								
計		15,668人	15,939人	15,706人																																								
	※いきいきライフ教室の参加者数は、講師の都合により実施日数が減ったため減少しました。																																											
評価対象項目・事業																																												
	東部ふれあいまつりでのサークル活動発表																																											
																																												
	中央公民館ふれあいまつり																																											
	<b>4 【今後の課題・取組み】</b> ○ 実施においては、各種団体との連携を図り、地域活動の促進につとめます。 ○ 幅広い年齢層をターゲットに、他の学習センターでも中学生や高校生を巻き込むなど、新しい取組みに挑戦します。																																											

目的	2) 生涯学習活動の推進	目的評価	(A・B・C)																									
	2) -1-5 学習センター等での講座や研修会の実施(芸術・文化活動の促進)	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																								
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 芸術・文化の鑑賞機会の提供や、市民の創作発表の機会や場の提供など、優れた芸術文化や郷土の文化を学ぶ機会や場を提供します。																											
	<b>2 【取組み】</b> ○ 北部公民館では「北部劇場」「北部クリスマスコンサート」を開催し、芸術・文化活動の促進を図りました。この催しについては、市民が参画する企画委員の意見を参考にしながら実施しました。 ○ 東部学習センターでは、東部市民セミナーの講座のカリキュラムの一つに、きらりホールコンサートの事業PRを兼ねたミニコンサートを、レインボーホールで実施しました。 ○ 南部公民館では、市民団体協働企画事業によるファミリーコンサートを実施するとともに、高校生を巻き込み県立鎌ヶ谷高等学校吹奏楽部によるクリスマスコンサートを実施しました。																											
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 各学習センターではコンサートや鑑賞会を行い、芸術文化にふれあう場を提供しました。 ○ 広報・チラシの配布のほか、地元の団体に直接声掛けをするなど周知に力を入れました。																											
	<table border="1" data-bbox="269 792 1170 1099"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>館名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北部劇場</td> <td>北部</td> <td>43人</td> <td>128人</td> <td>128人</td> </tr> <tr> <td>北部クリスマスコンサート</td> <td>北部</td> <td>74人</td> <td>116人</td> <td>124人</td> </tr> <tr> <td>東初富ファミリーコンサート</td> <td>東初</td> <td>102人</td> <td>105人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>219人</td> <td>349人</td> <td>252人</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="1227 792 1495 1117" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="365 1180 1453 1436">           ※ 東部学習センターの東部市民セミナーでは、公開講座として「音楽の楽しさにふれる」をテーマにミニコンサートを実施し146人の参加がありました。            ※ 南部公民館の鎌ヶ谷吹奏楽団によるファミリーコンサートでは112人の参加があり、県立鎌ヶ谷高等学校吹奏楽部によるクリスマスコンサートでは130人の参加がありました。            ※ 東初富ファミリーコンサートは、大規模改修工事により事業を休止しました。         </p> <div data-bbox="1105 1368 1382 1752" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="846 1703 1094 1733">北部劇場「うたごえ喫茶」</p>				事業名	館名	H27	H28	H29	北部劇場	北部	43人	128人	128人	北部クリスマスコンサート	北部	74人	116人	124人	東初富ファミリーコンサート	東初	102人	105人	-	計		219人	349人
事業名	館名	H27	H28	H29																								
北部劇場	北部	43人	128人	128人																								
北部クリスマスコンサート	北部	74人	116人	124人																								
東初富ファミリーコンサート	東初	102人	105人	-																								
計		219人	349人	252人																								
<b>4 【今後の課題・取組み】</b> ○ 市民が参画する企画委員などの市民の意見を参考に、より有意義なイベントの内容を精査・検討し、実施時期、実施方法を含め、市民が参加しやすいもの、興味のあるものは何か、という視点で内容を検討します。 ○ 多くの人に参加できるよう、早めの事業PRにつとめます。 ○ 各学習センターとも、「共有スペース」の活用を検討します(共有スペースでのコンサートの実施、展示の実施など)。																												

目的	2) 生涯学習活動の推進	目的評価	(A・B・C)																				
	2) -1-6 学習センター等での講座や研修会の実施(家庭教育の充実)	項目評価	(a・b・c・d・e)	C																			
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 家庭教育を支援するため、関係機関と連携し親子のふれあいや子育ての学習機会を提供します。																						
	<b>2 【取組み】</b> ○ 中央公民館では、募集対象として「一般市民」のなかでも、特に「子どもを持っている保護者」「子育てに興味ある人」を対象とした『市民セミナー(家庭教育セミナー)』を開催しました。 ○ 中学校区単位で開催する「コミュニティスクール運営委員会」を学習センターで開催し、最近のインターネット事情のDVD視聴や意見交換を行い、自治会・子ども会など地域団体の代表と子どもの安全について議論し、家庭教育・地域の教育力向上につなげました。 ○ 北部公民館では、北部小学校などの協力を得て家庭教育セミナーを実施しました。 ○ 東部学習センターでは、子育てコーディネーターによる「子育てコーディネーターの部屋」の実施のための場所を提供しました。																						
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 中央公民館では、地区の児童センターや青少年センターなどとの連携により、「親子のふれあい」や「子育て」に関する学習機会を提供し、事業を実施しました。																						
	<table border="1" data-bbox="256 873 1432 1055"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>館名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民セミナー(家庭教育セミナー)</td> <td>中央</td> <td>224人</td> <td>78人</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>北部家庭教育セミナー</td> <td>北部</td> <td>-</td> <td>30人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>224人</td> <td>108人</td> <td>60人</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="256 1141 1446 1210">※29年度の市民セミナー(家庭教育セミナー)は、講師の都合により実施回数が増えたため参加者数が減少しました。</p> <p data-bbox="256 1227 927 1357">※北部家庭教育セミナーは、27年度大規模改修工事による休館のため休止し、29年度は実施日を保護者などが参加しやすい土曜日としましたが、地区の他の行事と重複した影響で減少しました。</p> <div data-bbox="1052 1227 1367 1675">  <p>北部家庭教育セミナー  <b>こどものやる気スイッチ ON</b>  <b>ココロとカラダの発育について</b></p> <p>定日 2月24日(土)      時間 10時～12時      会場 鎌ヶ谷市北部公民館 大集會室      定員 30名 (2/1より申込先着順)</p> <p>講師: 矢野 篤史 氏      プロフィール: 元バスケットボール日本代表のスポーツ指導者。学習やスポーツ、子育てで活かせる強いメンタルや身体的な力を育む秘訣を伝授!</p> <p>お問い合わせ: 申込先 鎌ヶ谷市北部公民館【鎌ヶ谷市佐津間 63】 電話 047-446-1076</p> </div>				事業名	館名	H27	H28	H29	市民セミナー(家庭教育セミナー)	中央	224人	78人	45人	北部家庭教育セミナー	北部	-	30人	15人	計		224人	108人
事業名	館名	H27	H28	H29																			
市民セミナー(家庭教育セミナー)	中央	224人	78人	45人																			
北部家庭教育セミナー	北部	-	30人	15人																			
計		224人	108人	60人																			
<b>4 【今後の課題・取組み】</b> ○ 講座を魅力あるものとするため、創意工夫を凝らした内容の充実につとめます。これまで「講演会」を中心に行っていましたが、フリートキングなどを取り入れ、講師や参加者との交流を通じ、仲間づくりに結びつくような方法などを検討します。 ○ 事業企画前に学校の協力を仰ぎ、保護者へのアンケートなどからニーズを把握し、参加者が興味を引くテーマや実施時期・講師の人選などを検討し、参加しやすい事業実施を工夫します。																							

目的	3) 学習成果を活かす場づくり	目的評価	(A・B・C)	B																																		
評価対象項目・事業	3) -1 市民との協働による事業運営	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																																		
	<b>1 【目標】</b> ○ 地域における生涯学習推進者としてのボランティア及びボランティア団体との協働により、各学習センターの講座の企画運営などを行い、身近で魅力ある学習の場づくりを提供します。																																					
	<b>2 【取組み】</b> ○ 「いきいきライフ教室」「北部劇場」「新春初笑い寄席」「いきいき倶楽部」などの各種講座、イベントなど、ボランティア及びボランティア団体による企画委員会を組織して、講座を開催しました。講座の終了後にアンケートを行い、その結果を次の講座前に発表することで、アンケートの重要性を高めるなど工夫しました。																																					
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 市民との協働による事業運営を促進しました。 <table border="1" data-bbox="402 553 1279 785"> <thead> <tr> <th></th> <th>館名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いきいきライフ教室</td> <td>東学</td> <td>5,670人</td> <td>6,112人</td> <td>5,374人</td> </tr> <tr> <td>北部劇場</td> <td>北部</td> <td>43人</td> <td>128人</td> <td>128人</td> </tr> <tr> <td>新春初笑い寄席</td> <td>南部</td> <td>114人</td> <td>132人</td> <td>152人</td> </tr> <tr> <td>市民団体協働企画事業</td> <td>南部</td> <td>251人</td> <td>280人</td> <td>260人</td> </tr> <tr> <td>いきいき倶楽部</td> <td>東初</td> <td>304人</td> <td>313人</td> <td>268人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>6,382人</td> <td>6,965人</td> <td>6,182人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ いきいきライフ教室の参加者数は、講師の都合により実施日数が減ったため減少しました。</p> <p>※ 広報・チラシの配布の他、地元の団体に直接声掛けをするなど事業の周知に力を入れました。</p>					館名	H27	H28	H29	いきいきライフ教室	東学	5,670人	6,112人	5,374人	北部劇場	北部	43人	128人	128人	新春初笑い寄席	南部	114人	132人	152人	市民団体協働企画事業	南部	251人	280人	260人	いきいき倶楽部	東初	304人	313人	268人	計		6,382人	6,965人
	館名	H27	H28	H29																																		
いきいきライフ教室	東学	5,670人	6,112人	5,374人																																		
北部劇場	北部	43人	128人	128人																																		
新春初笑い寄席	南部	114人	132人	152人																																		
市民団体協働企画事業	南部	251人	280人	260人																																		
いきいき倶楽部	東初	304人	313人	268人																																		
計		6,382人	6,965人	6,182人																																		
<b>4 【今後の課題・取組み】</b> ○ いつでも、どこでも、どなたでも、講座の企画や事業運営などの市民ボランティア活動を活発に展開できる場を広く提供するよう検討します。 ○ 市民協働(中学生・高校生含む)による共有スペースの活用を検討します。 ○ 参加者が減少している事業は、より多くの人に参加できるよう、講座の編成や講座を運営する市民ボランティア組織を見直していきます。 ○ 検討から事業実施に至るまで事業運営に参画することで、まちへの故郷意識の醸成に繋げ、まち全体を「自分のこと」として捉えて頂けるような人材育成につとめます。																																						
	3) -2 学習成果の地域還元	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																																		
<b>1 【目標】</b> ○ 学習成果の還元と活用を図るため、発表の機会や展示の場を提供します。																																						
<b>2 【取組み】</b> ○ 「東部ふれあいまつり」「中央公民館ふれあいまつり」「北部ふれあいまつり」「南部公民館まつり」「東初富ひょうたんまつり」、各種サークルの学習成果の発表や展示など、施設ごとにサークルや自治会の代表者等による「実行委員会」を組織し、実施しました。																																						
<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 実施にあたって、各サークルが運営に関わることで、各サークル間の交流や地域の連帯感を醸成しました。 <table border="1" data-bbox="402 1622 1279 1854"> <thead> <tr> <th></th> <th>館名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部ふれあいまつり</td> <td>東学</td> <td>2,938人</td> <td>2,781人</td> <td>2,915人</td> </tr> <tr> <td>中央公民館ふれあいまつり</td> <td>中央</td> <td>3,328人</td> <td>3,198人</td> <td>3,197人</td> </tr> <tr> <td>北部ふれあいまつり</td> <td>北部</td> <td>2,300人</td> <td>2,000人</td> <td>2,200人</td> </tr> <tr> <td>南部公民館まつり</td> <td>南部</td> <td>821人</td> <td>958人</td> <td>1,038人</td> </tr> <tr> <td>東初富ひょうたんまつり</td> <td>東初</td> <td>611人</td> <td>890人</td> <td>982人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>9,998人</td> <td>9,827人</td> <td>10,332人</td> </tr> </tbody> </table>					館名	H27	H28	H29	東部ふれあいまつり	東学	2,938人	2,781人	2,915人	中央公民館ふれあいまつり	中央	3,328人	3,198人	3,197人	北部ふれあいまつり	北部	2,300人	2,000人	2,200人	南部公民館まつり	南部	821人	958人	1,038人	東初富ひょうたんまつり	東初	611人	890人	982人	計		9,998人	9,827人	10,332人
	館名	H27	H28	H29																																		
東部ふれあいまつり	東学	2,938人	2,781人	2,915人																																		
中央公民館ふれあいまつり	中央	3,328人	3,198人	3,197人																																		
北部ふれあいまつり	北部	2,300人	2,000人	2,200人																																		
南部公民館まつり	南部	821人	958人	1,038人																																		
東初富ひょうたんまつり	東初	611人	890人	982人																																		
計		9,998人	9,827人	10,332人																																		
<b>4 【今後の課題・取組み】</b> ○ 学習成果の還元方法について、常に現状維持というよりも、工夫を重ねながら、関係団体と協議を行います。加えて「それぞれの地区が盛り上がるか」などの視点を入れながら、創意工夫することで「挑戦」を演出し、今後も実施します。																																						

政策	I 生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	評価欄																		
施策	2 生涯スポーツ・レクリエーションの振興	政策評価	(A・B・C)	B																
目的	1) スポーツ活動の充実	目的評価	(A・B・C)	A																
	1) -1 スポーツ・イベント活動の取り組み	項目評価	(a・b・c・d・e)	a																
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 生涯スポーツによる体力づくりや健康づくりへの意識を育むとともに生涯の各段階に応じたスポーツ・レクリエーション活動の機会を提供するため、市民参加型のイベントや行事を開催します。																			
	<b>2 【取組み】</b> ○ 市民参加型のイベントとして、新春マラソン大会や長寿大運動会を実施しました。 ○ 市が架け橋となり、市民と北海道日本ハムファイターズとの交流機会を設け、地元愛の醸成とプロ野球球団の活性化を図ることを目的として、北海道日本ハムファイターズと野球教室、鎌ヶ谷ランフェスタなどの連携事業を実施しました。 ○ 北海道日本ハムファイターズを誘致し、ファイターズ鎌ヶ谷スタジアムが開場して20周年となることから、市とファイターズが、連携して20周年記念事業を実施しました。																			
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 市民参加型のイベント等の実施結果は右の表のとおりです。																			
	○ 新春マラソン大会は、参加者数は、減少しましたが、引続き2,000人以上の参加がありました。親子の部も前回大会同様100組以上の参加がありました。		<b>■新春マラソン大会</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申込人数</td> <td>2,191人</td> <td>2,494人</td> <td>2,367人</td> </tr> <tr> <td>当日受付</td> <td>2,072人</td> <td>2,281人</td> <td>2,109人</td> </tr> <tr> <td>完走者数</td> <td>1,956人</td> <td>2,165人</td> <td>1,950人</td> </tr> </tbody> </table>			H27	H28	H29	申込人数	2,191人	2,494人	2,367人	当日受付	2,072人	2,281人	2,109人	完走者数	1,956人	2,165人	1,950人
		H27	H28	H29																
	申込人数	2,191人	2,494人	2,367人																
	当日受付	2,072人	2,281人	2,109人																
	完走者数	1,956人	2,165人	1,950人																
	○ 長寿大運動会・ソフトバレーボール大会ともに前年度より、参加者が増加しました。		<b>■長寿大運動会</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>353人</td> <td>329人</td> <td>374人</td> </tr> </tbody> </table>			H27	H28	H29	参加者数	353人	329人	374人								
		H27	H28	H29																
参加者数	353人	329人	374人																	
○ 北海道日本ハムファイターズとの連携事業の少年野球教室終了後は現役選手によるデモンストラクションや、サイン会が行われ、北海道日本ハムファイターズを応援しようという気運が高まりました。 また、ファイターズの試合開始の際にキッズスターターやボールボーイ体験等を実施することで、プロ野球球団と市民との積極的な交流を図りました。		<b>■ソフトバレーボール大会</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>211人</td> <td>179人</td> <td>191人</td> </tr> </tbody> </table>			H27	H28	H29	参加者数	211人	179人	191人									
	H27	H28	H29																	
参加者数	211人	179人	191人																	
○ ※ 北海道日本ハムファイターズとの主な連携事業の内容		<b>■北海道日本ハムファイターズとの主な連携事業※</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>1,106人</td> <td>1,751人</td> <td>1,938人</td> </tr> </tbody> </table>			H27	H28	H29	参加者数	1,106人	1,751人	1,938人									
	H27	H28	H29																	
参加者数	1,106人	1,751人	1,938人																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鎌ヶ谷ランフェスタ 参加者:1,674人</li> <li>・ 軽スポーツ(ランニングデー) 参加者:140人(2回実施)</li> <li>・ 少年野球教室 参加者:124人</li> </ul>		 <p>Fighters応援看板 (東武野田線鎌ヶ谷駅)</p>																		
○ 20周年記念事業として、次の事業を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20周年記念懸垂幕の設置</li> <li>・ 鎌スタ☆開場20周年給食の実施</li> <li>・ C☆Bのイルミネーションの作成</li> <li>・ 東武野田線鎌ヶ谷駅・新鎌ヶ谷駅に応援看板の設置</li> </ul>		 <p>C☆Bのイルミネーション</p>																		
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 長寿大運動会や、ソフトバレーボール大会などの参加者を今後も増加させるため、より一層の広報活動を行い、市内の競技人口増加を図ります。 ○ 市民がスポーツに興味・関心をもてる場の提供が必要なため、既存の市民参加型イベント事業の検証を行い、親子が参加可能なものや、目的や体力に応じたスポーツ・イベント活動の場の提供に引き続きつとめます。 ○ 各世代に対応できるような軽スポーツイベントを、地域資源であるファイターズ鎌ヶ谷スタジアムなどを活用して、北海道日本ハムファイターズと連携して実施します。																				

目的	1) スポーツ活動の充実	目的評価	(A・B・C)																																
	1) -2 スポーツ推進委員活動の促進	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																															
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ だれでも気軽に参加できる地域スポーツ活動の場を提供します。																																		
	<b>2 【取組み】</b> ○ 地域スポーツ活動として市民からなるスポーツ推進委員を中心に各地域において、みんなのスポーツDAYなどのスポーツイベントを開催しました。 ○ だれでも楽しめる軽スポーツや既定の競技だけでなく、スポーツ推進委員の創意工夫によるスポーツを用意し、高齢者から幼児までスポーツにふれる機会を設けました。																																		
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ みんなのスポーツDAYを行い、バドミントンやソフトバレーボール、トランプリンなどを実施することで、10歳未満の子どもから70歳代の方までの幅広い世代の方の参加があり、だれでも気軽にスポーツを楽しめる場を提供しました。 ○ 地域の団体から、グラウンド・ゴルフ講習やバグジー大会などの講師として、スポーツ推進委員に8回の派遣要請があり、実技講習等を行いました。																																		
	<table border="1" data-bbox="719 629 1385 892"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>親子ドッジボール</td> <td>54人</td> <td>62人</td> <td>95人</td> </tr> <tr> <td>軽スポーツ</td> <td>110人</td> <td>91人</td> <td>80人</td> </tr> <tr> <td>グラウンド・ゴルフ</td> <td>13人</td> <td>17人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>ウォーキング</td> <td>14人</td> <td>13人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>ボールウォーキング</td> <td>67人</td> <td>60人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>みんなのスポーツDAY</td> <td>290人</td> <td>151人</td> <td>294人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>548人</td> <td>394人</td> <td>543人</td> </tr> </tbody> </table>			H27	H28	H29	親子ドッジボール	54人	62人	95人	軽スポーツ	110人	91人	80人	グラウンド・ゴルフ	13人	17人	15人	ウォーキング	14人	13人	27人	ボールウォーキング	67人	60人	32人	みんなのスポーツDAY	290人	151人	294人	合計	548人	394人	543人	※バグジーとは： 約15cm角のビーンバッグを、傾斜したボードに向かってアンダースローで投げ、得点を競うゲームです。 ※28年度のスポーツDAYの参加者数の減少は、通年4回開催していたものが、体育館の空き状況により、3回の利用にとどまり、そのうちの1回も千葉県から依頼のあった体力測定を実施したためです。
	H27	H28	H29																																
親子ドッジボール	54人	62人	95人																																
軽スポーツ	110人	91人	80人																																
グラウンド・ゴルフ	13人	17人	15人																																
ウォーキング	14人	13人	27人																																
ボールウォーキング	67人	60人	32人																																
みんなのスポーツDAY	290人	151人	294人																																
合計	548人	394人	543人																																
																																			
<p style="text-align: center;">みんな仲良く(みんなのスポーツDAY)</p>		<p style="text-align: center;">青空のもと、のびのびプレー</p>																																	
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 引き続き、スポーツ推進委員連絡協議会の育成及び活性化を図ります。 ○ いつでも、どこでも、だれでも、気軽に参加できるスポーツ推進委員の事業の一層のPRに努め、市民のスポーツ機会の提供につとめます。 ○ スポーツ推進委員個々の得意分野により地域スポーツ活動の活性化を図り、新たな参加者を取り込む工夫をしていきます。 ○ 新たなスポーツ推進委員を委嘱し、委員の活性化を図るとともに、千葉県の初任者研修会に参加することにより、その技能向上を図ります。																																			

目的	2) スポーツ関係団体・指導者の育成	目的評価	(A・B・C)	B																			
評価対象項目・事業	2) -1 体育協会加盟団体の育成	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																			
	<b>1 【目標】</b> ○ 市民体育大会の開催などを通じて、体育協会加盟団体の育成を図ります。																						
	<b>2 【取組み】</b> ○ 市民体育館を中心としたスポーツ施設にて、野球、バレーボール、空手、剣道、バスケットボール、グラウンドゴルフ等の市民体育大会を開催しました。 ○ 初心者講習会を開催して、競技人口の増加を図りました。 ○ 加入者の増加を図るため、体育協会広報誌を各施設へ設置し、配布したほか、各協会および協会加盟の各チームの会員募集のチラシを市民体育館に掲示するなどして、広報(PR)活動につとめました。																						
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 29年度は、弓道協会の加盟により、体育協会加盟の団体数が増加しました。 <table border="1" data-bbox="721 629 1414 808" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>体育協会登録数</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大人</td> <td>3,382人</td> <td>3,401人</td> <td>3,788人</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>1,536人</td> <td>1,579人</td> <td>1,081人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,918人</td> <td>4,980人</td> <td>4,869人</td> </tr> <tr> <td>体育協会登録団体数</td> <td>26団体</td> <td>27団体</td> <td>28団体</td> </tr> </tbody> </table> ○ ソフトテニスとペタンクについては、競技人口の増加を図るため、例年、初心者講習会を開催しています。				体育協会登録数	H27	H28	H29	大人	3,382人	3,401人	3,788人	子ども	1,536人	1,579人	1,081人	合計	4,918人	4,980人	4,869人	体育協会登録団体数	26団体	27団体
体育協会登録数	H27	H28	H29																				
大人	3,382人	3,401人	3,788人																				
子ども	1,536人	1,579人	1,081人																				
合計	4,918人	4,980人	4,869人																				
体育協会登録団体数	26団体	27団体	28団体																				
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 個々の団体の加入者が伸び悩んでいる状況が続いているため、今後も、各協会および協会加盟の各チームからの広報(PR)活動等を積極的に行う等、指導するようつとめます。また、多様な活動に対応するため、新たな競技への加入への促進を図ります。 ○ 初心者講習会の開催について、他の競技団体への働きかけを行います。																							
	2) -2 スポーツ少年団の育成	項目評価	(a・b・c・d・e)	a																			
	<b>1 【目標】</b> ○ スポーツ少年団の活動を実施することで、青少年の健全育成を目指します。																						
	<b>2 【取組み】</b> ○ 認定員養成講習会を実施することで、指導者の育成を行います。 ○ 千葉県等が実施するリーダースクールなどに参加することで、青少年の活動を活発化させます。 ○ チラシ配布などをおこない、新規の団員や単位団の加盟を図ります。 ○ 交流大会などに積極的に参加することで、スポーツを楽しむ場を増やします。																						
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 29年度は、少林寺拳法の団体の加盟により、スポーツ少年団の加盟団体が増加しました。 <table border="1" data-bbox="691 1471 1430 1638" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>スポーツ少年団登録数</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大人(指導者)</td> <td>44人</td> <td>44人</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>子ども(団員)</td> <td>168人</td> <td>147人</td> <td>147人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>212人</td> <td>191人</td> <td>211人</td> </tr> <tr> <td>スポーツ少年団登録団体数</td> <td>8団体</td> <td>8団体</td> <td>9団体</td> </tr> </tbody> </table> ○ 鎌ケ谷市にて認定員養成講習会を実施し、千葉県内94人の指導者が認定員資格を取得しました。 ○ 千葉県交流大会において、バドミントン・空手競技の部で優秀な成績を収め関東大会に出場しました。 ○ 千葉県主催のジュニアリーダースクールに6人の団員が参加しました。				スポーツ少年団登録数	H27	H28	H29	大人(指導者)	44人	44人	54人	子ども(団員)	168人	147人	147人	合計	212人	191人	211人	スポーツ少年団登録団体数	8団体	8団体
スポーツ少年団登録数	H27	H28	H29																				
大人(指導者)	44人	44人	54人																				
子ども(団員)	168人	147人	147人																				
合計	212人	191人	211人																				
スポーツ少年団登録団体数	8団体	8団体	9団体																				
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ スポーツ少年団以外にも、交流大会などの単一スポーツの大会出場が目的の団体が多くあるため、地域交流大会やリーダースクールなどの単一スポーツ以外の活動にも積極的に参加するよう呼びかけます。 ○ 鎌ケ谷市スポーツ少年団に加盟している団体は、現在のところ9団体・主な種目は4種目のため、積極的に新たな団体の普及、勧誘活動を行います。																							

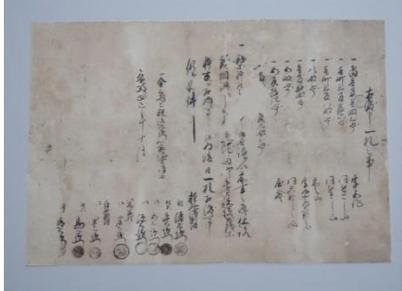
目的	3) スポーツ施設の整備・充実	目的評価	(A・B・C)	B																				
	3) -1 スポーツ施設の整備・充実	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																				
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ スポーツ施設の管理運営を代行する指定管理者への監督指導やスポーツ施設の適切な維持補修につとめ、市民サービスの向上を図ります。																							
	<b>2 【取組み】</b> ○ スポーツ施設10施設は指定管理者制度を導入しており、28年度からの5年間の指定管理の指定にあわせて、弓道場・アーチェリー場を指定管理施設に含めて、運営しました。 ○ 指定管理者に対しモニタリングを毎月行い、業務評価を実施しました。 ○ スポーツ施設の改修のための設計を行いました。																							
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 毎月の指定管理者への監督指導 ①モニタリングの実施 ②業務評価委員会の開催 ○ 主な施設の改修 ①陸上競技場改修設計																							
	<table border="1" data-bbox="289 815 922 920"> <thead> <tr> <th>教室事業</th> <th colspan="2">H27</th> <th colspan="2">H28</th> <th colspan="2">H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>弓道教室</td> <td>1回</td> <td>15人</td> <td>1回</td> <td>15人</td> <td>1回</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>アーチェリー教室</td> <td>6回</td> <td>24人</td> <td>6回</td> <td>17人</td> <td>3回</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="954 483 1463 845"></p> <p data-bbox="954 855 1463 915">トラックの全天候とフィールドの人工芝化を行います (陸上競技場)</p> <p data-bbox="207 962 1492 1064">○ 26年度から供用開始した、弓道場・アーチェリー場において、市直営時と同様に、教室事業を実施することで、利用者の拡大を図っています。なお、アーチェリー場については、これまで実施してきた教室参加者が継続して競技を行う者も多く、競技人口の増加に大きく寄与しています。</p>				教室事業	H27		H28		H29		弓道教室	1回	15人	1回	15人	1回	15人	アーチェリー教室	6回	24人	6回	17人	3回
教室事業	H27		H28		H29																			
弓道教室	1回	15人	1回	15人	1回	15人																		
アーチェリー教室	6回	24人	6回	17人	3回	11人																		
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 指定管理者の管理運営業務について、業務履行の確保及びサービスの質や安定性の確保のため、継続した事業評価につとめます。 ○ 今後も引き続き、指定管理者とのモニタリングを通して、施設管理者や利用者の声を聞きながら、利便性の高い施設をめざします。 ○ 多くのスポーツ施設が老朽化しているため、公共施設等総合管理計画などと整合性を図りながら、計画的に改修を行うとともに多種多様なニーズに対応するようつとめます。 ○ 日本陸上競技連盟第4種公認取得をめざし、陸上競技場を改修します。 ○ 東初富テニスコートの大規模改修工事を行います。 ○ スポーツ施設の利便性向上を図るため、四本柵駐車場を整備します。																								
																								
全面人工芝張替えでリニューアル (東初富テニスコート)																								

目的	3) スポーツ施設の整備・充実	目的評価	(A・B・C)	
	3) -2 民間事業者との協働による財源確保	項目評価	(a・b・c・d・e)	b
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 民間事業者等との協働により市の新たな財源を確保し、市民サービス向上及び施設の良好な維持・運営を図ります。			
	<b>2 【取組み】</b> ○ 契約に基づき、ネーミングライツ(施設命名権)を継続しました。 (契約期間:27年11月1日～30年10月31日) ○ 体育施設の広告掲出については、広告掲出者と継続の協議を行いました。			
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ ネーミングライツ施設:①福太郎アリーナ(市民体育館) ②福太郎スタジアム(市営陸上競技場) ③福太郎野球場(市営野球場) ④福太郎テニスコート(市営庭球場)  体育施設への広告掲出:福太郎アリーナ(1件) <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">企業の宣伝効果もグーンとアップ</p>			
	<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 30年度中に、ネーミングライツの契約が満了となるため、引き続き、ネーミングライツを継続し、財源の確保及び広告掲出が可能となるよう交渉してまいります。 ○ 30年度の契約満了を契機に他のスポーツ施設にもネーミングライツを導入することを検討してまいります。			

政策	I 生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	評価欄																																																												
施策	3 芸術・文化の振興	政策評価	(A・B・C)	B																																																										
目的	1) 多様な市民文化活動の推進	目的評価	(A・B・C)	B																																																										
	1) -1 芸術鑑賞事業	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																																																										
評価対象項目・事業	1 【目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 優れた芸術にふれる機会として、古典芸能に対する興味と関心を喚起し、また、芸術作品の鑑賞能力を高め、豊かな情操の涵養に資するため、鑑賞機会を広く提供します。</li> <li>○ きらりホール主催公演を中心として、市民に優れた芸術文化を鑑賞する場、機会を提供します。</li> </ul>																																																												
	2 【取組み】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国立能楽堂での能楽鑑賞教室、国立劇場での歌舞伎鑑賞教室・文楽鑑賞教室、ホキ美術館での美術鑑賞教室を開催しました。4事業の中であまり知られていない文楽鑑賞教室については、引き続きチラシを作成して市内各公共施設に設置し、周知しました。</li> <li>○ きらりホールでは、アーティスト発掘を目的としたオープンコンテストの実施を始めとして、コンサート(ジャズ、クラシック、ポップス)、映画、ミュージカル、漫才、オペラなど幅広いジャンルの公演を、9事業19公演実施しました。その他、訪問型のミニコンサートを幼稚園・保育園で実施、招待型のミニコンサート(こども発達センターに通所する子どもたちをきらりホールへ招待)を実施しました。</li> </ul>																																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>H29きらりホール主催事業</th> <th>公演数</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>きらりかまがや第1回アーティスト発掘プロジェクト</td> <td>1回</td> <td>6/11</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>きらり☆シネマvol4「ももへの手紙」/vol5「しゃべれどもしゃべれども」/vol6「ほくたちの家族」/vol7「ディア・ドクター」</td> <td>8回(各2回公演)</td> <td>7/22、10/7、1/6、3/9</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ミュージカル「シンドバッドの冒険」</td> <td>1回</td> <td>8/5</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Castle In The Air with 谷川公子+渡辺香津美 ツアー2017&lt;&lt;命の輝き/光る風&gt;&gt;</td> <td>1回</td> <td>9/9</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>笑いの殿堂!きらり浅草漫才4</td> <td>1回</td> <td>11/23</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第3回 かまがや市民創作ミュージカル「ためき」</td> <td>2回</td> <td>12/16・17</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「0歳からのマリンバトヴィブラフォンコンサート～泣いて騒いで疲れて眠って～vol2」 「大～寒(オーサム)コンサート」</td> <td>2回(各1回公演)</td> <td>1/20</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>超チェロ組コンサート</td> <td>1回</td> <td>2/17</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>0歳から入場可 おやこでたのしむオペラ「シンデレラ物語」</td> <td>2回</td> <td>3/18</td> </tr> </tbody> </table>			No.	H29きらりホール主催事業	公演数	実施日	1	きらりかまがや第1回アーティスト発掘プロジェクト	1回	6/11	2	きらり☆シネマvol4「ももへの手紙」/vol5「しゃべれどもしゃべれども」/vol6「ほくたちの家族」/vol7「ディア・ドクター」	8回(各2回公演)	7/22、10/7、1/6、3/9	3	ミュージカル「シンドバッドの冒険」	1回	8/5	4	Castle In The Air with 谷川公子+渡辺香津美 ツアー2017<<命の輝き/光る風>>	1回	9/9	5	笑いの殿堂!きらり浅草漫才4	1回	11/23	6	第3回 かまがや市民創作ミュージカル「ためき」	2回	12/16・17	7	「0歳からのマリンバトヴィブラフォンコンサート～泣いて騒いで疲れて眠って～vol2」 「大～寒(オーサム)コンサート」	2回(各1回公演)	1/20	8	超チェロ組コンサート	1回	2/17	9	0歳から入場可 おやこでたのしむオペラ「シンデレラ物語」	2回	3/18																		
	No.	H29きらりホール主催事業	公演数	実施日																																																										
	1	きらりかまがや第1回アーティスト発掘プロジェクト	1回	6/11																																																										
	2	きらり☆シネマvol4「ももへの手紙」/vol5「しゃべれどもしゃべれども」/vol6「ほくたちの家族」/vol7「ディア・ドクター」	8回(各2回公演)	7/22、10/7、1/6、3/9																																																										
	3	ミュージカル「シンドバッドの冒険」	1回	8/5																																																										
	4	Castle In The Air with 谷川公子+渡辺香津美 ツアー2017<<命の輝き/光る風>>	1回	9/9																																																										
	5	笑いの殿堂!きらり浅草漫才4	1回	11/23																																																										
	6	第3回 かまがや市民創作ミュージカル「ためき」	2回	12/16・17																																																										
7	「0歳からのマリンバトヴィブラフォンコンサート～泣いて騒いで疲れて眠って～vol2」 「大～寒(オーサム)コンサート」	2回(各1回公演)	1/20																																																											
8	超チェロ組コンサート	1回	2/17																																																											
9	0歳から入場可 おやこでたのしむオペラ「シンデレラ物語」	2回	3/18																																																											
3 【実施結果・成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 芸術鑑賞教室の実施結果は次のとおりです。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業名</th> <th colspan="3">H27</th> <th colspan="3">H28</th> <th colspan="3">H29</th> </tr> <tr> <th>参加者数</th> <th>うち新規参加者数</th> <th>累計参加者数</th> <th>参加者数</th> <th>うち新規参加者数</th> <th>累計参加者数</th> <th>参加者数</th> <th>うち新規参加者数</th> <th>累計参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国立能楽堂能楽鑑賞教室</td> <td>42人</td> <td>39人</td> <td>1,190人</td> <td>42人</td> <td>14人</td> <td>1,355人</td> <td>42人</td> <td>19人</td> <td>1,521人</td> </tr> <tr> <td>国立劇場歌舞伎鑑賞教室</td> <td>41人</td> <td>39人</td> <td>1,231人</td> <td>42人</td> <td>37人</td> <td>1,397人</td> <td>42人</td> <td>37人</td> <td>1,563人</td> </tr> <tr> <td>国立劇場文楽鑑賞教室</td> <td>42人</td> <td>6人</td> <td>1,273人</td> <td>40人</td> <td>23人</td> <td>1,437人</td> <td>42人</td> <td>23人</td> <td>1,605人</td> </tr> <tr> <td>ホキ美術館美術鑑賞教室</td> <td>40人</td> <td>31人</td> <td>1,313人</td> <td>42人</td> <td>39人</td> <td>1,479人</td> <td>37人</td> <td>34人</td> <td>1,642人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※29年度ホキ美術館美術鑑賞教室は、バスの定員の関係で、参加者の定員が38名となっております。</p> <p>※芸術鑑賞教室事業の参加人数については、バスによる定員が限られていることから、新規参加者数及び累計参加者数の推移を見ることで、どのくらいの市民がその機会を得られ、また、新たにその機会を得たのかを検証するものとします。</p>			事業名	H27			H28			H29			参加者数	うち新規参加者数	累計参加者数	参加者数	うち新規参加者数	累計参加者数	参加者数	うち新規参加者数	累計参加者数	国立能楽堂能楽鑑賞教室	42人	39人	1,190人	42人	14人	1,355人	42人	19人	1,521人	国立劇場歌舞伎鑑賞教室	41人	39人	1,231人	42人	37人	1,397人	42人	37人	1,563人	国立劇場文楽鑑賞教室	42人	6人	1,273人	40人	23人	1,437人	42人	23人	1,605人	ホキ美術館美術鑑賞教室	40人	31人	1,313人	42人	39人	1,479人	37人	34人	1,642人
事業名	H27				H28			H29																																																						
	参加者数	うち新規参加者数	累計参加者数	参加者数	うち新規参加者数	累計参加者数	参加者数	うち新規参加者数	累計参加者数																																																					
国立能楽堂能楽鑑賞教室	42人	39人	1,190人	42人	14人	1,355人	42人	19人	1,521人																																																					
国立劇場歌舞伎鑑賞教室	41人	39人	1,231人	42人	37人	1,397人	42人	37人	1,563人																																																					
国立劇場文楽鑑賞教室	42人	6人	1,273人	40人	23人	1,437人	42人	23人	1,605人																																																					
ホキ美術館美術鑑賞教室	40人	31人	1,313人	42人	39人	1,479人	37人	34人	1,642人																																																					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ きらりホールにおいて、市民へ芸術鑑賞の機会を提供しました。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主催事業(きらりホール)</td> <td>5,614人</td> <td>5,854人</td> <td>5,130人</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td>15事業18公演</td> <td>11事業19公演</td> <td>9事業19公演</td> </tr> </tbody> </table>				H27	H28	H29	主催事業(きらりホール)	5,614人	5,854人	5,130人	備考	15事業18公演	11事業19公演	9事業19公演																																															
	H27	H28	H29																																																											
主催事業(きらりホール)	5,614人	5,854人	5,130人																																																											
備考	15事業18公演	11事業19公演	9事業19公演																																																											
																																																														
4 【課題・今後の取組み】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 芸術鑑賞教室の実施にあたっては、広報を充実させるなど、周知の工夫につとめます。国立能楽堂や国立劇場の実施期間が短いため、均等な参加機会の観点から1公演の申込みが限られていることや、1回で対応できる人数に限りがあることから、引き続き定員を設定して実施します。</li> <li>○ きらりホールでは、アーティスト発掘プロジェクトの優秀賞等受賞者に、市内での活躍の場を提供します。その他、29年度と同様に幅広いジャンルの公演を行うとともに、訪問型のミニコンサートを行う施設等を増やします。29年度主催事業の来場者数が減少したことから、周知について、工夫につとめます。</li> <li>○ 引き続き、文化・スポーツ課では優れた古典芸術を中心に、その鑑賞機会の提供として、芸術鑑賞教室事業を行い、市民会館では主に鑑賞や発表の場の提供として、きらりホールでの「芸術鑑賞事業」を実施します。</li> </ul>																																																													

目的	1) 多様な市民文化活動の推進	目的評価	(A・B・C)																													
	1) -2 芸術文化活動の支援	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																												
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 地域文化の充実を進めるため、市は市民団体等と連携を図りながら参加団体や活動人員のすそ野を広げるため、参加機会の創出を図ります。 ○ きらりホールにて市民参加型の公演を行い、市民の自発的で多様な文化活動を促進します。																															
	<b>2 【取組み】</b> ○ 市民の日ごろの芸術文化活動の成果を発表する機会として市民文化祭及び美術展覧会を開催するとともに、芸術文化の第一人者の講演を聴く機会として芸術文化協会との共催により文化講演会を開催しました。 ○ 市内小中高校の音楽教育等に資するために、発表の場、部活動の練習の場として、きらりホールが利用されました。 ○ 市民創作ミュージカルや中高生向けの舞台ワークショップを実施し、市民が気軽に芸術文化に親しめる機会や、舞台に立つ機会を提供するとともに、人材の育成を行いました。 ○ 一般参加者がプロの指導を受けて、プロと一緒に舞台に立つ機会を提供しました。																															
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 市民の芸術文化活動の実施結果は次のとおりです。 <table border="1" data-bbox="690 808 1352 948" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民文化祭来場者数</td> <td>8,990人</td> <td>8,895人</td> <td>7,666人</td> </tr> <tr> <td>美術展覧会来場者数</td> <td>1,147人</td> <td>1,930人</td> <td>1,492人</td> </tr> <tr> <td>文化講演会参加者数</td> <td>250人</td> <td>126人</td> <td>350人</td> </tr> </tbody> </table> ○ 気軽に芸術文化にふれる機会として、市民文化祭で指導者による箏・尺八及び書道の無料体験コーナーを実施し、市内小学校や児童センター、図書館、実施会場でのポスター掲示や市ホームページによる周知を行い、子どもを中心に35人が参加しました。 ○ 市民創作ミュージカルの参加状況は以下のとおりです。 <table border="1" data-bbox="256 1087 1031 1220" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民創作ミュージカル出演者数</td> <td>31人</td> <td>30人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>市民創作ミュージカルボランティア数</td> <td>-</td> <td>6人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>				事業名	H27	H28	H29	市民文化祭来場者数	8,990人	8,895人	7,666人	美術展覧会来場者数	1,147人	1,930人	1,492人	文化講演会参加者数	250人	126人	350人		H27	H28	H29	市民創作ミュージカル出演者数	31人	30人	33人	市民創作ミュージカルボランティア数	-	6人	12人
	事業名	H27	H28	H29																												
	市民文化祭来場者数	8,990人	8,895人	7,666人																												
	美術展覧会来場者数	1,147人	1,930人	1,492人																												
	文化講演会参加者数	250人	126人	350人																												
		H27	H28	H29																												
	市民創作ミュージカル出演者数	31人	30人	33人																												
	市民創作ミュージカルボランティア数	-	6人	12人																												
○ 29年度、きらりホールで実施した事業(ワークショップ)への参加状況は以下のとおりです。 <table border="1" data-bbox="256 1285 1479 1443" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>参加者数</th> <th>年代</th> <th>日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超チェロ組コンサート 一般チェリストワークショップ</td> <td>30人</td> <td>10代～60代</td> <td>4日</td> </tr> <tr> <td>おやこでたのしむオペラ「シンデレラ物語」出演者ワークショップ</td> <td>37人</td> <td>4歳以上～小学生</td> <td>4日</td> </tr> <tr> <td>中高生向け舞台ワークショップ(2月11日)</td> <td>6人</td> <td>中学生・高校生</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td>中高生向け舞台ワークショップ(2月22日)</td> <td>12人</td> <td>中学生・高校生</td> <td>1日</td> </tr> </tbody> </table>					参加者数	年代	日数	超チェロ組コンサート 一般チェリストワークショップ	30人	10代～60代	4日	おやこでたのしむオペラ「シンデレラ物語」出演者ワークショップ	37人	4歳以上～小学生	4日	中高生向け舞台ワークショップ(2月11日)	6人	中学生・高校生	1日	中高生向け舞台ワークショップ(2月22日)	12人	中学生・高校生	1日									
	参加者数	年代	日数																													
超チェロ組コンサート 一般チェリストワークショップ	30人	10代～60代	4日																													
おやこでたのしむオペラ「シンデレラ物語」出演者ワークショップ	37人	4歳以上～小学生	4日																													
中高生向け舞台ワークショップ(2月11日)	6人	中学生・高校生	1日																													
中高生向け舞台ワークショップ(2月22日)	12人	中学生・高校生	1日																													
																																
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 引き続き、地域文化の充実のため、良質な芸術文化の鑑賞機会の提供及び市民の芸術文化活動の成果を発表する場や機会の提供をします。 ○ 参加者のすそ野を広げるため、市民文化祭での無料体験コーナーを引き続き実施するとともに、市内各小学校や児童センター、実施会場等へのポスター掲示や市ホームページにおける周知を行います。また、各行事について周知の工夫を行い、参加者数の増加を図ります。 ○ きらりホールでは、舞台に立つ楽しさや面白さを体験できる舞台ワークショップを実施し、若者世代を中心とした人材育成を行います。 ○ 引き続き、市民創作ミュージカルに取り組みます。出演者募集と共に、ボランティアスタッフの募集を行い、自主的に文化活動を行える市民の充実を図ります。																																

目的	2) 歴史・文化遺産の保存・継承・活用の推進	目的評価	(A・B・C)	B																
	2) -1 埋蔵文化財発掘調査事業	項目評価	(a・b・c・d・e)	a																
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 都市化が進み、宅地開発等が進行するなかにあつて、市内に所在する埋蔵文化財は、地域の歴史・文化を正しく理解するうえで重要であるため、各種開発に先立ち記録保存を目的とする発掘調査を実施します。																			
	<b>2 【取組み】</b> ○ 埋蔵文化財の所在について確認のあったもののうち、周知遺跡の確認調査を実施し、調査概報を刊行しました。 ○ 28年度に本調査を行った一本松遺跡の整理作業を行いました。																			
<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 発掘調査の実施結果は次のとおりです。																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>発掘調査件数</th> <th>区分</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">発掘調査</td> <td>確認調査</td> <td>8件</td> <td>5件</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>本調査</td> <td>0件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> </tbody> </table>					発掘調査件数	区分	H27	H28	H29	発掘調査	確認調査	8件	5件	9件	本調査	0件	1件	1件		
発掘調査件数	区分	H27	H28	H29																
発掘調査	確認調査	8件	5件	9件																
	本調査	0件	1件	1件																
○ 発掘調査を実施することにより、埋蔵文化財の記録保存を図ることができました。 ○ 一本松遺跡の整理作業について、29年度中に予定していた分の整理作業を実施しました。																				
<b>【課題・今後の取組み】</b> ○ 埋蔵文化財の発掘調査は、民間開発等を要因として発生するため、計画的に実施することが困難ですが、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整については、今後も円滑かつ迅速に対応します。 ○ 引き続き28年度に本調査を行った一本松遺跡の整理作業、調査成果の分析作業を進めます。 ○ 発掘調査の重要性を市民に認識してもらうため、発掘調査の成果の一部を30年度中に市ホームページに掲載します。																				
	2) -2 国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業	項目評価	(a・b・c・d・e)	C																
<b>1 【目標】</b> ○ 国史跡下総小金中野牧跡を広く周知・普及するため、市民や市民団体の代表者から構成される国史跡周知普及実行委員会により、各種事業を実施します。 ○ 捕込の草刈りを定期的実施するなど、史跡の適切な管理を行います。																				
<b>2 【取組み】</b> ○ 国史跡周知普及実行委員会により、国史跡周知普及事業の検討から実施までを行い、「馬事文化市民講座」「ミニとっこめ寄席」「春の牧ウマまつり」などを開催しました。 ○ 史跡環境の適切な管理を図るため、国史跡周知普及事業の一環として、捕込の草刈やゴミ拾い作業を市民参加のもと実施しました。																				
<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 国史跡周知普及事業実施結果は次のとおりです。																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>馬事文化市民講座</td> <td>118人</td> <td>107人</td> <td>73人</td> </tr> <tr> <td>ミニとっこめ寄席</td> <td>126人</td> <td>119人</td> <td>149人</td> </tr> <tr> <td>春の牧ウマまつり</td> <td>3,279人</td> <td>2,898人</td> <td>1,428人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	H27	H28	H29	馬事文化市民講座	118人	107人	73人	ミニとっこめ寄席	126人	119人	149人	春の牧ウマまつり	3,279人	2,898人	1,428人
事業名	H27	H28	H29																	
馬事文化市民講座	118人	107人	73人																	
ミニとっこめ寄席	126人	119人	149人																	
春の牧ウマまつり	3,279人	2,898人	1,428人																	
※春の牧ウマまつり29年度参加者減少は、実施前日の降雨や当日の悪天候の影響と考えられます。																				
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 国史跡周知普及実行委員会及び周辺自治会の協力のもと、国史跡周知普及事業を、引き続き実施するとともに、国史跡の周知を行います。 ○ 国史跡下総小金中野牧跡の重要性を市民に認識してもらうとともに、市民と共に保存していくため、国史跡周知普及事業の充実を図るとともに、周知普及の機会がある事業へ参加を検討します。 ○ 国史跡周知普及事業の「春の牧ウマまつり」の参加者数が減少していることから、PR方法や、市民に興味をもってもらえるような内容について検討を行います。																				

目的	2) 歴史・文化遺産の保存・継承・活用の推進	目的評価	(A・B・C)									
	2) -3 歴史・民俗資料の調査・収集・整理・保存事業	項目評価	(a・b・c・d・e)	b								
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 都市化に伴い、失われつつある歴史・民俗資料や市の歴史的公文書を調査・収集し、市民などが広く利用できるよう整理・保存します。											
	<b>2 【取組み】</b> ○ 市の歴史・民俗に関する調査を行いました。 ○ 歴史・民俗資料を収集しました。 ○ 27年度末・28年度末に保存年限が満了となった市公文書の中から、歴史的価値があると考えられるものを収集しました。 ○ 収集した資料を保存するため、くん蒸と修補を実施しました。また、個人蔵資料の保存・利用のため、マイクロフィルム化を進めました。 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin: 10px 0;">  <div style="margin: 0 20px;">➔</div>  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>修補前</span> <span>修補後</span> </div>											
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 年間に36回の調査を行い、歴史資料や写真をスキャニングするとともに、民俗行事については、ビデオやデジタルカメラで撮影し、デジタルデータを取得しました。 ○ 29年度は850点の歴史民俗資料などを主として寄贈により収集しました。 ○ 歴史的公文書は27年度満了分74箱、28年度満了分20箱を受け入れました。このうち、27年度満了分666冊の簿冊目録を作成しました。 <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="padding: 5px;">年間収集資料点数</th> <th style="padding: 5px;">H27</th> <th style="padding: 5px;">H28</th> <th style="padding: 5px;">H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"></td> <td style="padding: 5px;">2382点</td> <td style="padding: 5px;">1568点</td> <td style="padding: 5px;">850点</td> </tr> </tbody> </table>				年間収集資料点数	H27	H28	H29		2382点	1568点	850点
	年間収集資料点数	H27	H28	H29								
	2382点	1568点	850点									
※ 現地保存の観点から、資料館から積極的に資料寄贈の依頼はしていないため、寄贈の申し出が多かった年は資料収集点数が多くなっています。												
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 引き続き市域の歴史・民俗に関する資料の調査を進め、必要に応じて現物、もしくはデジタルデータで収集します。 ○ 毎年度末に保存年限が満了となった市公文書のうち、歴史的価値を有するものを収集します。また、市史編さん事業を行った際に収集したものを含めて、簿冊及び件名目録を作成します。 ○ 収集した写真資料データについて、将来的に検索ができるよう整理を行います。 ○ 資料を後世に長く伝えることができるための保存処置を行います。 ○ 資料の保存スペースの確保について検討します。												

目的	2) 歴史・文化遺産の保存・継承・活用の推進	目的評価	(A・B・C)																																																									
	2) -4 展示事業	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																																																								
	<p>1 【目標】</p> <p>○ 市域の歴史と民俗を学び、ふるさと意識を醸成するための展示を行います。</p> <hr/> <p>2 【取組み】</p> <p>○ 市域の約3万年の歴史について知ることができる常設展示について、一部展示替えをするとともに、学芸員や郷土資料館ボランティアによる展示解説を行いました。</p> <p>○ 第18回ミニ展示「東葛・印旛大師講again」(7月15日～10月1日)、新規収蔵資料展示「はじめて！新しい鎌ケ谷のたからもの」(10月28日～12月3日)、29年度は、企画展「鎌ケ谷・おふだづくし～信仰の玉手箱～」(&lt;前期&gt;2月17日～3月18日&lt;後期&gt;3月24日～5月27日)などを開催しました。</p> <div data-bbox="867 320 1406 660" data-label="Image"> </div> <hr/> <p>3 【実施結果・成果】</p> <p>○ 各展示の過去3年間の来場者数は右の表のとおりです。</p> <p>○ 郷土資料館への過去3年間の団体入館者の変遷は下表のとおりです。</p> <div data-bbox="253 804 1461 1017" data-label="Table"> <table border="1"> <caption>各展示別入館者数</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常設展示</td> <td>5285人</td> <td>4604人</td> <td>4143人</td> </tr> <tr> <td>企画展</td> <td>1478人</td> <td>1145人</td> <td>829人</td> </tr> <tr> <td>ミニ展示</td> <td>927人</td> <td>573人</td> <td>648人</td> </tr> <tr> <td>新規収蔵資料展示</td> <td>229人</td> <td>168人</td> <td>279人</td> </tr> </tbody> </table>   <table border="1"> <caption>団体見学数</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>21組</td> <td>33組</td> <td>29組</td> </tr> <tr> <td>(市内小中学校)</td> <td>(9組)</td> <td>(7組)</td> <td>(7組)</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="293 1048 620 1292" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="639 1234 980 1264">子どもたちの表情は真剣そのもの</p> <hr/> <p>○ 資料館ボランティアによる常設展示の解説は下表のとおり実施しました。</p> <div data-bbox="253 1373 834 1505" data-label="Table"> <table border="1"> <caption>常設ガイドボランティア実施状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>84回</td> <td>89回</td> <td>86回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>516人</td> <td>605人</td> <td>492人</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="1162 1199 1494 1436" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1170 1436 1484 1466">どんなお話がとびだすのかなあ</p> <p>※ 資料館ボランティアは、現在15人おり、主な活動内容は、当館主催講座の事前準備や当日補助を行う「イベントボランティア」、毎週土日に常設展示の解説を行う「常設展示ガイドボランティア」、市内の文化財などの解説を希望者に対して行う「文化財ガイドボランティア」の3つとなっています。</p> <p>○ 企画展・ミニ展示においてギャラリートークを下表のとおり実施しました。</p> <div data-bbox="261 1768 837 1901" data-label="Table"> <table border="1"> <caption>ギャラリートーク実施状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>13回(1回)</td> <td>13回(1回)</td> <td>16回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>143人</td> <td>110人</td> <td>174人</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="867 1705 1170 1931" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1182 1861 1463 1914">へえーっ、こんなものが、かまがやで！</p> <hr/> <p>4 【課題・今後の取組み】</p> <p>○ 市民の関心のあるテーマによる展示を開催します。</p> <p>○ 市広報や「郷土資料館だより」などを通じて、展示の内容を広報します。</p> <p>○ 適宜チラシなどを作成し、市内小中学校やデイサービス施設などに配布し、子どもやお年寄りの方の利用者が増加するよう努めます。</p>					H27	H28	H29	常設展示	5285人	4604人	4143人	企画展	1478人	1145人	829人	ミニ展示	927人	573人	648人	新規収蔵資料展示	229人	168人	279人		H27	H28	H29		21組	33組	29組	(市内小中学校)	(9組)	(7組)	(7組)		H27	H28	H29	回数	84回	89回	86回	参加人数	516人	605人	492人		H27	H28	H29	回数	13回(1回)	13回(1回)	16回	参加人数	143人	110人	174人
	H27	H28	H29																																																									
常設展示	5285人	4604人	4143人																																																									
企画展	1478人	1145人	829人																																																									
ミニ展示	927人	573人	648人																																																									
新規収蔵資料展示	229人	168人	279人																																																									
	H27	H28	H29																																																									
	21組	33組	29組																																																									
(市内小中学校)	(9組)	(7組)	(7組)																																																									
	H27	H28	H29																																																									
回数	84回	89回	86回																																																									
参加人数	516人	605人	492人																																																									
	H27	H28	H29																																																									
回数	13回(1回)	13回(1回)	16回																																																									
参加人数	143人	110人	174人																																																									

評価対象項目・事業

目的	2) 歴史・文化遺産の保存・継承・活用の推進	目的評価	(A・B・C)																																																																						
	2) -5 教育・普及事業	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																																																																					
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 市民の皆さんが、市域の歴史や民俗を学び、ふるさと意識の醸成につながるような教育普及事業を行います。																																																																								
	<b>2 【取組み】</b> ○ 市域の歴史・民俗に係わる講座・教室について、一般向けのを10講座、子ども向けのを7講座実施します。 ○ 市内小学校(五本松小、西部小、中部小、南部小、北部小)への出前授業を含め、各施設へ講師派遣事業を行います。  ○ 市民などからのレファレンス(照会)に対応します。 ○ 資料館所蔵資料などの資料閲覧と利用依頼に対応します。 ○ 博物館実習と小中学校の児童・生徒の職場体験を実施します。																																																																								
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 過去3年間の教育・普及事業の実施状況は下記表のとおりです。																																																																								
	<p style="text-align: center;"><b>教育・普及事業実施状況</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">H27</th> <th colspan="2">H28</th> <th colspan="2">H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講座・教室</td> <td>62回</td> <td>1102人</td> <td>66回</td> <td>1143人</td> <td>53回</td> <td>1304人</td> </tr> <tr> <td>(子ども対象)</td> <td>(15回)</td> <td>(189人)</td> <td>(20回)</td> <td>(217人)</td> <td>(10回)</td> <td>(158人)</td> </tr> <tr> <td>講師派遣</td> <td>21回</td> <td>1265人</td> <td>17回</td> <td>928人</td> <td>20回</td> <td>966人</td> </tr> <tr> <td>出前授業</td> <td>(4回)</td> <td>(583人)</td> <td>(2回)</td> <td>(154人)</td> <td>(6回)</td> <td>(576人)</td> </tr> <tr> <td>レファレンス</td> <td>245件</td> <td>427人</td> <td>155件</td> <td>255人</td> <td>223件</td> <td>326人</td> </tr> <tr> <td>  閲覧</td> <td></td> <td>68件</td> <td></td> <td>58件</td> <td></td> <td>43件</td> </tr> <tr> <td>  利用</td> <td></td> <td>13件</td> <td></td> <td>17件</td> <td></td> <td>12件</td> </tr> <tr> <td>博物館実習</td> <td></td> <td>2人</td> <td></td> <td>5人</td> <td></td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>職場体験</td> <td>4校</td> <td>14人</td> <td>1校</td> <td>3人</td> <td>3校</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="279 1324 604 1538" style="text-align: center;"> <p>子ども講座「まが玉づくり」</p> </div> <div data-bbox="657 1354 1003 1584" style="text-align: center;"> <p>子ども講座「昔のくらしふれあい広場」</p> </div> <div data-bbox="1096 1410 1416 1647" style="text-align: center;"> <p>古文書講座</p> </div> </div>					H27		H28		H29		講座・教室	62回	1102人	66回	1143人	53回	1304人	(子ども対象)	(15回)	(189人)	(20回)	(217人)	(10回)	(158人)	講師派遣	21回	1265人	17回	928人	20回	966人	出前授業	(4回)	(583人)	(2回)	(154人)	(6回)	(576人)	レファレンス	245件	427人	155件	255人	223件	326人	閲覧		68件		58件		43件	利用		13件		17件		12件	博物館実習		2人		5人		3人	職場体験	4校	14人	1校	3人	3校
	H27		H28		H29																																																																				
講座・教室	62回	1102人	66回	1143人	53回	1304人																																																																			
(子ども対象)	(15回)	(189人)	(20回)	(217人)	(10回)	(158人)																																																																			
講師派遣	21回	1265人	17回	928人	20回	966人																																																																			
出前授業	(4回)	(583人)	(2回)	(154人)	(6回)	(576人)																																																																			
レファレンス	245件	427人	155件	255人	223件	326人																																																																			
閲覧		68件		58件		43件																																																																			
利用		13件		17件		12件																																																																			
博物館実習		2人		5人		3人																																																																			
職場体験	4校	14人	1校	3人	3校	7人																																																																			
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 引き続き、市民のニーズを把握し、質の高い教育普及事業を実施します。 ○ 市広報やホームページへの掲載、「郷土資料館だより」の発行、チラシやポスターの配布などにより、積極的な事業の広報を行います。 ○ 実施した企画の内容を精査し、改善していきます。定員をオーバーした申込みのあった企画については、実施回数を増やすことを検討します。																																																																									

政策	Ⅱ 人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	評価欄										
施策	1 生きる力を育てる義務教育の充実	政策評価	(A・B・C)	B								
目的	1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり	目的評価	(A・B・C)	A								
	1) -1 少人数指導の推進	項目評価	(a・b・c・d・e)	b								
評価対象項目・事業	<p>1 【目標】</p> <p>○ 「確かな学力」「豊かな心」をはぐくみます。</p>											
	<p>2 【取組み】</p> <p>○ 市の非常勤職員として少人数教育指導教員(きりり先生)を全小中学校に市費負担で配置し、TT<sup>※</sup>や少人数指導など、多様な教育方法を取り入れた、きめ細かな指導を行いました。  <small>※TT : Team Teaching、一教室で複数の教師が協力して行う授業方式の一つ。</small></p> <p>○ 後期基本計画第4次実施計画に掲げる14人配置の目標を達成しました。</p>											
	<p>3 【実施結果・成果】</p> <p>○ 少人数教育指導教員(きりり先生)については、後期基本計画に掲げる施策の成果目標値どおり、14人を配置を継続しました。週28時間の勤務の中でTTや少人数指導等で成果を上げました。</p> <table border="1" data-bbox="284 1080 868 1180"> <thead> <tr> <th>少人数指導教員配置数</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>14人</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table>				少人数指導教員配置数	H27	H28	H29		14人	14人	14人
	少人数指導教員配置数	H27	H28	H29								
	14人	14人	14人									
<p>○ 教室内に2人の教員がいることで一斉指導の中でも個別対応ができ、きめ細かな指導ができました。また、千葉県の非常勤講師と違い同一校に複数年在籍できる少人数指導の場では、児童生徒が支援を必要としているときに、児童生徒から気軽に声をかけることができるので、相談できる先生として頼られています。</p>												
<p>4 【課題・今後の取組み】</p> <p>○ 14人配置の目標は達成しましたが、今後はさらに少人数指導及びTTによる授業形態の工夫と授業の質の向上が求められます。少人数教育指導教員(きりり先生)の研修会等で、効果的な少人数教育の実践例の研究や少人数教育の先進校の研究事例の紹介等、少人数教育の充実に向けた取組みを精査し、授業の質の向上を図ります。</p> <p>○ 教員研修においても、TTや少人数指導による授業形態の効果的な指導方法を学ぶ機会を増やします。</p>												

目的	1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり	目的評価	(A・B・C)	A								
	1) -2 特別支援教育推進指導教員	項目評価	(a・b・c・d・e)	a								
1 【目標】												
○ LD(学習障害)・ADHD(注意欠陥・多動性障害)・高機能自閉症等も含めた障がいのある児童生徒が、教育的ニーズに応じて学び、能力を最大限に伸ばせるよう、教育の機会の拡充、就学・教育相談体制の充実を図ります。												
2 【取組み】												
○ 市の非常勤職員として特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)を小中学校全14校に配置(大規模校には複数配置)し、TTや個別指導を行いました。後期基本計画に掲げる14人配置の目標に対し、学校の実情に鑑み、17人配置を達成しました。												
○ 29年度から、家庭訪問相談員を配置し、不登校児童生徒への支援をしました。担任と連携をとり、定期的に家庭訪問をすることで、「学校生活」への意欲をもたせることができました。												
3 【実施結果・成果】												
○ 特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)については、後期基本計画に掲げる施策の成果目標値が14人であるところ、28年度の実績は目標を上回る17人、大規模校には複数配置しました。LD・ADHD・高機能自閉症等の児童生徒に教育的支援を行い、各担任と連携して一人ひとりのニーズに応じた「個別支援計画」を策定し、指導・支援を図りました。												
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別支援教育推進指導教員</td> <td>14人</td> <td>17人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table>						H27	H28	H29	特別支援教育推進指導教員	14人	17人	17人
	H27	H28	H29									
特別支援教育推進指導教員	14人	17人	17人									
ほほえみ先生による、ニーズに応じた指導												
4 【課題・今後の取組み】												
○ 特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修に授業参観や事例検討、協議等の実践的内容を取り入れ、資質の向上を図るとともに教育委員会に配置された心理発達相談員の相談活用等、支援体制の強化を図ります。東部小に難聴児童の支援のためサテライト教室を開設しました。												
○ 29年度に配置した家庭訪問相談員は、積極的に児童生徒に関わっているが、市内不登校児童生徒の全員に対応することはできないため、情報の共有と適応指導教室との連携を図ります。												

評価対象項目・事業

目的	1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり	目的評価	(A・B・C)	
----	----------------------	------	---------	--

	1) -3 学校図書館司書	項目評価	(a・b・c・d・e)	b
--	---------------	------	-------------	---

1 【目標】

- 読書活動を促進し、言語能力や豊かな心の育成をめざします。

2 【取組み】

- 市の非常勤職員として、学校図書館司書を配置しました。  
学校図書館司書配置による図書室の環境整備、読書活動の推進、図書室の利用に関するオリエンテーション等を行いました。

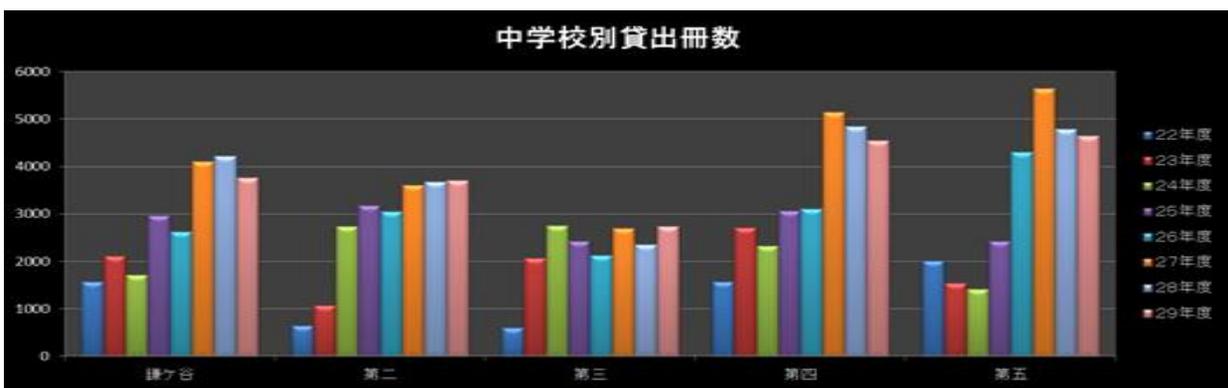
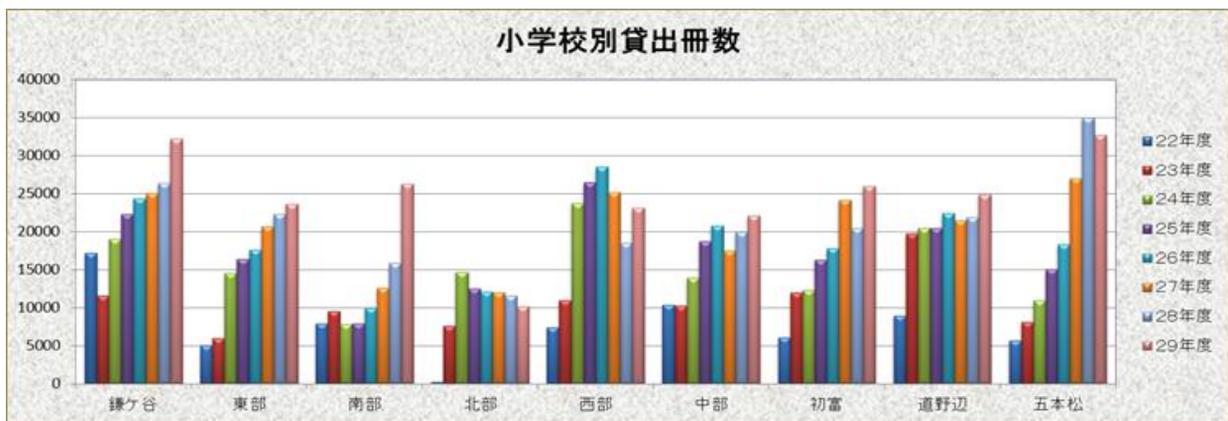
3 【実施結果・成果】

- 学校図書館司書を小中学校全14校に配置しました。
- 図書館の環境が整備され、29年度も貸し出し数が増加しました。
- データベース化により、業務の効率化につなげました。
- 学校図書館司書研修会を年間5回実施し、選書に関する情報交換やオリエンテーション、著作権に関する研修を行いました。

学校図書館 貸出数	H27	H28	H29
	206, 806冊	211, 693冊	240, 606冊

- 第五中において、全校ビブリオバトル<sup>※</sup>を開催するなど読書活動の推進をすることができました。  
<sup>※</sup>ビブリオバトル:各自が自分のお薦め本を持ち寄り、その本の魅力について語り、聞き手がどの本が一番良いか投票してチャンプ本を決める対戦。

評価対象項目・事業



4 【課題・今後の取組み】

- 小中学校全14校の図書館環境を充実(優良・優秀図書館認定をめざす)させるため学校図書館司書の資質の向上を図ります。
  - ・優良図書館認定校12校 → 鎌ヶ谷小・東部小・南部小・北部小・西部小・中部小・初富小・道野辺小・第二中・第三中・第四中・第五中
  - ・優秀図書館認定校(優良図書館認定校から)3校 → 初富小・南部小・東部小
- 蔵書数が学校図書館図書標準に満たない学校があることから、今後充実を図ります。
- 児童生徒数が多く、図書館が狭い学校があることから、図書館整備に積極的に取り組みます。

目的	1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり	目的評価	(A・B・C)	A																																													
	1) -4 学校支援地域本部事業	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																																													
	<b>1 【目標】</b> ○ 学校と地域との連携体制を構築し、特色ある学校づくりをめざします。																																																
	<b>2 【取組み】</b> ○ 文部科学省の委託による「学校支援地域本部事業」を実施し、地域の方々による学校支援を行いました。 ○ 今後、市に対する、国及び千葉県の補助が終了する可能性があるため、市としての予算を確保しました。 ○ 市内2回の研修会や千葉県の研修会に参加することにより、他校の実践を学びました。																																																
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 8校に学校支援地域本部を置き、地域の方々による学校支援を行うことができました。																																																
	<table border="1"> <tr> <th>学校支援地域本部事業 参加校</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> <tr> <td></td> <td>8校</td> <td>8校</td> <td>8校</td> </tr> </table>	学校支援地域本部事業 参加校	H27	H28	H29		8校	8校	8校																																								
学校支援地域本部事業 参加校	H27	H28	H29																																														
	8校	8校	8校																																														
	○ 「学校支援地域本部事業」を実施しない学校にも、ボランティア保険への加入、消耗品等の支援を行いました。 ○ 当初予算での事業ができるようにするため、事業経費を国及び千葉県の補助からなる補助事業と市の単独事業の二つに分け、歳入を確保しました。																																																
	地域の皆さんを講師に迎えた、 伝統の6年生まつり寿司づくり																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>コーディネーター 人数</th> <th>ボランティア数 (約)</th> <th>活動日数</th> <th>主な活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西部小学校</td> <td>3人</td> <td>100人</td> <td>220日</td> <td>そろばん教室・環境整備・安全見守り</td> </tr> <tr> <td>第三中学校</td> <td>2人</td> <td>30人</td> <td>36日</td> <td>書写教室・環境整備</td> </tr> <tr> <td>北部小学校</td> <td>2人</td> <td>50人</td> <td>220日</td> <td>読み聞かせ・環境整備・安全見守り</td> </tr> <tr> <td>中部小学校</td> <td>1人</td> <td>80人</td> <td>255日</td> <td>家庭科・図書・環境整備・安全見守り</td> </tr> <tr> <td>第四中学校</td> <td>2人</td> <td>30人</td> <td>36日</td> <td>書写教室・環境整備</td> </tr> <tr> <td>南部小学校</td> <td>1人</td> <td>50人</td> <td>240日</td> <td>家庭科・算数・環境整備</td> </tr> <tr> <td>初富小学校</td> <td>1人</td> <td>100人</td> <td>215日</td> <td>算数・環境整備・安全見守り</td> </tr> <tr> <td>道野辺小学校</td> <td>2人</td> <td>80人</td> <td>255日</td> <td>算数・環境整備・安全見守り</td> </tr> </tbody> </table>					コーディネーター 人数	ボランティア数 (約)	活動日数	主な活動	西部小学校	3人	100人	220日	そろばん教室・環境整備・安全見守り	第三中学校	2人	30人	36日	書写教室・環境整備	北部小学校	2人	50人	220日	読み聞かせ・環境整備・安全見守り	中部小学校	1人	80人	255日	家庭科・図書・環境整備・安全見守り	第四中学校	2人	30人	36日	書写教室・環境整備	南部小学校	1人	50人	240日	家庭科・算数・環境整備	初富小学校	1人	100人	215日	算数・環境整備・安全見守り	道野辺小学校	2人	80人	255日	算数・環境整備・安全見守り
	コーディネーター 人数	ボランティア数 (約)	活動日数	主な活動																																													
西部小学校	3人	100人	220日	そろばん教室・環境整備・安全見守り																																													
第三中学校	2人	30人	36日	書写教室・環境整備																																													
北部小学校	2人	50人	220日	読み聞かせ・環境整備・安全見守り																																													
中部小学校	1人	80人	255日	家庭科・図書・環境整備・安全見守り																																													
第四中学校	2人	30人	36日	書写教室・環境整備																																													
南部小学校	1人	50人	240日	家庭科・算数・環境整備																																													
初富小学校	1人	100人	215日	算数・環境整備・安全見守り																																													
道野辺小学校	2人	80人	255日	算数・環境整備・安全見守り																																													
	○ コーディネーターの継続した取組みによって学校においてニーズに合わせた充実した計画が図られました。																																																
	<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 学校支援地域本部事業実施校を拡大するよう計画します。 ○ 学校支援地域本部コーディネーターの後継者が不足していることから、学校支援地域本部コーディネーターの発掘及び養成に向けて取り組みます。 ○ ボランティアの確保・学校とのニーズに沿った活動がより活性化するよう情報共有しながら取り組みます。																																																

評価対象項目・事業

目的	1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり	目的評価	(A・B・C)	
	1) -5 ICT教育環境整備	項目評価	(a・b・c・d・e)	a
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ ICT※を教育に効果的に活かします。 ※ICT: 情報通信技術。コンピュータ・インターネット・携帯電話などを使う情報処理や通信に関する技術を総合的に指す語。			
	<b>2 【取組み】</b> ○ 情報教育を拡充するため、機器の整備と活用するシステムの充実及び児童生徒及び職員に対する研修を行いました。			
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 機器の整備と研修の実施により情報教育を推進しました。情報モラル(ネット依存に関するものも含む)に関する実態調査を行いました。 ○ 校務処理のスリム化を進めることで、教員が子どもたちとふれあう時間を多くするとともに、日常的にICT機器に触れる機会を増やすことで、ICT機器を活用した授業実践を充実させました。			
	 <p data-bbox="331 1403 683 1436">低学年からコンピューターにふれる</p>	 <p data-bbox="980 1166 1328 1199">外の体育学習でもタブレットを活用</p>	 <p data-bbox="266 1543 672 1603">タブレットを活用し、様々な教科で自由に調べ学習ができる</p>	
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ リニューアルに伴い、ICT機器ネットワークの有効的な活用方法、タブレット導入に向けた授業改善を図ります。また、次期学習指導要領に対応するため、30年度からのプログラミング教育の研修として、全小学校の5年生を対象に、NPO連携によるプログラミング教育の授業を実施します。それに先立って、夏季休業中に5年生の担任に対し職員研修を実施します。 ○ 児童生徒のニーズに応じた情報機器について研究します。 ○ 新しいシステムの導入により校務の効率化を図ります。				

目的	1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり	目的評価	(A・B・C)	
	1) -6 外国語活動の推進	項目評価	(a・b・c・d・e)	a
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ ALT(外国語指導助手)による外国語教育や国際理解教育の充実により、児童生徒に対し幅広い視野と国際人としての資質・能力を育成します。			
	<b>2 【取組み】</b> ○ 各中学校に1人ずつ、小学校は3校に1人のALTを配置し、外国語の授業への活用を実施しました。 ○ 日本人の教師とALTでの打ち合わせを行い、充実した取組みを行いました。 ○ 市教育委員会指導訪問では必ず外国語活動の授業を行い、外国語活動の授業の充実を図りました。 ○ ALTと外国語担当教師合同研修会を4月に実施し、連携の強化を図りました。			
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 各中学校に1人ずつ、小学校3校に対し各1人の合計8人のALTを配置し、外国語教育の充実につとめました。また、ALTの出身の母国の紹介を授業で行い、国際理解を深めることができました。			
	<div data-bbox="495 622 1166 1064" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="581 1087 1128 1120" style="text-align: center;">ALTと英語劇を開催した、特別支援学級の学芸発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ALTの各校への配置が終日になり、児童生徒が授業以外でALTと直接関わる機会が増えました(休み時間や給食、清掃活動等における活動や会話など)。英語で話してみたい、気持ちが通じてうれしかった、という児童生徒の思いが、内発的動機付けとなり、国際理解教育への意欲付けができました。</li> <li>○ 小学校においては、ALT配置日に外国語活動の授業を設定し、日本人教師を中心としたALTとのTT授業を行いました。</li> <li>○ 中学校では、リスニングテスト及びスピーキングテストの実施、英語スピーチコンテストなどを指導しました。</li> <li>○ 毎週1回ALTミーティングを行い各校の取組みを互いに知るALTの情報交換の場として活かしました。</li> </ul>			
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 授業参観や情報交換、教材の共有などの小中学校の連携を深めます。外国語担当教師とALT合同の研修会を実施し、質の高い授業実践につなげます。研修の回数を増やし、指導力の向上を図ります。 ○ 国際理解を進めるにあたり、オリンピックパラリンピック教育にも力を入れていきます。 ○ 引き続き指導訪問では、全小学校が外国語活動の授業を展開し、指導主事から指導助言を受ける機会を設けます。 ○ 小学校教師に「外国語活動・外国語科」の指導法やALTを活用した授業などで指導助言を行います。特に専門の英語指導力をつけるために外国語指導の講師を招聘して、より実践的な内容の研修を実施します。 ○ 市の外国語担当の指導主事を増員するとともに、ALTコーディネーターを配置しました。また、30年から、ALTを3名増員します。 ○ 教育課程の移行時期に入ることから、ALTの研修及び派遣学校との調整を行い、併せてALTの活用方法について近隣市の動向を把握しながら検討します。 ○ ALTを活用した「世界の文化」を体験する機会を設け、国際文化理解教育を進めます。 ○ 小学校に1名、外国語活動専科を配置し、推進リーダーとして位置付けます。				

目的	1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり	目的評価	(A・B・C)	
評価対象項目・事業	1) -7 キャリア教育	項目評価	(a・b・c・d・e)	b
	<b>1 【目標】</b> ○ 地域と連携し、児童生徒一人ひとりの勤労観・職業観を育てます。			
	<b>2 【取組み】</b> ○ 全中学校で市内での職場体験学習を3日間、全小学校が1日または半日の職場体験・職場見学を実施しました。 ○ 小学校のキャリア教育として、職業をお持ちの地域の方を招き、講演会を実施しました(鎌小・中小)。			
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 全中学校で職場体験学習を3日間、全小学校が1日または半日の職場見学を実施するにあたり、内容の充実と連絡調整を目的に、学校、教育委員会、商工会、地域の関係者による推進協議会を組織し、市内での連携を図ることで、将来、社会人になるための自覚を児童生徒が体得できる有意義な学習の機会としました。 ○ キャリア教育担当者会議に、船橋公共職業安定所から、学卒サポーターを招き、各学年向けの講座の紹介をしてもらい、キャリア教育を推進しました。 ○ 船橋公共職業安定所の学卒サポーターが生徒向けの講演をしました(鎌中)。 <div data-bbox="488 1064 1177 1540" style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">さまざまな職業の方からお話を聞きました(6年生の職業講話で)</p>			
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 「社会体験学習推進協議会」等を通じて事業所との関わりや体験学習受入れ事業所の開発等、さらに工夫を凝らし進める必要があります。また、事業所等とも情報を共有し、共通認識を深め、児童生徒の社会体験学習をさらに充実させます。 ○ キャリア教育について、教員の知識理解を深めるために、「社会体験学習担当者会議」の質を向上させます。				

目的	1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり	目的評価	(A・B・C)	
	1) -8 心の教育	項目評価	(a・b・c・d・e)	b
評価対象項目・事業	<b>【目標】</b> ○ 環境教育、ボランティアなどを通じて助け合う心や実践力を培う福祉教育、道徳教育、人権教育による心の教育の充実を図ります。 ○ 不登校児童生徒一人ひとりの実態に応じた柔軟な指導・支援を行うため、市適応指導教室「ふれあい談話室」の運営の充実を図り、児童生徒の学校復帰をめざします。			
	<b>2 【取組み】</b> ○ 各校での、学校いじめ防止基本方針を策定し、各学校のホームページに掲載しました。 ○ 不登校・いじめに関する「心の教育講演会」を実施しました。 ○ 毎月、ふれあい談話室にて各校の長欠担当者と「長期欠席児童生徒月例報告会」を実施しました。 ○ 人権教育を人権擁護委員と連携して実施しました。			
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 各校の道徳教育推進教師を対象として、道徳教育推進教師の役割、各校の道徳教育の全体計画、年間計画の作成について研修を行いました。また、特別な教科として先行実施される「道徳」について評価方法の検討を開始しました。 ○ 「心の教育講演会」～いじめ心の処方箋～を夏休みに開催し、70人の参加がありました。			
	<div data-bbox="565 769 1154 1157" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">児童生徒が抱える諸問題について専門家から学んだ、心の教育講演会</p> ○ いじめ問題について、アンケートにより実態把握をし、早期発見、早期対応の一助にしました。 ○ 「市いじめ防止基本方針」及び「学校いじめ防止基本方針」により、各校がいじめに限らず生徒指導上の問題に組織的な対応がとれるようになりました。 ○ 月例報告会の実施により、各校の長欠に関する実態把握や適切な助言ができ、ふれあい談話室を含めた関係機関との連携を図りました。 ○ SC(スクールカウンセラー)を市内全中学校と小学校2校(鎌ヶ谷小・南部小)に配置しました。また、配置のない小学校には、中学校区ごとに小中で連携の取れる体制を作りました。			
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 道徳の授業の質を高めるため道徳教育推進指導教員等を対象とした授業研修を計画します。また、小学校の道徳科の開始・中学校の次年度からの開始に向けて、学校体制を整える支援をします。 ○ いじめ調査は年2回行い、実態把握・分析を行い、指導に活かします。 ○ 各校が策定した「学校いじめ防止基本方針」をPDCAサイクル(※)によって、見直し改善し、充実した方針とします。 ※Plan(計画)-Do(実行)-Check(評価)-Act(修正)を繰り返すことによって継続的に改善する方法。 ○ ふれあい談話室との連携による教育相談体制の充実を図ります。 ○ いじめ問題対策連絡協議会により、警察・児童相談所・PTA等関連機関との連携を図ります。 ○ いじめの未然防止に向けて、児童生徒の主体的な活動や相談箱の設置を推進します。 ○ 教育事務所管内に配置されているSSW(スクールソーシャルワーカー)の活用を推進します。 ○ SCとの連携・市の他課(こども支援課)との連携を推進します。 ○ 外国の方やLGBTなどへの理解といった、「多様性」に対する心の教育を推進します。				

目的	2) 専門性と社会性を備えた教職員の育成	目的評価	(A・B・C)	B
	2) -1 教職員の指導力向上	項目評価	(a・b・c・d・e)	b
評価対象項目・事業	<p>1 【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員の社会の変化や学校教育をめぐる様々な問題への対応力を高めます。</li> </ul> <p>2 【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員に対する各種研修を行いました。特に、市独自の初任者研修を実施し、初任者の資質の向上を図りました。</li> <li>○ 小学4年生・5年生、中学2年生の児童生徒に対し、学力調査を行い、(小4・5:国語・算数 中2:国語・数学・理科・社会・英語)その結果分析を受け、授業改善策を策定し、実践しました。</li> <li>○ 全国学力・学習状況調査の分析方法について、千葉県分析ツールを導入しました。それにより、生活アンケートとのクロス集計が可能になりました。</li> <li>○ 教務主任に限らず、学校で学力向上の要となる教員の参加も可能になる、学力向上検討委員会を組織しました。</li> <li>○ 市教育委員会指導訪問等において「思考し、表現する力」を高める学習プロセスである千葉県実践モデルプログラムの周知を図り、授業実践につなげました。</li> </ul> <p>3 【実施結果・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 使命感、倫理観、専門性を高めるため、教職経験、学校内の立場・役割に応じた指導力の向上、新学習指導要領への対応をめざし、約20種の研修を実施しました。また、児童生徒の理解度、コンピュータ実技、特別支援教育に関する研修を実施し、専門性、指導力の向上を図りました。</li> <li>○ 児童生徒に学力調査を行い、結果について学力向上検討委員会で考察しました。専門業者によるテストを実施することで、採点やデータ処理がスピーディーになるとともに、個人の成果や課題が明らかになり、指導改善につなげました。</li> <li>○ 千葉県分析ツールの導入により、学力調査の分析や考察の方法がより明らかになりました。また、本ツールにより市内小中学校で共通の分析方法がとれ、各校が実施する授業改善についての協議がより充実しました。また、各学校の課題がより明らかになり、学校全体で学力向上に取り組もうとする環境が整いました。</li> <li>○ 道徳主任研修会を行い、次年度以降、道徳の教科化に向けての研修をしました。</li> </ul> <div data-bbox="548 1134 1172 1498" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">市内道徳主任研修会「考え議論する道徳」を学ぶ</p>			
	<p>4 【課題・今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の学力をよりの確に測り、今後の本市の教育について考えるため、客観性のある学力調査を継続します。</li> <li>○ 小学4年生・5年生、中学2年生の3学年に対して学力調査を実施し、30年度の全国学力・学習状況調査と合わせ、経年分析・評価につなげます。また、結果をもとに補充指導の作成方法について小中学校の学力向上担当に指導します。</li> <li>○ 学力調査の教科は小学校2教科(国算)、中学校5教科(国数英理社)とし、小学校では、経年評価により力を入れます。また、引き続き児童生徒の学力について幅広く分析し、指導改善に活かします。</li> <li>○ 実践モデルプログラムを通し、児童生徒一人ひとりの自主的・創造的な問題解決型学習の充実を図ります。</li> <li>○ 若年層教員の増加、ベテラン教員の大量退職に伴い、教職員の指導力向上に向けた実態に即した、すぐに活用できるような研修会の開催やさまざまな研修会の紹介を充実させます。</li> </ul>			

目的	2) 専門性と社会性を備えた教職員の育成	目的評価	(A・B・C)	
	1 2) -2 指導訪問	項目評価	(a・b・c・d・e)	b
	<p>1 【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広い視野と社会性を兼ね備えた資質の高い教職員を育成します。</li> </ul> <p>2 【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市教育委員会の指導訪問をはじめ、要請訪問等を積極的に導入しました。</li> </ul> <p>3 【実施結果・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 29年度は小学校7校、中学校4校で市教委指導訪問を実施しました。</li> <li>○ 小学校では学年部会、中学校では教科部会において、展開された授業をもとに「学び合い高め合う授業」のあり方について指導主事などから指導・助言を行い、研修の充実を図りました。</li> </ul> <p>4 【課題・今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学び合い高め合う授業」について、引き続き学校訪問で指導する必要があることから、30年度は、市指定の公開研究会を行う小中学校を除く、12の小中学校で市教委指導訪問を実施します。</li> <li>○ 「主体的・対話的な学び」の学習活動に向けて、子ども一人一人が主体の授業になるための改善を図るため、引き続き教職員への指導に取り組みます。</li> </ul>			
	2) -3 市教育委員会研究指定校	項目評価	(a・b・c・d・e)	b
評価対象項目・事業	<p>1 【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ どの学校においても、新たな教育課題に対応できるようにします。</li> </ul> <p>2 【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たな教育課題に対応する研究校を指定し、重点的に課題に取り組むとともに、研究成果を他校や地域に広めるなど研究の充実を図りました。</li> <li>○ 第三中では研究指定の2年目となりました。</li> <li>○ 西部小では研究指定の2年目となりました。</li> <li>○ 千葉県の学校体育研究大会として、鎌ヶ谷中・中部小が3年間の研究のまとめとして、授業展開しました。</li> </ul> <div data-bbox="824 1164 1463 1640" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">学校体育研究大会 表現遊び</p> <p>3 【実施結果・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市の研究指定は3年間であり研究費が予算化されるため、3年間で総額600千円を割り振り、公開年度を増額(1・2年目:150千円、3年目:300千円)しています。公開年度の研究発表を充実させるため、効果的な運用をしました。</li> <li>○ 自主公開助成制度を開始し、研究を推進しました。</li> </ul> <p>4 【課題・今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 30年度は、第三中(全教科)、西部小(道徳)を研究指定として継続します。また、3年間の研究のまとめを公開研究会で発表します。※( )内は研究教科。</li> <li>○ 各校の研究については、学校が一体となった取組みを行うことを前提とし、教育委員会はより成果を上げるため、随時指導・助言に当たります。</li> </ul>			

目的	3) 安全・安心な教育環境づくり	目的評価	(A・B・C)	A							
	3) -1 義務教育施設維持補修事業	項目評価	(a・b・c・d・e)	a							
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 児童生徒の教育環境及び生活環境の向上を図ります。										
	<b>2 【取組み】</b> ○ 老朽化した小中学校施設の維持保全、教育環境の向上及び学校の安全を図るため、義務教育施設維持補修事業を計画的に行いました。										
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 小中学校施設の改修工事及び設計を行いました。 ①中部小・東部小・西部小のトイレ改修工事等を実施し、施設環境の向上機能回復を図りました。 ②北部小・初富小・道野辺小トイレの洋式化及び床の乾式化等を図るため、改修工事の設計を行いました。 ③鎌ヶ谷小学校の排水設備(下水道接続)改修工事の設計を行いました。 ④第二中学校校舎外壁屋上防水改修工事の設計を行いました。										
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="7">工事名称</td> <td>東部小・西部小学校トイレ改修工事設計委託</td> </tr> <tr> <td>中部小学校トイレ改修工事</td> </tr> <tr> <td>東部小学校トイレ改修工事</td> </tr> <tr> <td>西部小学校トイレ改修工事</td> </tr> <tr> <td>北部小・初富小・道野辺小学校トイレ改修工事設計委託</td> </tr> <tr> <td>鎌ヶ谷小学校排水設備改修工事設計委託</td> </tr> <tr> <td>第二中学校校舎外壁屋上防水改修工事設計委託</td> </tr> </table>				工事名称	東部小・西部小学校トイレ改修工事設計委託	中部小学校トイレ改修工事	東部小学校トイレ改修工事	西部小学校トイレ改修工事	北部小・初富小・道野辺小学校トイレ改修工事設計委託	鎌ヶ谷小学校排水設備改修工事設計委託
工事名称	東部小・西部小学校トイレ改修工事設計委託										
	中部小学校トイレ改修工事										
	東部小学校トイレ改修工事										
	西部小学校トイレ改修工事										
	北部小・初富小・道野辺小学校トイレ改修工事設計委託										
	鎌ヶ谷小学校排水設備改修工事設計委託										
	第二中学校校舎外壁屋上防水改修工事設計委託										
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 本市の学校施設は、人口急増期に建設された建築物が多く存在し老朽化が進行していることから、計画的に施設維持補修事業を進めます。											
	3) -2 義務教育施設校舎増設事業	項目評価	(a・b・c・d・e)	a							
	<b>1 【目標】</b> ○ 五本松小学校の児童生徒数増加に対応した教室数を確保するため、新たな校舎を整備します。										
	<b>2 【取組み】</b> ○ 五本松小学校の校舎(普通教室棟・特別教室棟)整備工事を行いました。										
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 普通教室棟(4教室)及び特別教室棟(図書室・音楽室)の整備工事を行いました。										
	<table border="1"> <tr> <td>工事名称</td> <td>五本松小学校校舎増設工事</td> </tr> </table>			工事名称	五本松小学校校舎増設工事						
工事名称	五本松小学校校舎増設工事										
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>快適なウッディフロア、新音楽室</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>新図書室で心もウキウキ</p> </div> </div>										
	<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 予定していた校舎の整備が完了しました。										

目的	3) 安全・安心な教育環境づくり	目的評価	(A・B・C)																																			
	3) -3 就学援助の実施	項目評価	(a・b・c・d・e)	a																																		
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 就学費用の支出が困難な家庭にも、教育の機会均等を図ります。																																					
	<b>2 【取組み】</b> ○ 就学費用の支出が困難な保護者に対して、経済的負担を軽減するため、24年度から生活保護基準の1.3倍未満の世帯を準要保護Ⅰ段階、1.3倍以上1.5倍未満の世帯を準要保護Ⅱ段階として、認定審査を行いました。																																					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">援助対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">Ⅰ段階</td> <td>学用品費、通学用品費、入学準備学用品費、新入学学用品費、医療費 修学旅行費、林間学校費、校外学習費、学校給食費</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">Ⅱ段階</td> <td>修学旅行費、林間学校費、校外学習費、学校給食費</td> </tr> </tbody> </table>				援助対象		Ⅰ段階	学用品費、通学用品費、入学準備学用品費、新入学学用品費、医療費 修学旅行費、林間学校費、校外学習費、学校給食費	Ⅱ段階	修学旅行費、林間学校費、校外学習費、学校給食費																												
	援助対象																																					
	Ⅰ段階	学用品費、通学用品費、入学準備学用品費、新入学学用品費、医療費 修学旅行費、林間学校費、校外学習費、学校給食費																																				
	Ⅱ段階	修学旅行費、林間学校費、校外学習費、学校給食費																																				
	○ 年度当初に、学校を通じて就学援助制度のお知らせを全児童生徒の保護者に対し配布し、市ホームページでも確認できるよう、一年を通して情報を掲載しました。 ○ 小学校入学前に行う就学時健康診断の際には、市職員が会場に行き、保護者に向けて制度についての説明をしました。学校及び学校教育課、市役所の他部署の窓口でも、必要に応じて、個別に保護者に説明するなど、さまざまな場面で制度について周知しました。 ○ 中学校に引き続き小学校も、入学前にかかる保護者の負担軽減を目的とし、新入学学用品費の入学前支給を行いました。就学時健康診断の通知にお知らせを同封し、健康診断当日は申請手続き等について、保護者に向けて説明をしました。 ○ 中学校卒業後の進学にあたっては、学校教育課から各種奨学金などの情報を随時学校に周知し、就学費用の支出が困難な保護者に対して三者面談や進路指導の場において学校から経済的負担を軽減するための制度の案内を行うなど、個々の実情に合った情報の提供を行いました。																																					
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 就学援助を実施したことにより、保護者の経済的負担の軽減と、児童生徒の教育の機会均等を図りました。 ○ 小学校の入学準備学用品費については、就学時健康診断終了後から入学前の1月末日まで、随時学校教育課で申請を受け付け、3月上旬に29人の保護者に対し支給を行いました。 ○ 就学援助の実施状況は次のとおりです。																																					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>在籍児童生徒</th> <th>入学前児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">H27</td> <td>人数</td> <td style="text-align: center;">574人</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>割合(注)</td> <td style="text-align: center;">6.79%</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td style="text-align: center;">41,705千円</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">H28</td> <td>人数</td> <td style="text-align: center;">599人</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>割合(注)</td> <td style="text-align: center;">7.13%</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td style="text-align: center;">42,143千円</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">H29</td> <td>人数</td> <td style="text-align: center;">602人</td> <td style="text-align: center;">29人</td> </tr> <tr> <td>割合(注)</td> <td style="text-align: center;">7.15%</td> <td style="text-align: center;">3.23%</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td style="text-align: center;">44,673千円</td> <td style="text-align: center;">1,177千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 決算額については、該当児童生徒の学年や申請時期等により支給額は異なるため、必ずしも人数と比例しません。</p> <p>注) 在籍児童生徒については、各年度5月1日現在の児童生徒数に対する就学援助受給者数の割合。入学前児童については、各年度9月時点での入学予定者数に対する入学準備学用品費受給者数の割合。</p>						在籍児童生徒	入学前児童	H27	人数	574人	-	割合(注)	6.79%	-	決算額	41,705千円	-	H28	人数	599人	-	割合(注)	7.13%	-	決算額	42,143千円	-	H29	人数	602人	29人	割合(注)	7.15%	3.23%	決算額	44,673千円	1,177千円
			在籍児童生徒	入学前児童																																		
H27	人数	574人	-																																			
	割合(注)	6.79%	-																																			
	決算額	41,705千円	-																																			
H28	人数	599人	-																																			
	割合(注)	7.13%	-																																			
	決算額	42,143千円	-																																			
H29	人数	602人	29人																																			
	割合(注)	7.15%	3.23%																																			
	決算額	44,673千円	1,177千円																																			
<b>【課題・今後の取組み】</b> ○ 就学費用に対する援助は全国的にも本制度が基本となるため、今後も継続実施します。 ○ 国の通知に基づき、25年度の生活保護基準の見直しに伴う影響が出ないよう、引き続き30年度の認定基準額は見直し前の25年度の認定基準額により審査を行います。 ○ 認定審査に基づく認定基準について、近隣市の状況と比較しながら、援助が必要な保護者が幅広く援助を受けやすくなるよう、基準などの見直しを行います。																																						

政策	Ⅱ 人間性豊かな子どもの育成環境をつくります							評価欄																																																																																																																																																																																																																																																									
施策	2 児童・生徒の健康と安全の確保							政策評価	(A・B・C)	A																																																																																																																																																																																																																																																							
目的	1) 保健安全教育の充実							目的評価	(A・B・C)	A																																																																																																																																																																																																																																																							
	1) -1 児童生徒の健康管理							項目評価	(a・b・c・d・e)	a																																																																																																																																																																																																																																																							
評価対象項目・事業	<p>【目標】</p> <p>○ 児童生徒の心身の発達と健康の維持向上を図るため、適正な健康診断等を実施します。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																
	<p>2 【取組み】</p> <p>○ 毎年定期的に健康診断(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を実施し、児童生徒の疾病の早期発見につとめ、健康管理の維持向上を図りました。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																
	<p>《実施結果(抜粋)》</p>																																																																																																																																																																																																																																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目(抜粋)</th> <th>視力検査</th> <th>眼の検査</th> <th>聴力検査</th> <th>耳鼻科</th> <th>歯の検査</th> <th>尿検査</th> <th>結核検査(問診)</th> <th>視力検査</th> <th>眼の検査</th> <th>聴力検査</th> <th>耳鼻科</th> <th>歯の検査</th> <th>尿検査</th> <th>結核検査(問診)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">小学校</td> <td rowspan="5">H27</td> <td>受検者</td> <td>5,218人</td> <td>5,414人</td> <td>3,739人</td> <td>5,413人</td> <td>5,414人</td> <td>5,612人</td> <td>5,623人</td> <td>2,491人</td> <td>2,737人</td> <td>1,888人</td> <td>2,656人</td> <td>2,747人</td> <td>2,765人</td> <td>2,811人</td> </tr> <tr> <td>指摘あり</td> <td>—</td> <td>248人</td> <td>23人</td> <td>—</td> <td>3,381人</td> <td>80人</td> <td>14人</td> <td>—</td> <td>34人</td> <td>15人</td> <td>—</td> <td>2,198人</td> <td>115人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>治療勧告</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>受診報告</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>受診率</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">小学校</td> <td rowspan="5">H28</td> <td>受検者</td> <td>5,219人</td> <td>5,567人</td> <td>3,785人</td> <td>5,558人</td> <td>5,548人</td> <td>5,608人</td> <td>5,615人</td> <td>2,046人</td> <td>2,692人</td> <td>1,768人</td> <td>2,561人</td> <td>2,637人</td> <td>2,696人</td> <td>2,746人</td> </tr> <tr> <td>指摘あり</td> <td>—</td> <td>207人</td> <td>25人</td> <td>—</td> <td>3,477人</td> <td>81人</td> <td>8人</td> <td>—</td> <td>25人</td> <td>17人</td> <td>—</td> <td>2,300人</td> <td>104人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>治療勧告</td> <td>—</td> <td>208人</td> <td>407人</td> <td>—</td> <td>1,545人</td> <td>32人</td> <td>8人</td> <td>—</td> <td>24人</td> <td>321人</td> <td>—</td> <td>685人</td> <td>25人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>受診報告</td> <td>—</td> <td>110人</td> <td>194人</td> <td>—</td> <td>793人</td> <td>21人</td> <td>4人</td> <td>—</td> <td>8人</td> <td>55人</td> <td>—</td> <td>132人</td> <td>15人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>受診率</td> <td>—</td> <td>53%</td> <td>48%</td> <td>—</td> <td>51%</td> <td>66%</td> <td>50%</td> <td>—</td> <td>33%</td> <td>17%</td> <td>—</td> <td>19%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">中学校</td> <td rowspan="5">H29</td> <td>受検者</td> <td>5,421人</td> <td>5,609人</td> <td>3,817人</td> <td>5,615人</td> <td>5,601人</td> <td>5,688人</td> <td>5,703人</td> <td>2,044人</td> <td>2,650人</td> <td>1,783人</td> <td>2,627人</td> <td>2,637人</td> <td>2,651人</td> <td>2,696人</td> </tr> <tr> <td>指摘あり</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>治療勧告</td> <td>1,933人</td> <td>169人</td> <td>66人</td> <td>412人</td> <td>1,570人</td> <td>81人</td> <td>6人</td> <td>1,308人</td> <td>22人</td> <td>21人</td> <td>281人</td> <td>2,300人</td> <td>16人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>受診報告</td> <td>1,067人</td> <td>98人</td> <td>45人</td> <td>202人</td> <td>724人</td> <td>32人</td> <td>6人</td> <td>291人</td> <td>11人</td> <td>12人</td> <td>57人</td> <td>685人</td> <td>11人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>受診率</td> <td>55%</td> <td>58%</td> <td>68%</td> <td>49%</td> <td>46%</td> <td>40%</td> <td>100%</td> <td>22%</td> <td>50%</td> <td>57%</td> <td>20%</td> <td>30%</td> <td>69%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>											項目(抜粋)	視力検査	眼の検査	聴力検査	耳鼻科	歯の検査	尿検査	結核検査(問診)	視力検査	眼の検査	聴力検査	耳鼻科	歯の検査	尿検査	結核検査(問診)	小学校	H27	受検者	5,218人	5,414人	3,739人	5,413人	5,414人	5,612人	5,623人	2,491人	2,737人	1,888人	2,656人	2,747人	2,765人	2,811人	指摘あり	—	248人	23人	—	3,381人	80人	14人	—	34人	15人	—	2,198人	115人	4人	治療勧告	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	受診報告	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	受診率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	小学校	H28	受検者	5,219人	5,567人	3,785人	5,558人	5,548人	5,608人	5,615人	2,046人	2,692人	1,768人	2,561人	2,637人	2,696人	2,746人	指摘あり	—	207人	25人	—	3,477人	81人	8人	—	25人	17人	—	2,300人	104人	2人	治療勧告	—	208人	407人	—	1,545人	32人	8人	—	24人	321人	—	685人	25人	0人	受診報告	—	110人	194人	—	793人	21人	4人	—	8人	55人	—	132人	15人	0人	受診率	—	53%	48%	—	51%	66%	50%	—	33%	17%	—	19%	60%	0%	中学校	H29	受検者	5,421人	5,609人	3,817人	5,615人	5,601人	5,688人	5,703人	2,044人	2,650人	1,783人	2,627人	2,637人	2,651人	2,696人	指摘あり	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	治療勧告	1,933人	169人	66人	412人	1,570人	81人	6人	1,308人	22人	21人	281人	2,300人	16人	3人	受診報告	1,067人	98人	45人	202人	724人	32人	6人	291人	11人	12人	57人	685人	11人	3人	受診率	55%	58%	68%	49%	46%	40%	100%	22%	50%	57%	20%	30%	69%	100%
	項目(抜粋)	視力検査	眼の検査	聴力検査	耳鼻科	歯の検査	尿検査	結核検査(問診)	視力検査	眼の検査	聴力検査	耳鼻科	歯の検査	尿検査	結核検査(問診)																																																																																																																																																																																																																																																		
	小学校	H27	受検者	5,218人	5,414人	3,739人	5,413人	5,414人	5,612人	5,623人	2,491人	2,737人	1,888人	2,656人	2,747人	2,765人	2,811人																																																																																																																																																																																																																																																
			指摘あり	—	248人	23人	—	3,381人	80人	14人	—	34人	15人	—	2,198人	115人	4人																																																																																																																																																																																																																																																
			治療勧告	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																
			受診報告	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																
			受診率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																
小学校	H28	受検者	5,219人	5,567人	3,785人	5,558人	5,548人	5,608人	5,615人	2,046人	2,692人	1,768人	2,561人	2,637人	2,696人	2,746人																																																																																																																																																																																																																																																	
		指摘あり	—	207人	25人	—	3,477人	81人	8人	—	25人	17人	—	2,300人	104人	2人																																																																																																																																																																																																																																																	
		治療勧告	—	208人	407人	—	1,545人	32人	8人	—	24人	321人	—	685人	25人	0人																																																																																																																																																																																																																																																	
		受診報告	—	110人	194人	—	793人	21人	4人	—	8人	55人	—	132人	15人	0人																																																																																																																																																																																																																																																	
		受診率	—	53%	48%	—	51%	66%	50%	—	33%	17%	—	19%	60%	0%																																																																																																																																																																																																																																																	
中学校	H29	受検者	5,421人	5,609人	3,817人	5,615人	5,601人	5,688人	5,703人	2,044人	2,650人	1,783人	2,627人	2,637人	2,651人	2,696人																																																																																																																																																																																																																																																	
		指摘あり	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																	
		治療勧告	1,933人	169人	66人	412人	1,570人	81人	6人	1,308人	22人	21人	281人	2,300人	16人	3人																																																																																																																																																																																																																																																	
		受診報告	1,067人	98人	45人	202人	724人	32人	6人	291人	11人	12人	57人	685人	11人	3人																																																																																																																																																																																																																																																	
		受診率	55%	58%	68%	49%	46%	40%	100%	22%	50%	57%	20%	30%	69%	100%																																																																																																																																																																																																																																																	
<p>※1) 歯科健診については、要治療及び要注意乳歯のみ。</p> <p>※2) 結核検査の受診については、結核まん延率の高い国からの転入者を含む精密検査とする。(市から医療機関受診を案内しています)</p>																																																																																																																																																																																																																																																																	
<p>○ 健康診断での指摘に対し、その後に医療的処置を受けた児童生徒数について28年度から集計を行い、29年度からは項目の整理・追加をしています。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																	
<p>3 【実施結果・成果】</p> <p>○ 健康診断の結果に基づき、受診勧奨を行いました[実施結果(抜粋)は上表のとおり]。また、治療に伴う学校生活上の運動及び作業を軽減する等の指示に対し、適切な措置を講じました。</p> <p>○ 学校保健会の研究協議会(医科)において、児童生徒の受診結果及び予防措置等について協議を行いました。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																	
<p>4 【課題・今後の取組み】</p> <p>○ 健康診断の結果及び医療機関への受診率をもとに、学校保健会の研究協議会において調査研究を行い、児童生徒の健康の維持向上に努めます。また、受診勧告を受けた児童生徒の保護者に対し、学校より保健便りや連絡帳、電話等で受診勧告を行い、受診率の向上に努めます。</p> <p>○ 引き続き、予防措置に取り組み、健康管理の維持向上に努めます。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																	

目的	1) 保健安全教育の充実	目的評価	(A・B・C)	
	1) -2 子どもの健康管理にかかる研究会の実施	項目評価	(a・b・c・d・e)	a
評価対象項目・事業	<p>1 【目標】</p> <p>○ 児童生徒を取り巻く健康問題に対処し、学校保健の推進を図るため、養護教諭と保健主事を対象とした研究会を実施します。</p>			
	<p>2 【取組み】</p> <p>○ 学校保健に関する諸問題について共通理解を図るとともに対策を協議するため、鎌ヶ谷市学校保健会に学校医科研究協議会、学校歯科研究協議会及び学校薬科研究協議会を設置し、研究会を実施しました。</p> <p>○ 学校における食物アレルギー対応について協議するため、学校、教育委員会及び医師会の各担当者により、検討会を実施しました。</p>			
	<p>3 【実施結果・成果】</p> <p>○ 学校医科研究協議会、学校歯科研究協議会及び学校薬科研究協議会の実施状況は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医科(2回開催)…低線量X線撮影について 過呼吸について</li> <li>・ 歯科(2回開催)…歯科健康診断について フッ化物洗口について 歯科疾患に関する報告</li> <li>・ 薬科(1回開催)…講演会「殺菌・消毒薬の正しい知識」</li> </ul> <p>○ 食物アレルギー対応検討会議において、対象となる児童生徒の把握から対応までの流れや申請に係る必要書類等について意見交換及び検討を行いました。</p> <p>○ 食物アレルギー対応検討会議で挙げた意見を取りまとめ、より運用がしやすいように書式を見直しました。</p> <div data-bbox="760 1303 1312 1682" style="text-align: center;">  <p>健康な歯は一生の宝物。「フッ化物洗口」で</p> </div>			
	<p>4 【課題・今後の取組み】</p> <p>○ 医科、歯科及び薬科の諸問題について、三師会(鎌ヶ谷市医師会、船橋歯科医師会、船橋薬剤師会)の指示のもと研究に取り組み、学校現場の実情に合わせた課題解決に努めます。</p> <p>○ 食物アレルギー対応や学校健診について、業務や資料等の見直しを行い、課題の抽出に努めます。</p> <p>○ 食物アレルギー対応について学校及び保護者との連携を図るため、通知や手引きの配布及び教育委員会からの説明の機会を設けるなど、対応内容等の周知に努めます。</p>			

目的	2) 児童・生徒の安全確保	目的評価	(A・B・C)	A
	2) -1 通学路安全対策事業の実施	項目評価	(a・b・c・d・e)	a
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ ドライバーへの注意喚起や歩行者のための安全施設の設置により、登下校時における児童生徒の安全を図ります。			
	<b>2 【取組み】</b> ○ 指定通学路等の安全確保に努め、安全施設の設置・維持補修や樹木剪定・除草などの通学路安全対策事業を実施し、通学路の安全対策を進めました。 ○ 登下校中の児童生徒を犯罪から未然に防ぐため、人通りが少なく、近くに民家がないような閑散としている通学路に、子ども見守りカメラを設置しました。 ○ 警察及び安全協会の協力のもと、小学校中学年を対象に自転車安全運転講習会、中学生を対象としたスケアード・ストレイト自転車安全教室を実施しました。実施にあたっては、PTA、地元自治会及び学校評議員の方などに文書や学校ホームページにより、お知らせしました。 ○ 全中学校及び一部の小学校(9校中7校)で年度当初に、昨年度の実態を踏まえて、安全マップを作成しました。作成した安全マップは、各学校で安全指導の際に資料として活用し、防犯に対する意識を高めるとともに、日常的に児童生徒の目の留まりやすい場所に掲示しました。 ○ 中学校区ごとに安全ネットワーク会議(出席者:学校、PTA、自治会、民生委員児童委員、警察、市教育委員会など)に参加し、児童生徒の安全についての情報交換を行いました。			
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 安全施設の設置により児童生徒の登下校の安全を図りました。新設・補修を含めた主な整備内容は、すべり止めカラー舗装1か所、グリーンベルト3か所181m、看板設置18枚などです。 ○ 学校及び地域からの要望をもとに、第三中、第四中、第五中の通学路に、合計17台の子ども見守りカメラを設置しました。 ○ 子ども自転車安全運転講習会を小学校9校で実施しました。自転車通学生徒のいる第三中、第四中、第五中においてマナーアップ隊を結成し、生徒同士で自転車の乗り方などを確認し合いました。第四中、第五中においてスケアード・ストレイト自転車安全教室を実施しました。 ○ 小学校の自転車安全運転講習会において、警察及び担当者が、KYT <sup>※</sup> を導入し、直接指導しました。また、全小中学校で行う市教委訪問の際に、教職員に対しても直接指導し、KYTの実践をお願いしました。 ○ 全中学校区において安全ネットワーク会議を実施し、PTAや地域の方などにもご参加いただきました。 ※KYT: 事故や災害を未然に防ぐことを目的とした危険予知トレーニング。			
	<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 今後も、通学路の安全対策は求められることから、第三次通学路安全対策推進行動計画(平成28年度～平成32年度)に基づき、通学路安全対策事業を実施します。 ○ 第三次通学路安全対策推進行動計画に基づき、児童生徒が自らの身を守るための安全意識を高めることを目的とした安全指導について、学校とともに検討します。 ○ ハード面(通学路整備等)については、補修等が中心となります。また、29年7月1日からの鎌ヶ谷小・鎌ヶ谷中の通学区域の変更に伴い、対象地域の整備を優先的に実施します。ソフト面(児童生徒に対する交通安全指導: 自転車安全運転講習会、スケアード・ストレイト自転車安全教室、マナーアップ隊の活動等)については、今後も継続的に実施します。 ○ 今後は、市内の全小中学校で安全マップの作成が行えるよう、呼びかけを行ってまいります。 ○ 引き続き、市内全小中学校で、KYT等を導入した安全指導を実施します。			



恐怖を実感。交通ルールの大切さを学んだ  
「スケアード・ストレイト自転車安全教室」

目的	2) 児童・生徒の安全確保	目的評価	(A・B・C)	
評価対象項目・事業	2) -2 児童生徒安全パトロール事業	項目評価	(a・b・c・d・e)	a
	<p>1 【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒が犯罪に巻き込まれることのないよう、安全パトロールにより犯罪を抑止し、児童生徒の安全を確保します。</li> </ul>			
	<p>2 【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の下校時刻に合わせ、午後1時から6時30分まで、車両2台、徒歩2組でのパトロールを、午後3時から7時まで、車両1台、徒歩1組でのパトロールを実施しました。</li> <li>○ 青色パトロールカー5台を中学校区でローテーションを組み運用するとともに、実施計画及び実施報告の提出による効果的な運用を図りました。また、28年11月からは、青色パトロールカー1台を学校教育課に配置し、教育委員会でも、随時、パトロールを実施しました。</li> </ul>			
	<p>3 【実施結果・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 64箇所を見回りポイントとし、重点箇所については1日2回巡回しました。</li> <li>○ 不審者情報等が入った場合には、パトロール員へ直接情報提供を行い、学校や青少年センターと情報共有するなど、迅速に周辺パトロールを実施しました。</li> <li>○ 学校が長期休業中の間や下校が早まった時などは、児童生徒が集まりそうな公園等もパトロールを行いました。</li> </ul> <div data-bbox="555 1071 1151 1461" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">市内を循環して、子どもたちの安全を守ります</p>			
<p>4 【課題・今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ パトロール体制については、引き続き車両3台、徒歩3組の体制を維持し、児童生徒の安全確保を図ります。また、不審者情報が入った場合には、迅速な対応がとれるよう、学校教育課でも連絡受付体制を整え、必要に応じて学校、青少年センターや警察等と情報共有を行います。</li> <li>○ 中学校区ごとの安全ネットワーク会議や学校評議員会議などを通して、情報交換を行うとともに、保護者・学校・地域が一体となって児童生徒の安全の確保を図ります。</li> </ul>				

目的	3) 学校給食の充実と施設の整備	目的評価	(A・B・C)	A
	3) -1 学校給食の充実	項目評価	(a・b・c・d・e)	a
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 学校給食の栄養・衛生安全管理を徹底し、児童生徒に喜ばれる魅力ある学校給食を提供します。			
	<b>2 【取組み】</b> ○ 引き続き、児童生徒の心身の健全な発達に資する学校給食を提供しました。 ○ 学校給食の安全を確保するため、実際に提供した学校給食について定期的に放射性物質の測定を行いました。(ヨウ素131、セシウム134、セシウム137) ○ 学校給食の主な食材の産地について事前に市ホームページで公表しました。 ○ アレルギー除去食の段階的な提供に向け、関係機関と協議を行いました。			
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 最新設備と高度な衛生管理体制、また学校給食の高い専門知識やノウハウを有する民間企業との共同によりPFI事業のメリットを十分に活かした学校給食を186日間(降雪による休校のため1日休止)稼働し実施しました。(小学生)1,081,514食 <内アレルギー食1,277食> (中学生)504,902食(保護者試食会)444食 ○ 放射性物質の測定は、学期毎に1回(5食分提出)実施し、計15食の学校給食の測定を行いました。結果は全て「不検出」であり市ホームページで公表しました。 ○ 学校給食の食材については、28年9月から学校給食の主な食材の産地を事前に市ホームページで公表しました。 ○ 学校給食に関するアンケートについては、市内小学3年生・5年生及び中学1年生及び保護者試食会において実施しました。児童生徒のアンケート結果については、各小中学校長に報告しました。 ○ アレルギー除去食については、第一段階の「卵・乳」に加え、第二段階の①として「卵・乳・落花生」の除去食の提供を29年6月から開始しました。 ○ アレルギー除去食第二段階の②「卵・乳・落花生・えび・かに」の除去食を30年6月から開始することを関係機関と協議し、予定通り進めることを確認しました。 ○ 31年度からアレルギー除去食第三段階の「卵・乳・落花生・えび・かに・小麦」の除去食提供を目標にした方針を30年3月に決定しました。			
	<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 引き続き、安全安心な学校給食を提供できるよう取組みます。 ○ 食材に対する安全性の確保や産地の事前公表について、引き続き実施します。 ○ アンケート結果を活用し学校給食の質の向上に引き続き取組みます。 ○ 学校給食のアレルギー対応は第三段階の実施をめざして関係機関の連携と安全性確保に取り組みます。			

目的	3) 学校給食の充実と施設の整備	目的評価	(A・B・C)	
	3) -2 学校給食における食育の推進	項目評価	(a・b・c・d・e)	a
評価対象項目・事業	1 【目標】			
	○ 児童生徒や家庭への食育を推進するため、学校給食を通して食に対する理解を高める取組みを行います。			
	2 【取組み】			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校給食に鎌ヶ谷産野菜を使用した「鎌産鎌消献立」の取組みを定期的実施しました。</li> <li>○ 2020年のオリンピックに向けて、学校給食で世界の料理を紹介する取組みを始めました。</li> <li>○ 市にファイターズ鎌ヶ谷スタジアムが開場して20周年の記念事業として、7月に『鎌スタ☆開場20周年記念給食』を提供しました。</li> <li>○ 市の特色を活かした献立の提供を実施しました。</li> <li>○ 給食を提供する側と受ける側の距離を縮め、学校と学校給食センターとのつながりの見える化を図ることで、給食に親しみを感じてもらうことを目的として、小中学校において、残食量が少ないクラスに感謝の気持ちを込め「お礼の手紙」を渡しました。</li> <li>○ 給食センターを活用した食育の一環として、健康増進課と共催で夏休みに小学生の親子を対象とした学校給食センター調理場見学会を実施しました。</li> </ul>			
3 【実施結果・成果】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鎌ヶ谷産の食材が定期的に活用できるよう関係課と連携し、地元の農家の方々の協力を得ながら実施しました。</li> <li>○ 鎌ヶ谷産の野菜を月1回以上使用することを目標に掲げ、29年度は小中各11回、献立に必要な野菜を納品いただきました。また、本市のFacebookに掲載し周知しました。</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界の料理は、子どもたちに身近なALTのふるさとの味を紹介しました。(グヤーシュ&lt;ドイツ・ハンガリー&gt;、クラムチャウダー&lt;アメリカ&gt;、チリコンカン&lt;アメリカ&gt;)</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『鎌スタ☆開場20周年記念給食』は、ファイターズの選手が体作りのために普段食べているメニューと同じものを献立にしました。北海道日本ハムファイターズの選手から食に関するメッセージをいただき、給食時間に放送しました。また、メッセージの内容をまとめた給食だより(号外)を児童生徒に配布しました。</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒が食への関心を持つことを目的に、20周年記念終了後も『鎌スタ☆給食』を提供することとし、12月、2月にも関連付け、献立を作成し提供しました。</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎日集計している残食量をもとに各学期毎に残食量の少ないクラスに「お礼の手紙」を渡しました。29年度も昨年度に引き続き前年の同学期に比べ学校数、クラス数が増加したこともあり、残食率が低下しました。</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 親子見学会「それ行け！学校給食センター」を開催しました。定員40人のところ、15組39人が参加しました。2グループに分け、給食センターの調理場の見学や調理員体験、健康増進課による野菜クイズなどの食育と給食をアレンジした朝食レシピの試食を実施しました。</li> </ul>				
4 【課題・今後の取組み】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き、将来を担う子どもたちが自然の恵みである食物の大切さを知り、健康に暮らしていくため食育を推進します(市にちなんだ献立・世界の料理献立の提供や、学校への各月の給食説明の充実など)。</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校給食の残食量を削減するため、学校と連携し新たな手法を検討します。「お礼の手紙」の取組みを継続します。</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給食センターを活用した食育活動の推進を図るため、30年度の夏休み期間中に親子見学会を開催する準備を進めます。</li> </ul>				



『世界の料理～ALTの先生のふるさとの味 ドイツ・ハンガリー料理～』  
ミルクパン/牛乳/ハンバーグ/キャベツのシャラータ(サラダ)/グヤーシュ



『鎌スタ☆開場20周年記念給食』  
ご飯/牛乳/鶏肉とトマトソースがけ/アスパラサラダ/コロコロ野菜のコンソメスープ/タルト

	H27	H28	H29
小学校残食率	23.7%	19.9%	17.4%
中学校残食率	28.0%	27.2%	25.1%
計	25.4%	22.7%	20.3%

目的	3) 学校給食の充実と施設の整備	目的評価	(A・B・C)	
	3) -3 学校給食PFI事業のモニタリング	項目評価	(a・b・c・d・e)	b
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ PFI学校給食事業において、長期間(15年間)に亘る維持管理運営業務期間の履行状況について、モニタリング(監視・確認)を実施します。			
	<b>2 【取組み】</b> ○ PFI学校給食事業における事業者の契約内容の履行状況の確認を定期(各月、四半期、年間)・不定期の方法でモニタリングに取組みました。 ○ モニタリング結果について、市民目線でPFI学校給食事業をモニタリングする組織に位置付けられている学校給食センター運営委員会に報告しました。 ○ 事業者の提案内容である食育イベントや残滓の一部を活用した有機肥料の有効的な活用など、これらの具現化を図るために事業者と協議を行いました。			
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 事業者の契約内容の履行状況と日々の業務状況を併せてモニタリングを実施し、四半期ごとに評価を行い、月例会議に報告するとともに意見交換を行い、日々の改善につなげました。 ○ 学校給食センター運営委員会を年2回開催し、事業者の財務状況や四半期及び年間のモニタリング結果をご審議いただきました。年間のモニタリング結果については、維持管理・運営とも、改善の余地があり、今後も注視していく必要があります。なお、詳細な結果については、市のホームページで公表しています。 ○ 29年度から新たに、残滓の一部を活用した有機肥料を学校給食センター内にある「食育ガーデン」にて使用し、小学校の見学時に本物の野菜が育つ過程を見てもらい、食育につなげるよう、給食で使用する野菜を育てる取組みを始めました。 ○ 29年度から食育イベントとして、親子イベントを開催しました。実施に向け事業者と協議を重ね、調理場の見学及び調理員体験時の説明役を事業者が主に行い、イベント準備やリハーサル、当日の運営については、共同で実施しました。			
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="269 1166 786 1561">  </div> <div data-bbox="860 1166 1393 1561">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div data-bbox="318 1571 704 1598">親子イベントでの調理員体験(釜混ぜ)</div> <div data-bbox="880 1571 1380 1598">学校見学の教材として、成長途中の玉ねぎを採取</div> </div>			
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 市の要求水準に満たない項目が発生しないよう、あらゆる角度からモニタリングを行います。 ○ PFI学校給食事業の安全性や安定性について、透明性を確保した公表に努めるため、学校給食センター運営委員会を定期的に開催します。 ○ 事業者との共同による親子見学会の開催に取り組みます。				

政策	Ⅱ 人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	評価欄		
施策	3 高度学習への道(高等教育の充実)	政策評価	(A・B・C)	B
目的	1) 義務教育修了者の進路選択への支援	目的評価	(A・B・C)	B
	1) -1 より良い進路選択の支援	項目評価	(a・b・c・d・e)	b
評価対象項目・事業	<p>1 【目標】</p> <p>○ 義務教育終了時の生徒に対し、一人ひとりの能力や適性に応じた進路指導に努めます。</p> <hr/> <p>2 【取組み】</p> <p>○ 各中学校の教職員に対し、進路に関わる新しい情報を提供しました。</p> <p>○ 中学校と市内の千葉県立高等学校(鎌ヶ谷高等学校・鎌ヶ谷西高等学校)との連携を深める実践を推進しました。</p> <p>○ 義務教育修了者の進路選択にあたっては、就学費用の支出が困難な保護者に対し、学校教育課の窓口や学校から必要に応じて各種奨学金の情報提供を行いました。</p> <hr/> <p>3 【実施結果・成果】</p> <p>○ 各中学校の教職員が、生徒の能力や適性に応じた進路選択への支援(進路指導)に当たることができるよう、近隣の千葉県立高等学校、各市立高等学校、私立高等学校等の受験に関する情報提供等を行いました。</p> <p>○ 中学校に千葉県立高等学校の教師を招き、専門性豊かな授業実践を展開するとともに、中学校教師の研修の一翼を担いました。</p>			
	 <p>高等学校の教諭による出前授業</p>			
	<p>○ 第四中が千葉県の施策「小・中・高連携の特別授業」を実施しました。5人の高校教諭が来校し、それぞれの教科について授業を行いました。</p> <hr/> <p>4 【課題・今後の取組み】</p> <p>○ 増加する外国籍児童生徒、特別支援学級に籍を置く児童生徒、長期欠席児童生徒に対して、関係機関との連携を図りながら、進路指導の工夫等をさらに充実させます。</p> <p>○ 子どもの進学に際して奨学金を必要と考える保護者等に、現行の諸制度を具体的に照会するなど周知に努めます。</p> <p>○ 各中学校・高等学校の学校公開等の行事予定や案内について積極的に情報提供するよう努め、中高生の交流及び連携の在り方をさらに模索していきます。</p> <p>○ 今後も千葉県の施策「小・中・高連携の特別授業」を推進します。</p>			

目的	2) 高度学習ニーズへの対応	目的評価	(A・B・C)	B																																						
	2) -1 大学との連携による高度な学習機会の提供	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																																						
	<b>1 【目標】</b> ○ 市民の高度で専門的な学習要求に応えるため、大学等の高等教育機関をはじめ、学習機関との連携に努め、学習機会を提供します。																																									
	<b>2 【取組み】</b> ○ 市民の学習意欲が高まっており、かつまた、その内容についてもハイレベルなものを求めている学習者が「アンケート」などで多く見られるようになってきました。こうした現状から、「人間性豊かな社会生活」を営む上で、現代的課題を中心としたハイレベルな学習機会を提供するため、大学の講師などの人材を活用した講座を開催しました。  ○ オープンカレッジは、市民の企画委員による効果的な事業展開を検討し実施しました。																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>月 日</th> <th>内 容</th> <th>学習方法</th> <th>講 師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8月19日(土)</td> <td>心がうれしくなるコミュニケーションと心理学</td> <td>講義</td> <td rowspan="8">千葉経済大学短期大学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>8月26日(土)</td> <td>世界経済の行方～21世紀という混迷の時代～</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>9月2日(土)</td> <td>高齢社会の子育て論～孫と子どもとどう付き合うか～</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9月9日(土)</td> <td>ネット社会の怖さ、便利さ～あなたはどのくらい知っていますか～</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>9月16日(土)</td> <td>トランプ政権のゆくえ～保護主義と日本経済～</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>9月23日(土)</td> <td>皇子誕生の光と影～『源氏物語』『紫式部日記』を中心に～</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>9月30日(土)</td> <td>生まれて老いて病んで～心もからだも健やかに～</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>10月7日(土)</td> <td>成田山新勝寺と江戸文化～市川團十郎との絆を中心に～</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	月 日	内 容	学習方法	講 師	1	8月19日(土)	心がうれしくなるコミュニケーションと心理学	講義	千葉経済大学短期大学部	2	8月26日(土)	世界経済の行方～21世紀という混迷の時代～	講義	3	9月2日(土)	高齢社会の子育て論～孫と子どもとどう付き合うか～	講義	4	9月9日(土)	ネット社会の怖さ、便利さ～あなたはどのくらい知っていますか～	講義	5	9月16日(土)	トランプ政権のゆくえ～保護主義と日本経済～	講義	6	9月23日(土)	皇子誕生の光と影～『源氏物語』『紫式部日記』を中心に～	講義	7	9月30日(土)	生まれて老いて病んで～心もからだも健やかに～	講義	8	10月7日(土)	成田山新勝寺と江戸文化～市川團十郎との絆を中心に～	講義
回	月 日	内 容	学習方法	講 師																																						
1	8月19日(土)	心がうれしくなるコミュニケーションと心理学	講義	千葉経済大学短期大学部																																						
2	8月26日(土)	世界経済の行方～21世紀という混迷の時代～	講義																																							
3	9月2日(土)	高齢社会の子育て論～孫と子どもとどう付き合うか～	講義																																							
4	9月9日(土)	ネット社会の怖さ、便利さ～あなたはどのくらい知っていますか～	講義																																							
5	9月16日(土)	トランプ政権のゆくえ～保護主義と日本経済～	講義																																							
6	9月23日(土)	皇子誕生の光と影～『源氏物語』『紫式部日記』を中心に～	講義																																							
7	9月30日(土)	生まれて老いて病んで～心もからだも健やかに～	講義																																							
8	10月7日(土)	成田山新勝寺と江戸文化～市川團十郎との絆を中心に～	講義																																							
	※ 7年度に開講し、29年度まで23回開講しました。																																									
	○ 和洋女子大学との連携により、市民セミナー(文学講座)を実施しました。																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>月 日</th> <th>内 容</th> <th>学習方法</th> <th>講 師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>11月6日(月)</td> <td>「春琴」と「佐助」の物語</td> <td>講義</td> <td rowspan="4">和洋女子大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>11月13日(月)</td> <td>「私」と谷崎</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>11月20日(月)</td> <td>「芸人」の物語</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>11月27日(月)</td> <td>「春琴抄」と現代</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	月 日	内 容	学習方法	講 師	1	11月6日(月)	「春琴」と「佐助」の物語	講義	和洋女子大学	2	11月13日(月)	「私」と谷崎	講義	3	11月20日(月)	「芸人」の物語	講義	4	11月27日(月)	「春琴抄」と現代	講義																
回	月 日	内 容	学習方法	講 師																																						
1	11月6日(月)	「春琴」と「佐助」の物語	講義	和洋女子大学																																						
2	11月13日(月)	「私」と谷崎	講義																																							
3	11月20日(月)	「芸人」の物語	講義																																							
4	11月27日(月)	「春琴抄」と現代	講義																																							
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 千葉経済大学短期大学部との連携による『オープンカレッジかまがや』の実施及び和洋女子大学との連携による『市民セミナー(文学講座)』を実施しました。																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業名</th> <th colspan="2">H27</th> <th colspan="2">H28</th> <th colspan="2">H29</th> </tr> <tr> <th>講座回数</th> <th>参加人数</th> <th>講座回数</th> <th>参加人数</th> <th>講座回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンカレッジ</td> <td>8回</td> <td>632人</td> <td>8回</td> <td>384人</td> <td>8回</td> <td>609人</td> </tr> <tr> <td>市民セミナー</td> <td></td> <td></td> <td>4回</td> <td>159人</td> <td>4回</td> <td>130人</td> </tr> </tbody> </table>				事業名	H27		H28		H29		講座回数	参加人数	講座回数	参加人数	講座回数	参加人数	オープンカレッジ	8回	632人	8回	384人	8回	609人	市民セミナー			4回	159人	4回	130人											
事業名	H27		H28			H29																																				
	講座回数	参加人数	講座回数	参加人数	講座回数	参加人数																																				
オープンカレッジ	8回	632人	8回	384人	8回	609人																																				
市民セミナー			4回	159人	4回	130人																																				
	※ オープンカレッジの参加人数は、28年度に算定方法を見直したため減となりました。29年度は広報で参加者募集する前に、事前PRのチラシを配布し、また講座内容をわかりやすくするためテーマに副題を標記するなど、PRを工夫し参加者の増加につなげました。																																									
	<b>4 【今後の課題・取組み】</b> ○ 多様化・高度化する市民の〈学習ニーズ〉をアンケート等により的確に把握し、こうしたニーズに対応できる学習機会を提供します。 ○ 市民が参画する「企画委員会」を設置し、テーマや講義内容について論議し、「市民がどのようなものに興味を抱いているか」など、「市民がつくりあげた講座」として運営します。 ○ 千葉経済大学短期大学部との連携により実施する『オープンカレッジかまがや』のほか、和洋女子大学など、他の大学との連携も強化し事業実施を図ります。																																									

評価対象項目・事業

政策	Ⅱ 人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	評価欄																										
施策	4 青少年の健全育成	政策評価	(A・B・C)	B																								
目的	1) 青少年の育成指導体制の充実	目的評価	(A・B・C)	B																								
	1) -1 青少年関係団体への支援	項目評価	(a・b・c・d・e)	C																								
評価対象項目・事業	<p><b>1 【目標】</b></p> <p>○ 家庭、地域社会、学校、行政が相互に連携し合い、青少年の健全育成に取り組める体制づくりをめざします。</p> <p><b>2 【取組み】</b></p> <p>○ 青少年関係団体の自主的な活動及び連携を図るため、団体活動の奨励及び活動支援を行いました。</p> <p>○ 各団体への補助金への算出根拠としては、鎌ヶ谷市社会教育関係団体等活動補助金交付基準により算出しました。</p> <p><b>3 【実施結果・成果】</b></p> <p>○ 各青少年関係団体へ活動の奨励や調整、支援を行った結果、学校や地域でのお祭りやイベントへの参加やパトロール活動等を通し、青少年に顔の見える事業を展開しました。</p> <p>○ 課題であった中高生や大学生などの青少年のボランティアの活用については、一部の事業で実施しました。</p> <p>○ 各青少年関係団体においては、補助金を活用し以下の事業を実施しました。</p> <p>＜青少年相談員連絡協議会＞        オーバーナイトハイキング※、広報活動、ウォーターバトルやダンボールお泊り会等の各小中学校区における学区事業</p> <p>＜子ども会育成会連絡協議会＞        子どもまつり、イルミネーション、育成者・指導者研修、各単位子ども会での事業</p> <p>＜青少年育成推進委員会＞        もちつき大会、夏祭り、ふれあいコンサート、親睦野球大会、いも煮会、バス研修、壁新聞等の広報活動</p> <p>＜スカウト連絡協議会＞        スカウト連絡協議会全体事業「ちびっ子あつまれ」、各隊による夏季キャンプ、地域行事への参加</p> <p>※オーバーナイトハイキング        市内在学の小学4年生から中学3年生までの青少年100人が、仲間と一緒に夜通し歩き、互いに励まし合いながら、達成感などを体験することで、子どもたちが健やかに成長していくことを目的としています（保護者同伴）。</p> <p>○ 青少年育成推進委員会では、壁新聞を作成し市役所や各学校などで巡回掲示をしました。</p> <p>○ 各青少年団体への補助金は、団体が行う事業に対する補助金です。青少年健全育成事業、社会参加・体験活動の機会づくり事業などに対して、交付基準に基づき対象経費や補助率・補助基準額等をふまえ、毎年申請の適否の審査を行い交付額の決定を行いました。各団体が実施する事業の参加人員つきまちは、毎年多少の増減はしますが、事業に対する補助金であることから、補助金額に変動ありません。これまでも青少年団体育成により、つながってきた人材を輩出すべく、市のブランドコンセプト「育つまちかまがや」の実現に向けた事業の検討を要請しながら、まちづくりを担う人材の育成を目指してまいります。</p>																											
	 <p>いつもは寝ている時間にまちを探検！ (オーバーナイトハイキング)</p>		<p>青少年団体への支援(補助金)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青少年相談員連絡協議会</td> <td>752千円(47人)</td> <td>752千円(47人)</td> <td>752千円(47人)</td> </tr> <tr> <td>子ども会育成会連絡協議会</td> <td>648千円(1,003人)</td> <td>648千円(827人)</td> <td>648千円(594)</td> </tr> <tr> <td>青少年育成推進委員会</td> <td>720千円(238人)</td> <td>720千円(242人)</td> <td>720千円(247)</td> </tr> <tr> <td>スカウト連絡協議会</td> <td>288千円(164人)</td> <td>288千円(188人)</td> <td>288千円(185)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,408千円</td> <td>2,408千円</td> <td>2,408千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※子ども会育成会連絡協議会の参加人数が減少していますが、未加入団体に対し、同協議会へ参加するメリットを十分説明し、啓発につとめます。</p>				H27	H28	H29	青少年相談員連絡協議会	752千円(47人)	752千円(47人)	752千円(47人)	子ども会育成会連絡協議会	648千円(1,003人)	648千円(827人)	648千円(594)	青少年育成推進委員会	720千円(238人)	720千円(242人)	720千円(247)	スカウト連絡協議会	288千円(164人)	288千円(188人)	288千円(185)	合計	2,408千円	2,408千円
	H27	H28	H29																									
青少年相談員連絡協議会	752千円(47人)	752千円(47人)	752千円(47人)																									
子ども会育成会連絡協議会	648千円(1,003人)	648千円(827人)	648千円(594)																									
青少年育成推進委員会	720千円(238人)	720千円(242人)	720千円(247)																									
スカウト連絡協議会	288千円(164人)	288千円(188人)	288千円(185)																									
合計	2,408千円	2,408千円	2,408千円																									
	<p><b>4 【課題・今後の取組み】</b></p> <p>○ 青少年健全育成に関する情報を提供することによって青少年関係団体の活性化を図ります。</p> <p>○ 青少年団体に対しては、次代を担う青少年の育成をふまえ、今後も支援を行います。</p>																											

目的	2) 青少年の社会参加・体験活動の機会づくり	目的評価	(A・B・C)	B																				
	2) -1 青少年活動の充実	項目評価	(a・b・c・d・e)	b																				
	<p><b>1 【目標】</b></p> <p>○ 青少年が社会性や社会規範を身につけ、自立心や思いやりの心を培うことができるような活動機会を提供します。</p> <p><b>2 【取組み】</b></p> <p>○ 子ども会育成会連絡協議会との共催により、小学4年生から6年生までの児童60人を対象に、7回の自然体験・学校外体験学習を通じ、将来の青少年リーダーの育成を図る「元気っ子ゼミナール」を実施しました。</p> <p>○ 青少年相談員連絡協議会との共催によるオーバーナイトハイキング等の実施、各中学校区の青少年育成推進委員会でのもちつき大会や夏祭り、バスハイク事業などの活動支援を行いました。</p> <p><b>3 【実施結果・成果】</b></p> <p>○ 元気っ子ゼミナール参加者数</p> <table border="1" data-bbox="808 641 1485 746"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催数</td> <td>7回</td> <td>7回</td> <td>7回</td> </tr> <tr> <td>延べ参加者数</td> <td>365人</td> <td>382人</td> <td>383人</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">友達がたくさんできた！元気っ子ゼミナール</p> <p>○ 全7回のプログラムは、子ども会育成会連絡協議会リーダーズクラブが企画運営、研修生への指導を行いました。プログラムは、様々な体験活動を取り入れリーダー育成を行い、参加する保護者に対して体験活動の必要性について理解してもらえるような内容で実施しました。また、研修終了後は、17人が鎌ヶ谷市子ども会育成会連絡協議会リーダーズクラブに加入（千葉県子ども会育成連合会主催のジュニアリーダー初級認定講習会に16人参加）しました。</p> <p>○ 青少年の体験活動等参加者数</p> <table border="1" data-bbox="267 1366 906 1466"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体験活動等参加者数</td> <td>11,867人</td> <td>10,487人</td> <td>8,635人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※ 各イベントの参加者数は、前年度程度でしたが、このうち、復興支援チャリティフェスタの人数が、当日雨天の中での開催のため減少しました。</p>  <p style="text-align: center;">浴衣を着て出かけよう、夏祭り</p> <p>○ 復興支援チャリティフェスタ、TAG鬼ごっこ、青少年育成推進委員会の事業において、小・中・高校生などのたくさんのボランティアが参加し、青少年にさまざまな体験活動の場を提供しました。 ※青少年育成推進委員会（五中学区「何でも体験隊」）では、「何でも体験隊」に参加したことのある高校生などが、ボランティアスタッフとして活躍しました。</p> <p><b>4 【課題・今後の取組み】</b></p> <p>○ 元気っ子ゼミナールのプログラムでは、青少年自らが主体的に企画し、活動するという内容を検討します。</p> <p>○ さまざまな事業に、中・高・大学生などの青少年ボランティアの参加を進めます。</p>					H27	H28	H29	開催数	7回	7回	7回	延べ参加者数	365人	382人	383人		H27	H28	H29	体験活動等参加者数	11,867人	10,487人	8,635人
	H27	H28	H29																					
開催数	7回	7回	7回																					
延べ参加者数	365人	382人	383人																					
	H27	H28	H29																					
体験活動等参加者数	11,867人	10,487人	8,635人																					

評価対象項目・事業

目的	3) 非行防止対策の推進	目的評価	(A・B・C)	A																					
	3) -1 青少年の非行防止活動	項目評価	(a・b・c・d・e)	a																					
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 学校や家庭、地域などと連携を図りながら、青少年の非行防止をめざします。																								
	<b>2 【取組み】</b> ○ 学校、地域、警察など関係機関と連携を図るとともに、青少年補導員等の協力により「街頭補導活動」「相談活動」等を行い、青少年の非行の早期発見、早期指導に努めました。 ○ 情報メディアの急速な発展にともない、主にインターネット上において青少年に対する有害情報や誹謗中傷の書き込みは、増加傾向にあり、それらの有害な情報は子どもたちがいじめや事件に巻き込まれ、被害者となったり、加害者にもなる要因となっています。こうした有害情報や悪質な書き込み情報などから子どもたちを守るため、インターネット上の書き込みを検索し、監視を行いました。29年度の年間検索件数は2,757件で、月平均で230件となっています。 ○ 不審者から地域で子どもたちを見守る「かまがや83+運動」を展開するとともに、いじめ・悩みなどをインターネットを通じて相談できる「青少年インターネット目安箱」を設置しました。																								
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 学校、地域、関係機関からの情報をもとに非行や不審者等に対する積極的なパトロールを実施しました。後期基本計画に掲げる施策の成果目標値では、地域見守り活動従事者数（補導従事者数）を1,250人としていましたが、29年度の実績値は1,405人に増加しています。																								
	<table border="1" data-bbox="253 924 878 1168"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>補導回数</td> <td>481回</td> <td>476回</td> <td>521回</td> </tr> <tr> <td>補導従事者(地域見守り活動従事者)</td> <td>1,161人</td> <td>1,234人</td> <td>1,405人</td> </tr> <tr> <td>補導人数</td> <td>167人</td> <td>163人</td> <td>92人</td> </tr> <tr> <td>電話相談</td> <td>30人</td> <td>11人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>来所相談</td> <td>128人</td> <td>15人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	補導回数	481回	476回	521回	補導従事者(地域見守り活動従事者)	1,161人	1,234人	1,405人	補導人数	167人	163人	92人	電話相談	30人	11人	7人	来所相談	128人	15人	5人
	H27	H28	H29																						
補導回数	481回	476回	521回																						
補導従事者(地域見守り活動従事者)	1,161人	1,234人	1,405人																						
補導人数	167人	163人	92人																						
電話相談	30人	11人	7人																						
来所相談	128人	15人	5人																						
<div style="text-align: center;">  <p>子どもたちの安全を守ります (補導員パトロール)</p> </div> ○ 不審者情報は横ばいで推移していますが、昨年度松戸市で起きた事件を受け、朝パトロールを実施した結果、補導回数が増加しましたが、その結果、抑止力が働き補導人数は減少しました。 ○ 学校における生徒指導との関係が深いことや、青少年非行に対する処遇など警察関係と関わりが深いことから、元学校教職員であるプロジェクトマネージャー2人、元警察職員である社会教育指導員2人を配置し、パトロール等を行います。 ○ 青少年センターにて非行等の青少年に関する相談を行っていることを、新たに市広報で毎月掲載を始めるとともに、各種会議等においてPRを行いました。 ○ 「かまがや83+運動」や「青少年インターネット目安箱」については、チラシを作成し、自治会（班回覧）や学校に配布するとともに、広報かまがや、ホームページ、センター機関誌「緑の子」などに掲載し啓発を行いました。																									
<b>4 【課題・今後の取組み】</b> ○ 少年の非行や問題行動、SNSなどを悪用した「ネット犯罪」の対策が課題となっており、従事する職員等の研修を昨年度に引き続き行います。また、ネットパトロールを実施し、問題のある書き込みを発見した場合は、学校、地域、警察など関係機関に提供し、犯罪防止の強化に取り組みます。 ○ 複雑化する青少年の相談の問題を効果的に解決するために、こども総合相談室や児童相談所などの関係機関や民生委員・児童委員などの地域の人材との連携をより一層深めます。また、長欠児童・生徒の相談については、ふれあい談話室との連携を図ります。																									

目的	4) 家庭・地域の教育力の向上	目的評価	(A・B・C)	B							
	4) -1 家庭教育の啓発	項目評価	(a・b・c・d・e)	b							
評価対象項目・事業	<b>1 【目標】</b> ○ 家庭教育の重要性について意識の醸成を図ります。										
	<b>2 【取組み】</b> ○ 家庭教育の重要性を啓発するため、市内の小中学生から「家庭川柳」を募集し、入賞作品及び全応募作品をイオン鎌ヶ谷ショッピングセンターやまなびいプラザにおいて展示するとともに、市広報・ホームページに掲載しました。 ○ 家庭川柳の応募作品を活用し、父親の家庭教育や地域活動への参加を推進する取組みを実施しました。 ○ 「早寝早起き朝ごはん」運動を通して、心身ともに健康な子どもたちの育成につとめました。										
	<b>3 【実施結果・成果】</b> ○ 小学6年生及び中学生から「家庭川柳」を募集し、小学生の部として金賞1点・銀賞3点・銅賞15点、中学生の部として金賞1点・銀賞3点・銅賞15点の優秀作品を選出し、顕彰しました。 ○ 家庭を顧みるきっかけづくりとするため、入賞作品及び全応募作品を、展示施設の協力により昨年引き続きイオン鎌ヶ谷ショッピングセンターに展示するとともにまなびいプラザミニギャラリーに展示するほか、市広報・ホームページに掲載しました。										
	<table border="1" data-bbox="289 948 1089 1029"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募作品数</td> <td>1,194点</td> <td>1,538点</td> <td>1,423点</td> </tr> </tbody> </table> ○ 父親の育児参加への促進及び家庭を顧みるきっかけづくりのため、応募作品の中から父親が題材になっている作品を集め、市民が参画する各種会議において配布し、作品の有効活用を図りました。 ○ 作品の応募への取組みとしては、小中学校との協力体制を図りながら、各中学校においては応募箱の設置など応募しやすい環境整備に努めているところですが、中学生については自発的な参加を基本としているため、応募作品数が年によって増減しています。 <div style="text-align: center;">  <p data-bbox="480 1589 818 1647">イオン鎌ヶ谷ショッピングセンターでの作品展示</p> </div>					H27	H28	H29	応募作品数	1,194点	1,538点
	H27	H28	H29								
応募作品数	1,194点	1,538点	1,423点								
<b>4 【今後の課題・取組み】</b> ○ 家庭教育の重要性を啓発するため、関係機関と連携を図り、より効果的な事業が展開できるよう取り組みます。 ○ 家族の大切さやありがたさに気づいてもらうことなどを目的とした「家庭川柳」事業のPRを引き続き行うとともに、小中学校・展示施設との協力体制の強化を図ります。 ○ 家庭川柳の募集・顕彰・作品展示にとどまらず、応募作品の有効活用を工夫し、家庭の絆を深めるきっかけづくりや啓発につとめます。											

## 学識経験者の意見

## 鎌ヶ谷市教育委員会の点検・評価（平成29年度対象）についての意見

秀明大学 学校教師学部

教授 近藤 公一

### 1. はじめに

2020（平成32）年度から始まる大学入学共通テストの2018年度試行調査が11月に予定されている。この試行調査は2017年11月にすでに実施され、公表されたその問題から新しい大学入試の方向性が見えた。しかし、試験を受けた高校生からは「今の高校の授業では解けない」との感想が寄せられている。国語は、部活動規約に関する生徒や教員の会話文、部活動に関する要望など5つの資料を読んで答えるという問題で、資料を読み解き、言葉を使って表現する力を問う問題であった。数学は、数列などを使って薬効成分が血中に残る量を計算し、服用の間隔や量を変えた場合の効果や副作用について答えるもので、これもグラフや文脈の中から必要な情報を取り出す読解力が求められている。試行調査であるから、このレベルの問題がそのまま共通テストとなるとは考えられないが、思考力・判断力・表現力を身につけさせるための「主体的・対話的で深い学び」を推進していかなければならないことに変わりはない。

英語は「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を評価するために民間の資格・検定試験を活用することが決まっている。しかし、すべての資格・検定試験が全都道府県で受験できるわけではないこと、試験によってかなりの試験料が必要であることなど、受験機会の公平性の点からも課題は多い。

高校の調査書（調査書の枚数は無制限とされる）を大学一般入試に積極的に活用せよとの文部科学省の求めもあり、高校教員の負担はこれまでとは比較にならないほどの重さになるはずである。高校3年間の学びの過程を調査書に書き込むことにより「主体性を持って多様な人たちと協働して学ぶ態度を評価する」ことは大変意義あることではある。しかし、その調査書を大学側がどこまで合否判定に生かすのかは定かでないし、すでに「合否判定には使わない」としている大学もある。入試改革の理想と教育現場・現状とのギャップばかりが目について仕方ない。

教員の働き方改革についても同様である。今年2月に文科省は全国の都道府県教育委員会に通知を出し、教員の長時間労働の改善を促している。「促している」というのは、多くを教育委員会や学校の創意工夫にゆだねているからである。教員の業務の負担軽減の方法を助言されても意味はない。重要なことは、教員が本来の業務に専念できる環境を作り出すことである。国が財政的支援を講じて、職員を配置するなどの処置を教育委員会・学校がとれるようにしなければ、結局、教員の働き方改革も掛け声だけに終わってしまうだろう。

昨年度も書かせていただいたが、理想のみが先行する、実態とかけ離れた改革（例えば財政的な支援のない改革）は、望ましい結果をもたらさしめないだろう。現状を正確に把握し、そのうえで改善を図るべきである。それゆえ、点検・評価は重要な作業である。今回も、継続される事業はもちろん、新たな取り組みについても、それが市民のニーズに応えるものになっているかを評価の基準として、点検・評価させていただくことにする。

## 2. 政策Ⅰ 生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります

### 施策1 いきいきとした生涯学習の推進

#### 目的1) 生涯学習環境づくり

小中学校施設の開放は、学校が地域の生涯学習の拠点となるうえで非常に重要であるが、平成29年度は、利用件数で約160件、利用者人数で約4500人が28年度よりも増加している。各校のコミュニティスクール運営委員会が各団体の利用調整を行って、本事業を成功させていることに敬意を表したい。施設開放に伴う騒音問題に関しては、近隣住民への配慮を利用団体に周知するなどして、苦情件数の減少につなげたことも評価できる点である。また、インターネットのトラブルに子どもたちが巻き込まれないように意見交換を行ったことは、地域の教育力向上を図る上で非常に重要である。学校施設の開放が、学校と保護者、地域の方々とが協働しながら子供たちの成長を支える動きを促進させるものになることを願いたい。

一方、教員の多忙化の影響を受けて、学校教員が講師となって行うオープンセミナーが2講座のみになってしまったことは残念である。昨年度は「生涯教育の核の一つとなるべき学校は、施設の開放のみならず人的資源の積極的提供を考えてもらいたい」と注文を付けたが、現在の教員の勤務状況を考えれば致し方ないことだと言えよう。これまでの業務に加え、新学習指導要領の実施に向けた「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、小学校英語の教科化、道徳の教科化、カリキュラム・マネジメント等々、教師が取り組むべき課題はますます増えており、「はじめに」に書いた通り、国による教員の働き方改革は掛け声だけに終わりそうであるから、オープンセミナーの開催を無理強いすることはできないだろう。講座の開催時期等を検討するとともに、開設講座の内容も含めて、教員が講座を開催できる環境を整えていただきたい。

図書館が市民の学習要求に応えようと工夫や努力を重ねてきていることが伺える。利用者数や貸し出し冊数の増加はもちろんだが、コンシェルジュ（お客様案内係）の配置、しかもコンシェルジュスタッフが巡回を行って利用者が声を掛けやすい環境を作るなど、利用者本位のきめ細やかなサービスを提供しており感心させられる。インターネット予約の開始時には、ネットを使用できない年齢層の方の利用を工夫していただきたいとの要望を出したが、こちらの方は毎年読書週間に合わせて市広報に図書館事業のお知らせを載せ、さらには図書館だよりを発行するなどして、利用者に情報提供を行っており、安心している。認知症予防の講演会の開催、認知症に優しい本棚コーナーの設置など、市民にとって関心のあるテーマに関する情報を図書館が発信していることも高く評価したい。学校のみならず、図書館もまた地域社会の核となれるはずであり、その意味でも図書館の果たす役割は大きい。

防災のための研修会は、最近の豪雨被害一つをとってみてもその重要性は増しており、各部署で災害発生時の対応方法をしっかり決めておく必要がある。すでにマニュアルはできているとは思いますが、それが実際に活かされるかどうかは日頃の研修や訓練にかかっている。今年6月に起きた大阪北部地震では5人の尊い命を奪われている。その犠牲者の一人は小学校四年生の少女で、登校途中、倒れてきた学校のプールサイドのブロック塀の下敷きになって亡くなった。この壁については専門家から危険であるとの指摘があったにもかかわらず、教育委員会はこれを見過ごし、三年に一度の法

定点検もすり抜けていたという。阪神淡路大震災、東日本大震災を経験した私たちは、災害は完全に防ぐことは不可能であり、それゆえ「減災」の視点に立って災害に強い社会を構築し、災害時の被害を最小限に食い止める努力を重ねてきたはずだった。ところが、文科省の調査によると、建築基準法違反と疑われるブロック塀のある学校は1万2600校以上。悲しいかな、これが現実である。防災に関しては、避難所となる公共施設の職員の意識や知識の向上を図ることはもちろん、実際の訓練を市民の協力を得て行うことが必要であろう。

## 目的2) 生涯学習活動の推進

学習センター等での講座・研修会の実施にあたって、昨年度から受講者からアンケートを取り、翌年の事業を検討するという流れが定着したこと、また「アンケート結果による検討を、受講者にお知らせできるような工夫を検討していきます」「アンケートなどにより『参加者ニーズ』を把握し、ニーズに則った内容のものを企画します。またアンケートについては、その結果を分析し、今後のセミナーなどの企画に活かしていきます」という姿勢を高く評価したい。「生涯学習の推進」事業の受講者数は増加しており、市民の学習要求は高い。大規模改修工事により「芸術・文化活動の推進」事業の参加者と、実施回数減と地区行事との重複による「家庭教育充実」事業の参加者がともに減少したことは致し方ないが、市民への学習機会の提供は、まず市民が興味を持てる講座や研修会を設定することが第一である。さらに、そのPR方法等によって参加者数は変わるはずであるから、是非とも知恵を絞っていただきたい。

子どもたちを地域で育てるという考え方に立てば、北部公民館の「子どもチャレンジ」、南部公民館の「親子セミナー」、東初富公民館の「子ども体験教室」は大変意義のある活動だと言えよう。特に、市内の高等学校の書道部の生徒たちが指導に加わった北部公民館の「こども書き初め講座」は非常に良い取り組みだと思う。「冬休み課題応援 書き初めのコツ教えます」のキャッチフレーズも訴えるものがあり、参加者増につながったと考える。また、きわめてタイムリーな企画だったと言えよう。また、小学生が高校のお兄さんやお姉さんと触れ合う機会はなかなかないから、小学生にとっては漠然としたものであっても、将来の進路を考えるきっかけにもなったのではないかと思う。書道部に限らず、他の部活動の生徒たちが関われるような講座を今後考えていただきたい。そして、鎌ヶ谷市内の小中高大の連携を図り、子どもたちを地域で育てるという意識のさらなる醸成につなげていっていただきたい。

「読み聞かせボランティア・アドバンス研修会」において、子育て中の保護者が参加できるように広く市民の参加を呼び掛けたことを評価したい。東部学習センターの新聞紙で作る避難所スリッパを使用したオブジェの展示により、地域の方の防災意識を高めた活動や、北部公民館が市内高校美術部員と協力して作製したステンドグラスのオブジェの展示により、地域を盛り上げていくという意識が醸成されたことも大いに評価したい。

各学習センターの行うイベントの参加者は、講師の都合により実施日数が減少した「いきいきライブ教室」以外は、昨年並みか昨年以上の参加者を確保している。これまでの活動を継続するとともに、中学生や高校生を巻き込んだ新たな取り組みも進めていただきたい。地区の他の行事と重なったため参加人数が減ってしまっているが、

保護者などが参加しやすい土曜日に家庭教育セミナーを実施したことは、決して悪い判断だとは思わない。事前の情報収集を徹底すれば解消できることである。「今後の取り組み」にあるように、「講師と参加者の交流」を図る工夫や、「保護者へのアンケートなどからニーズを把握し、参加者の興味を引くテーマや実施時期。講師の人選などを検討」していけば、参加者数の増加はもちろん、地域が活性化されるはずである。

### 目的3) 学習成果を活かす場づくり

ボランティア及びボランティア団体との協働による講座・イベントの実施や、市民の学習成果の発表機会等を提供する「ふれあいまつり」など、これまでの経験を活かすとともに、広報活動をはじめ様々な工夫を行って、地域の連帯をさらに深めていただきたい。「ふれあいまつり」の参加者数の増加はこの事業がうまくいっていることを示しているが、社会の変化に応じた創意工夫がなければ、現状を維持することも難しくなるだろうと考える。

## 施策2 生涯スポーツ・レクリエーションの振興

### 目的1) スポーツ活動の充実

日本は2007年に65歳以上の人口の割合が全人口の21%を占める「超高齢化社会」となった。1970年に「高齢化社会」(65歳人口が全人口の7%を超えた社会)に突入して以来、国は様々な対策を打ち出してきた(?)が、少子高齢化の流れは止められないままである。それゆえに生涯スポーツによる健康づくりは一層のスピード感を持って取り組まなければならない。市民参加型の「新春マラソン大会」「長寿運動会」「ソフトバレーボール大会」など、毎年多数の参加者があり、市の行事として定着しており、今後も継続していくことが望まれる。

毎年思うことだが、鎌ヶ谷市の地域資源であるファイターズスタジアムを活用できるというメリットを生かさない手はない。今年度は、スタジアムが開場して20周年となることから、試合の際にキッズスターターやボールボーイの体験をさせるなどの試みがなされたようであるが、今後も市民と球団との交流は積極的に図るべきである。少年野球教室とその後のサイン会などこれまで通り実施されているが、子どもだけでなく、親子で参加できるような、また女性も参加できるような軽スポーツイベントを球団との連携事業として実施してみたいだろうか。

子どもから高齢者まで気楽にスポーツを楽しむことのできる「みんなのスポーツDAY」などの様々なスポーツイベントも確実に定着してきている。地域の団体からスポーツ推進員に講師派遣の依頼が8回もあったことから、市民が様々なスポーツに触れる機会を望んでいることが分かる。この要望に応えられるよう委員を委嘱してもらいたい。

### 目的2) スポーツ関係団体・指導者の育成

体育協会の加盟団体数およびスポーツ少年団の加盟団体数の増加は、市民体育大会の継続(今年度も、野球・バレーボール・空手・剣道・バスケットボール・グラウンドゴルフ等の市民体育大会を開催)、初心者講習会や認定員養成講習会の開催、広報活動などの地道な努力によるものと考えられ、喜ばしい成果である。スポーツを楽しむ市民の数を増やすことが目的であるが、そのためには「どのような競技があるのか」

「競技団体は存在するのか」「その競技団体に加入するにはどのようにすればよいのか」などを知っていただくことが重要であり、加入を呼びかける広報活動の重要性は今後ますます増してくるだろう。また、当然、初心者講習会や認定員養成講習会の開催についても多くの市民に知っていただくPR活動が必要である。

### 目的3) スポーツ施設の整備・充実

昨年度から弓道教室・アーチェリー教室の開催回数のみでの発表になり、利用者数が公表されていない。「アーチェリー場については、これまで実施してきた教室参加者が継続して競技を行う者も多く、競技人口の増加に大きく寄与している」とあるが、「競技人口の増加」がどの程度のものかわからない。アーチェリー教室の開催は6回から3回に減っており、教室への参加者数も当然減少している（H27年度24人、H28年度17人、H29年度11人）。「競技人口の増加」の根拠は何なのか。少なくとも施設利用者の数を公表すべきではないだろうか。数年前には両施設合わせて1万2658人の利用があったことが公表されている。競技人口の増加は、市民のスポーツへの取り組みが積極的になってきたことを示すものであるだけに、根拠となる数値は公表すべきと考える。

陸上競技場のフィールドの人工芝化とトラックの全天候型への改修、東初富テニスコートの改修、施設の利便性向上を図るための四本柵駐車場の整備など、施設の大規模なリニューアルが予定されており、大いに期待したい。一方、昨年指摘させていただいたような「体育館の床板の剥離による負傷事故の防止」という、施設の点検管理不足による怪我などは絶対に防がなければならない。細かい点検、改修にも力を注いでいただきたい。

ネーミングライツについてはこれを継続し、財源の確保を図っていただきたい。

## 施策3 芸術文化の振興

### 目的1) 多様な市民文化活動の推進

きらりホールにおいて芸術鑑賞の機会を提供する9事業19公演の参加者数の減少に関しては、様々なジャンルの講演があり、内容的な問題ではなく、市民への広報の仕方によるものなのかもしれない。訪問型・招待型の両ミニコンサートの実施を高く評価したい。幼い時に優れた芸術文化に触れることは、未来の市民文化を創造していくうえで非常に重要になってくるはずであり、継続を望みたい。芸術鑑賞教室も着実に実施されており、こちらも同様に継続を願いたい。鑑賞事業は、市民の芸術文化の創作活動へとつながっていくはずである。

市民の芸術文化活動の支援についても、一般参加者がプロの指導を受けてプロと一緒に舞台に立つ企画を提供したことなどは非常に良い支援活動である。こうした機会が増えれば市民の芸術文化に関する関心も一層高まるはずである。練習の場・発表の場としてのきらりホールの利用がますます増えることを期待したい。

市民文化祭や美術展覧会の来場者数の減少の原因は何なのか。出品者数の減少によるものか否か、分析を進めていただきたい。毎年実施される定例行事であるから、広報の問題だけではないだろうと思う。一方、文化講演会の参加者数の3倍近くの増加（一昨年と比較しても100人増加）の要因についてもよく分析していただき、来年度

以降の企画の成功に繋げて行っていただきたい。

## 目的2) 歴史・文化遺産の保存・継承・活用の推進

教育基本法（平成18年公布・施行）の第二条には「教育の目標」として5項目の目標が掲げられており、その5番目に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」とある。グローバル人材の育成のためには、英語教育の推進も必要であるが、まずは我が国の歴史や文化を知らなくては、世界で活躍する人間にはなれないはずである。そのためにも、まずは生まれ故郷の、あるいは現在生活して地域の歴史・文化を知ることが非常に重要である。昨年度は一本松遺跡の現地説明会に多くの人が参加した。今年度はその発掘調査の整理作業に尽力されているが、丁寧な作業を進めていただきたい。

国史跡事業のうちの一つ「春の牧ウマまつり」の参加者が、実施日前日の悪天候の関係で減少したことは残念であるが、「今後の取組み」にある通り、市民に興味を持ってもらえるような内容を取り入れていくことを期待したい。

今年度より「歴史・民俗資料の調査・収集・整理・保存事業」「展示事業」「教育・普及事業」の項目が加わり、歴史・文化遺産に関する姿勢（事業に対する意欲）が一層明確になったと感じた。

時間の進行とともに失われてしまう歴史資料や民俗資料を保存し、記録し、管理することは、時間と費用のかかる事業であるが、これを怠れば市民のルーツをたどる資料を失うことになる。個人所蔵の歴史的価値の高い資料もたくさんあるだろうから、少なくともそれらが失われる前に修補、管理をしていくことが大切である。「今後の取組み」にあるように、資料の保管場所の確保も今後非常に重要になってくる。

8月28日の朝日新聞に「消えゆく文化財 博物館に限界 悩める保管 財政厳しく受け入れを断念」という記事があった。地域で宝物として守られてきた貴重な文化財が、高齢化や過疎化のために博物館に預けられるケースが増えている。しかし、地域の博物館等の収蔵スペースはすでに限界に近く、行き場を失っているというのである。鎌ヶ谷市でも同様な問題が将来起こってくるはずである。今からその準備をしておくべきだろう。

展示事業においては、これからも常設展示における学芸員やボランティアの展示解説を継続していただきたい。「新規収蔵資料展示」は大幅な入館者増をもたらしており、展示物の内容にもよるだろうが、市民の歴史的資料に対する関心の高さを伺わせる。よって、いかに展示品を魅力的に紹介できるかがカギである。また、「企画展」「ミニ企画展」におけるギャラリートークの回数が増えたことで、参加人数も増加したのではないかと推察する。

「講座・教室」の回数は減少しているが、参加人数は増加しており、興味関心を引く講座等が開かれたのではないかと思う。これからも市民の要望をくみ取った講座等にしていただければと思う。講師派遣回数と出前授業の回数の増加は非常に良い傾向だと考える。

### 3. 政策Ⅱ 人間性豊かな子どもの育成環境をつくります

#### 施策1 生きる力を育てる義務教育の充実

##### 目的1) 地域とともに育つ特色ある学校づくり

子どもたちが「確かな学力」を身に付け、「豊かな心」を育むためには、まずは教員の様々な負担を軽減する必要がある。学校は不登校やいじめなど、多くの課題を抱えたままであるが、新学習指導要領の実施に向けて、小学校英語の教科化、道徳の教科化、プログラミング教育など、教員自身が学ばなければならないことはさらに増えており、そのための教材研究の時間さえ充分に取れないというのが現実であろう。子どもたちの「確かな学力」や「豊かな心」をそんな状況の中で育むことは不可能と言ってよい。そうした中で、「きり先生（少人数教育指導教員）」14人、「ほほえみ先生（特別支援教育推進指導教員）」17人の配置を継続するとともに、昨年度の「今後の取組み」に「29年度からの配置」としていた「家庭訪問相談員」を配置して不登校児童生徒への支援を行ったことを評価したい。全国的に見た場合、不登校児童生徒は小中学校では増加の傾向にあり、特に中学校では33人に1人が不登校という高い割合を占めていることから、「家庭訪問相談員」の増員を検討していただきたい。

「チームとしての学校」を推進するためにも、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）などの専門職の配置が重要であるが、SCを市内全中学校と小学校2校に配置したことを大いに評価したい。

また、地域の方々に講師を迎えて行う学校支援事業も多くのボランティアによって支えられて実施されている。キャリア教育の推進のために、職業を持つ地域の方による小学校での講演も実施されており、こうした活動に部活動指導やICT教育の指導などを加えていければ、地域と学校がさらに連携・協力していけるはずである。カリキュラム・マネジメントの視点からも「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること」が中教審答申に盛り込まれており、今後さらに推進していただきたい。

学校図書館貸出数の着実な増加は、学校図書館司書の方々の努力よるところが大きいと考える。第五中学校での「全校ビブリオバトル」の開催は、読書活動推進の上で大変良い試みだと思う。他の学校でもこの取り組みが行われることを期待したい。幼いころから本に親しんでいなければ、学力の重要な要素とされる「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせることはできないだろう。蔵書数が少ない学校についてはできるだけ速やかにその充実を図っていただきたい。

電子黒板、タブレット、デジタル教科書など教員が使いこなさなければならない機器等の使用に関しては研修が必要である。夏季休業中に5年生担任に対しプログラミング教育の研修を行う予定であることは大変良いことである。ただし、電子機器は不具合を起こすことを想定に入れた研修となってくれることを期待したい。また、昨年も指摘した通り、ICTの活用が単純に校務のスリム化等につながるわけではなく、むしろそれを使いこなすためには膨大な準備時間が必要となることも忘れずにいていただきたい。

小学校英語の教科化に関しては、現役教員のほとんどは教育課程で英語を学んでいないわけであるから、大学などの協力を得て「英語指導法」を学ぶ研修の実施を今年

も提案したい。ALTの各校への配置が終日になったことは大変喜ばしい。子どもたちの英語力は、授業よりも休み時間に自主的にネイティブに話しかけることによって向上すると分析している大学の英語教員もいる。子どもたちが生活の中で（授業以外で）ALTに様々な質問したりすることができるならば、シャイであるがゆえに英語が身につかないと言われる日本人が、英語に対する苦手意識を克服する機会になるはずである。30年度からはALTを3名増員すること、大いに期待したい。また、子どもたちの英語への関心を高めるとともに国際理解を進めるためには、2年後の東京オリンピック・パラリンピックを好機ととらえて、「オリンピック・パラリンピック教育」を推進していただきたい。

不登校やいじめの問題のみならず、地域で暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観やLGBTなどへの理解といった「多様性」に対する寛容の精神も身に付けられるような講演会などを「心の教育」の一環として実施してもらいたい。

### 目的2) 専門性と社会性を備えた教職員の育成

社会の変化とともに、子どもたちに必要な資質・能力も当然変わってくるのであるから、教員は学び続けなければならないのである。現在、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業をどう構築していくのか、教員は悩んでいることと思う。しかし、授業こそ教員の本務であるから、そのこと自体を苦に感じている教員はいないだろう。もちろん「時間がない」ことは重々承知である。是非、研修会は実態に即した、教員にとって研修した内容をすぐに活用できるようなものにしていただきたい。「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた優れた授業は、ネット等で閲覧できるようなものもあるから、そうしたものを活用した研修であってもよいと考える。もちろん、学校内の優れた授業を行う教員の実際の授業を見学することの方が、時間的にもロスがなく、優れた研修になることは間違いないのだが。

### 目的3) 安全・安心な教育環境づくり

この夏、愛知県豊田市の小1男児が校外学習の後に熱中症で死亡するという事故があった。当日の気温もさることながら「疲れた」と何度も訴えていた男児は、学校に戻った後、エアコンのない教室の一角で休んでいて急変したらしい。当日の教室の温度は37度に上っていたともいう。問題は様々指摘できるが、何よりも、暑い中で「疲れた」という小学生が休んだ場所がエアコンのない教室であったことが最悪の事態を招いたといえよう。全国の公立小中学校の教室で冷房のあるのは49.6%という。因みに愛知県は27.8%、千葉県は44.5%である。どこかの国の大統領は「フェイクだ」と言うが、地球温暖化の影響で世界の気候が変化していることは間違いないだろう。昔のような夏の暑さではない。生命を危険にさらす酷暑であることを忘れてはならないだろう。その意味で、エアコン設置率100%の鎌ヶ谷市の小中学校は、子どもたちにとって安全な教育環境が整っているとと言える。トイレの改修工事等、教育環境をよりよくするための施設の補修・増設事業も計画通り実施されており、今後もより一層教育環境の充実に取り組んでいただきたい。

子どもの貧困の問題は、憲法で保障された教育の機会均等を破壊せしめている。それゆえ、就学援助に関する取り組みは、非常に重要になっている。中学校のみならず、今年度からは小学校でも新入学学用品費の入学前支給を行ったことを高く評価したい。

また、就学時健康診断の通知にお知らせを同封し、当日、申請手続等について説明したことも、経済的に困っている家庭にとっては有難い対応であったと言えよう。今後も、この就学支援を継続するとともに、より充実した支援となるよう認定基準の見直し等を進めていただきたい。

## **施策2 児童・生徒の健康と安全の確保**

### **目的1) 保健安全教育の充実**

昨年度より「治療勧告」「受診報告」「受診率」の項目が加わり、子どもたちの健康状況が把握しやすくなった。昨年度と比較して「受診率」が「歯の検査」「尿検査」以外はアップしており、これは関係各位の努力のたまものだと思う。昨年度も指摘させていただいたが、「見えない貧困」の問題として「病院に行かせることができない」というものがある。受診率の低い検査項目については、そうした原因が隠れていないか調査を進める必要がある。受診勧告を受けた児童生徒の保護者に対して、学校が受診勧告を行っても受診しない場合には、そんなことも疑ってみたくて保護者と話し合いを行う必要も出てくると思われる。

養護教諭と保健主事を対象とした研究会、検討会は今後も継続して実施し、子どもたちの健康問題に対処していただきたい。特に、食物アレルギーに関する対応は直接命にかかわる問題であることを今一度認識して取り組んでもらいたい。

### **目的2) 児童・生徒の安全確保**

学校や地域からの要望を受けて、登下校中の子どもたちを守るために「子ども見守りカメラ」17台を設置したことを高く評価する。カメラの設置は犯罪を抑止する効果が期待できるし、もしも犯罪が起こった場合には、犯人逮捕へと結びつく重要な証拠提供となりうる。安全マップの作成が「一部の小学校」から「全中学校と一部の小学校」へと拡大したことを評価したい。今後は市内の全小中学校で作成できるよう指導していただければと思う。

自転車の安全運転講習会において危険予知トレーニング（KYT）を導入したことも評価に値する。昨年は、「スケアード・ストレイト自転車安全教室」の開催により、交通ルールを守ることの大切さを学んだはずである。子どもたち自身に交通事故から身を守る意識と行動を身に付けさせるためのさらなる工夫を期待したい。

昨年川崎市で、自転車に乗りながらスマートフォンを操作して歩行者にぶつかり死亡させた女子大学生に対し、「周囲の安全を全く顧みない自己本位的な運転態度で、過失は重大」として禁固2年・執行猶予4年の判決が言い渡された。こうした事故や事件を利用して自転車の安全走行について児童生徒に真剣に考えさせていただきたい。

安全パトロールの実施と不審者に関する情報の迅速な共有に関しては、今後も継続し、児童生徒の安全を確保してもらいたい。

### **目的3) 学校給食の充実と施設の整備**

昨年度より、事前にホームページで学校給食の主な食材の産地を公表したが、今後も継続して保護者に安心していただけるにしていきたい。放射性物質の測定に関しても同様である。アレルギー除去食に関しては「卵・乳」に「落花生」も加えての除去食を提供しており、30年度からは「えび・かに・小麦」を加えた除去食が予定され、

ますます安全性が高まるものと期待する。

食育の観点からは、東京オリンピック・パラリンピックに向けて世界の料理を学校給食で紹介する試みも、ファイターズの選手が普段食べているメニューと同じものを提供したことも（しかも選手からのメッセージを給食の時間に流すというきめの細やかな配慮もある）、さらに、小中学校において残量が少ないクラスに「お礼の手紙」を渡すなどの活動が、残食率の低下につながっているものと思われる。「地産地消」の推進についても、地元農家の協力を得て鎌ヶ谷産の野菜を使用した給食を提供することで継続されており、大変素晴らしい。また、昨年度の「今後の取組み」に「事業者との共同による親子参加型のイベントの開催や残滓による有機肥料の各校配布に取り組む」とあったが、学校給食センターの親子見学会の実施、残滓を活用した有機肥料を「食育ガーデン」で使用して野菜を育てるなどの活動が始まっており、高く評価をしたい。今後も食育の推進を図っていただきたい。

### **施策3 高度学習への道（高等教育の充実）**

#### **目的1）義務教育修了者の進路選択への支援**

中学生がより良い進路を選択できるようにするためには、高等学校の情報を（受験情報に限らずあらゆる情報を）入手させることが重要である。A高等学校ではどんな授業が行われているのか、部活動はどんな部があってどのように活動しているのか、大学への進学実績・就職状況はどうか、通学方法は何か、学校全体の雰囲気はどうかなどなど、そうした情報を収集して自分に合った高校を見つけ出せばいい。それゆえ、高等学校の教員が中学校において専門性豊かな授業を行うことは、高等学校ではどんなことを学ぶのかを知るうえで非常に良いことである。授業以外の高等学校の情報を中学生にどう伝えていくべきか、中高の連携をさらに深める方法を考えていただきたい。また、市内の中高の教員が気軽に連絡を取り合える関係を築いてくれることを何よりも望んでいる。八千代市では、小中高大および特別支援学校の校長が一堂に会して一つの教育課題について話し合う機会を作っているが、様々な情報を校長が共有して、校種の垣根を越えた連携が生まれている。参考にしてみてはいかがだろうか。

#### **目的2）高度学習ニーズへの対応**

千葉経済大学短期大学部との連携によるオープンカレッジと、昨年度から始まった和洋女子大学との連携による市民セミナーも、その講座内容を見るとかなり専門的なものが多いが、オープンカレッジの場合、参加者数は大幅に増加している。これは市民の高度な学習への欲求の高さを示していると言えよう。高等教育レベルの内容の学習の機会を市民に提供することの大切さがわかる。

オープンカレッジの参加人数の急増は、報告書にある通り、事前PRのチラシの配布やPRの工夫によるものと考えられ、その努力を称えたい。

市民の学習意欲が高いだけに、提供する講座内容の検討をこれからも欠かさないでいただきたい。現在、市民のニーズをアンケート等により把握するとともに、市民が参画する「企画委員会」が論議して決めているようなので安心している。

## 施策4 青少年の健全育成

### 目的1) 青少年の育成指導体制の充実

今年度も青少年関係団体が補助金を活用して様々な事業を実施しており、こうした事業を通して青少年が健全に成長していくことを今後も見守りたい。個人的な感想であるが、今年度は「オーバーナイトハイキング」に関しての説明がなされていて、恩田陸の『夜のピクニック』を思い出した。と言うよりも、自分の高校時代の強歩大会（夜を徹して70kmを歩くというもの）を思い出して懐かしく思った。オーバーナイトハイキングは、保護者同伴であり、掲載された写真やネットでの情報を見ても安全に十分配慮していることが分かる。普段は歩けない夜の道を、仲間と一緒に25kmも歩くという経験は、こうした企画がない限り小中学生にできることではない。小学校4年生にとっては大変な距離であるが、みんなと励ましあいながら完歩したのであろうから、その達成感は計り知れないものがあると思う。また、道中では仲間と普段なかなか交わせないような会話をして良い思い出もできたのではないか。個人的な見解だが、夜が白々と明けていくときの空の色や風の匂いを感じられただけでも大切な経験になったと思う。青少年相談員連絡協議会には、是非この企画を継続していただきたいと願う。

### 目的2) 青少年の社会参加・体験活動の機会づくり

今年も「元気っ子ゼミナール」に多くの子もたちが参加してくれたことを喜びたい。小学4年生から6年生が学校や学年の枠を超えて様々な活動を行い、リーダースクラブの中高生がスタッフの一員としてサポートしていくこの企画は、子どもたちが自ら考え、仲間と協力して課題を解決していく「生きる力」を育むもので、大変意義のある活動だと感じている。他のさまざまな体験活動においても小・中・高校生がボランティアとして参加しており、子どもたちの健全な育成が着実に進んでいる。関係団体の人たちのサポートに感謝したい。

### 目的3) 非行防止対策の推進

インターネット上の有害情報や誹謗中傷の書き込みなどは、年間検案件数が昨年度と比べて1260件以上減少しているが（28年度4025件、29年度2757件）、インターネット上の悪質書き込み等が減ったのであれば非常に良いのだが…。ネットパトロールはますます重要性を増してくるはずであるから、今後も監視を強化していただきたい。

朝パトロールの実施により補導人数が減少したことはひとつの成果と言える。今後も朝パトロールを継続していただき、青少年の非行防止に努めてもらいたい。

### 目的4) 家庭・地域の教育力の向上

家庭教育の重要性を啓発するための活動である「家庭川柳」もしっかりと定着しており、喜ばしい限りである。特に今年度は、父親の育児参加と家庭を顧みるきっかけづくりのために、父親が題材になっている作品を市民が参加する各種会議において配布したことは大変良い試みだと思う。一昨年度から各中学校に応募箱を設置して応募しやすい環境を整備した。こうした作品募集を強制する必要は全くなく、自発的な参加を基本とすることに問題はないが、中学生自身が両親や家族について改めて考えてみる良い機会となるのであるから、学校で応募を積極的に呼びかけていただきたい。

#### 4. おわりに

「継続は力なり」という格言がある。一方、「変化するモノのみが生き残れる」という言葉もよく耳にする（ダーウィンの進化論を社会問題においても適用しようと曲解したものであるとの批判もあるが、あえて使わせていただく）。様々な事業を実施していく場合、その事業が市民のニーズに沿うものか否かは常に検証していく必要があるが（ただし、市民からの直接の要望はなくても、歴史文化遺産の保存等は実施しなければならない事業である）、長い期間継続することによって定着し成果をあげていく事業もあるはずである。もちろん、事業内容そのものがマンネリズムに陥れば、当然参加者数等は減少傾向を示すことになる。常に新たな意見を取り入れて変化させていく努力もまた必要であることは確かなことであろう。

ここ何年か「点検・評価」に関わらせていただいているが、「市民のニーズをアンケートによって把握すべき」「PR活動を活性化させて参加人数等の増加を図るべき」との注文に毎年誠実に応えていただき、その成果が様々な事業で表れてきているのではないかなと思っている。担当者各位の努力に敬意を表したい。

今年度の報告書は、昨年以上に写真等を活用し、特にPRのためのチラシなどを掲載しており、一層活動内容が分かり易いものとなった。この点についても評価させていただくとともに、今後一層の工夫をお願いしたい。

以上

## 平成29年度 鎌ヶ谷市教育委員会の点検・評価について

聖徳大学児童学科  
准教授 神谷明宏

### 1. 全体的な意見

昨年度の点検・評価について一昨年度と比べ、大変見やすい改革がなされたと総評でも書かせていただいたが、本年度はさらに写真を多用し新たな取組等についての文章表記も、PDCA サイクルの視点からしっかりと書かれているということが一番大きな変化である。特に生涯学習の分野での傾向は著しく、第三者に対する自らの活動を報告するという真意溢れる表現となっていることが見て取れる。特に生涯学習分野においては現在その活動の指針ともなっている「市民協働参画」を意識し、単なる学習からファシリテーターによるワークショップ、さらには学習成果の発表といった流れを意識した活動の萌芽をうかがわせる内容が随所に見受けられるようになったことを評価したい。しかし昨年も指摘をさせていただいたが、学校教育の分野においてはまだ道半ばといった感をぬぐうことができていないというのが私の感想である。特に平成30年度からは学習指導要領も改訂され、それまで改革のキーワードとされてきた「アクティブ・ラーニング」から「主体的・対話的で深い学び」に変わり、他都市の学校教育ではこれに向けた準備・対策が進められ、現場では各種研修会を始め教材等の準備も慌ただしく進められているが、そのことについて一行たりとも触れられていないことが不思議である。もちろん現場レベルの教員は実現に向けた授業改革への努力は怠っていないとは思わないが、国家レベルでのこのような大きな改革が進められている中であっては、市をあげて研究に取り組む姿勢が児童生徒の学力アップにつながることを考えれば、千葉県全体の中でも遅れを取ることは必至である。教員の過重労働の実態を踏まえれば千葉県全体での取り組み以前から徐々にスタートを切っておく必要がスムーズな移行への流れを作ることは言うまでもないことである。

毎回繰り返しとなって恐縮であるが、一般市民感覚としては教育委員会として初めて取り組んだ事業や重点施策についてしっかりとした点検・評価を行うことが当然であり、自らの取り組みの成果を明確に振り返る姿勢が示されると共にそれが価値のあるものであることを証明する必要がある。その意味では公的機関のミッションとしてPDCA サイクルに基づき、そのエビデンスを基本に事業を見直しさらなる高みを目指し、改廃を検討する必要がある。その意味でもここ数年自己評価が低いにも関わらず、例年通りの事業内容を繰り返すことは厳に慎む必要があるのではないだろうか。

### 2. 各政策・施策についての意見

#### 政策Ⅰ「生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります」

##### (1) 施策「いきいきとした生涯学習の推進」

1) 生涯学習の環境づくりでは学校施設の地域開放について、他地域でも既得権を持った団体による優先利用の問題が起きがちな課題である。しかし、本来の地域開放の性質を考えれば、会員の登録数等を基本に公平な利用配分というのが原則であろう。その意味でも、新たな団体の受け入れについて既存団体と調整を図ったことは好ましいことであると考えられる。図書資料の充実の評価

がbからaに上がった要因ともなっている「アクティブ・ライフ応援」コーナーの設置や月ごとの図書展示など開館 30 周年を機に図書館が大きく生まれ変わろうとしている意気込みが感じられる効果的な活動である。その中でも特にコンシェルジュスタッフの巡回による利用者への利便性を図った取り組みは注目に値する。**生涯学習研修会の実施**については最近の日本各地での大規模災害の発生に照らしても、災害時に公共施設が避難場所になることを考えた職員向け研修を継続して実施する時を捉えた研修会の好例であろう。

2) **生涯学習の推進**では、**学習センター等での講座や研修会の実施**について受講者アンケートによる見直しを図ることは当たり前のことであるが、過去に実施してこなかったことを考えると評価がcからbになるのは納得できる。ただし、今後この結果を踏まえどのような改善がなされるかに期待したい。**生涯学習活動の推進**では、青少年健全育成や地域活動の促進・援助や芸術・文化の促進の各分野において、子どもチャレンジに高等学校の部活との連携や、北部公民館における県立鎌ヶ谷西高等学校美術部とのステンドグラスオブジェ展示の連携や、南部公民館における県立鎌ヶ谷高等学校吹奏楽のクリスマスコンサート事業についての報告があるが、このような連携や協働をキーワードとした活動こそ評価をbのままにせず、高評価にすべき内容と考えられ、今後も拡大して欲しいものである。一方、**家庭教育の充実**については地域行事とのバッティングや講師の都合等の事前に回避可能な問題により各セミナーの参加者を大幅に減らしたことはここ数年の参加者減少傾向を考えても、今後の対策の課題として猛省が求められる事案である。

3) **学習成果を活かす場づくり**でも上記と同様の課題が「いきいきライフ教室」の参加者数の大幅減の原因となっているので改善が必要と考えられる。

## (2) 生涯スポーツ・レクリエーションの振興

1) **スポーツ活動の充実**について、年齢を問わず健康維持・体力づくりのための継続的な諸活動は、今日の国民的課題である。この意味でも生涯スポーツ・レクリエーションの振興は、非常に大きなテーマで、特に青少年の著しい体力低下への対策は急務の課題となっている。**スポーツ・イベント活動の取り組み**はすでに定着した感のある「北海道日本ハムファイターズ」との連携による市民交流活動として健康維持や体力づくりの大きな広告棟としての役割を果たしていると考えられる。鎌ヶ谷ランフェスタ・軽スポーツ（ランニングデー）、少年野球教室と実に堅調に参加者を集め、鎌ヶ谷市の目玉イベントに成長したとも思われ、評価がbからaに上がったのは当然である。また、**スポーツ推進委員活動の促進**では地域団体から講師派遣依頼に応え、スポーツデーの参加者も大幅増の成果を上げていることも実に好ましい傾向で、新たな推進委員を増やしこの傾向に拍車をかけることが肝心であろう。

2) **スポーツ関係団体・指導者の育成**では**体育協会加盟団体の育成**について、市民の健康維持・体力づくりの基本となるのは加盟団体数と会員数であろう。この意味では加盟数の増加が図られたことは喜ばしいことである。今後は会員数の増加のため初心者講習会の開催を増やすことが課題となるはずである。**スポーツ施設の整備・充実**は市民へのスポーツへの興味・関心を高め、さらには競技人口の増加と密接に関わる課題なので、今後も計画的に継続されていくことが重要であり、整備・維持管理費を確保するためにはネーミングライツにも同様に取り組む必要があるであろう。

### (3) 芸術・文化の振興

1) 多様な市民文化活動の推進について、芸術鑑賞事業ではアーティスト発掘を目的としたコンテストがきりりホールで継続されていることが喜ばしい。このような収益には結び付きにくい活動は公的施設でしか開催できない青少年の芸術意欲の向上・拡大に結び付く活動である。その意味では、**芸術文化活動の支援**の市民創作ミュージカルへの参加者募集・おやこで楽しむオペラ出演者ワークショップ・中高校生向けの舞台ワークショップ等の市民参加型の活動の事業や、訪問型のミニコンサートを幼稚園・保育園で行う等のアウトリーチの活動は評価が高く、さらに拡大を図りたい事業と考えられる。

2) 歴史・文化遺産の保存・継承・活用の推進について、埋蔵文化財発掘事業が予定通りに進められ、さらに継続されることは喜ばしいことである。しかし、**歴史・民俗資料の調査・収集・整理・保存事業**に関して現地保存の観点は重要とはいふものの、資料寄贈の依頼を積極的に行わないでいけば、それらの貴重な資料は散逸していくのは必至であり、何らかの早急な対策が望まれるのではないだろうか。**展示事業**については、特に教育・普及 子ども講座や出前授業といったアウトリーチのプログラムへの取り組みが広がっていることが評価できる。さらなる発展のために展示事業における資料館ボランティアと同様、資料発掘ボランティアを教育するプログラムを開発してもよいのではないだろうか。

## 政策Ⅱ「人間性豊かな子どもの育成環境をつくります」

### (1) 生きる力を育てる義務教育の充実

1) 地域とともに育つ特色ある学校づくりについて、平成 28 年度の文部科学省の調査報告によれば 1 千人当たり年間欠席数が 30 日以上の不登校の児童生徒数が 13.5 人（小学生 4.3 人・中学生 30.1 人）と過去最高を記録した。このような児童生徒の問題行動や不登校の未然防止・早期発見・早期対応は急務の課題である。その意味でも**少人数指導の推進**は今後も継続的に取り組む必要があろう。それと共に重要なことは、**特別支援教育推進指導教員**の項目に報告されている 29 年度から開始された家庭訪問相談員の配置と不登校の児童生徒への個別支援であり、これはさらにきめ細かな活動を継続的に進めることが求められる。**学校図書館司書**の項目では特に第五中学校で開催されたビブリオバトルに注目したい。これは読書への興味拡大に大変効果的があり、今後は各中学校への拡大展開が望まれる活動である。**学校支援地域本部事業**は地域のコーディネーターの活動とボランティアの確保による活動であることを考え、従来の考え方から脱却し、各学校独自のマンパワーの確保の方策を考える必要があると考えられる。**ICT 教育環境整備**については順調に推移しているようであるが、今後の新しい課題への準備を進める必要がある。**外国語活動の推進**は 2018 年度より小学校 5・6 年生で実施されている「外国語活動」が 2020 年度には小学校 3・4 年生で「外国語活動」に、小学校 5・6 年生が「英語が教科」となることを前提として進められていると理解できる。このような取り組みの中で、ALT の配置が終日となったことで、児童生徒の国際理解への一助となったことは喜ぶべきことである。また、今日の AI 社会の到来や新たな地球規模での問題解決のためにも重要視され始めた小学生からの**キャリア教育**はキザニアの例を取り上げるまでもなく小学生の保護者の関心も高いので、小学校 2 校で実施された各職種の職業人の講演会をさらに拡大展開する必要があると考えられる。**心の教育**について人権教育を人権擁護委員と連携して実施したこと

は非常に意味がある。ただ一方いまだスクールカウンセラーの配置に汲々としているようでは課題となっているイジメ問題に十分に対応できるとは考えにくい。小学校ではこども一人ひとりに寄り添うことで支援できるとしても、学校全体での取り組みが課題である中学校では、学校環境全体に働きかけるスクールソーシャルワーカーの配置が必至であると考えられる。

2) **専門性と社会性を備えた教職員の養成**について、**教職員の指導力向上**の項目に次年度以降の道徳の教科化について主任研修の実施は挙げられていたが、一番重要なことは新指導要領に記されているアクティブ・ラーニングの視点を経た新たな取り組みである「主体的対話的な深い学び」への研修対応が十分であるとは考えにくい報告となっていることである。確かに文部科学省の文書からは何をもち主体的・対話的・深い学びとするのかといった指標が捉えにくいことは理解できるが、**指導訪問・市教育委員会研究指定校**の報告にはもう少し詳しい記述が欲しいところである。

3) **安全・安心な教育環境づくり**について、**義務教育施設維持補修事業**において最近ほとんど住宅のトイレが洋式となり、学校のトイレはこどもにとって使用できない恐怖の場所となっていた実態を鑑み、各小学校のトイレ改修が進められていることは喜ばしい限りである。また、この少子化時代にも関わらず、五本松小学校の児童生徒数の増加で**義務教育施設校舎増設事業**において校舎増設工事が行われたことは大変めでたいニュースである。一方、格差社会の進展と共に貧困問題も深刻の度を深め、7人に1人の割合で貧困なこどもがいるという実態を踏まえ、**就学援助の実施**は喫緊の課題といえる。この対策として小学生に新入学学用品費の入学前支給を実施し、中学生には卒業後の進路に応じた奨学金情報を提供したことは実にきめ細やかな対応として評価に値する。

## (2) 児童・生徒の健康と安全の確保

1) **保健安全教育の充実**について、**児童生徒の健康管理**は子どもの**健康管理**にかかる研究会の実施とあわせて、例年どおり順調に推移していると認められる。

2) **児童・生徒の安全確保**については昨今のこどもが犠牲となる事件の増加に鑑み、具体的な被害防止策の工夫が求められている。その意味では**通学路安全対策事業**における子ども見守りカメラの設置は費用がかかっても抑止力効果は大きいと思われる。また、**児童生徒安全パトロール事業**を積極的に行っても事件を未然に防ぐ手立てとしては不十分だと思われる。つまり被害者になり得る可能性のあるこどもたち自身の自覚を促すことが一方では重要なのである。そこで、こども自らが安全マップを作成したり、自転車安全運転講習会に KYT を取り入れたりといった主体的な取り組みが図られることで、積極的安全教育活動となっている点が評価できる。

3) **学校給食の充実と施設の整備**について、**学校給食の充実**はアレルギー除去食の提供が開始され、さらにアレルギー除去食第三段階への準備が着々と進められていることは食の安全の観点から心強い限りであり、評価も b から a へ上がったのは当然である。それと同様に評価できるのは**学校給食における食育の推進**で残食量減少への取り組みは特に重要な取り組みといえる。日本は世界最大の食糧輸入国であるが、その3分の1に当たる2000万トン捨てている国でもある。一方、発展途上国では1日2万5千人が餓死しているという事実をこどもたちが自分の問題として考える機会を与えることが今重要な課題であろう。**学校給食 PFI 事業のモニタリング**においてもコーンポストによって残滓から作られた有機肥料の活用で学校給食センターの食育ガーデンの野菜栽培を行うという環境教育活動を進めたことは注目に値する。評価は十分に a である。

### (3) 高度学習への道

1) 義務教育修了者の進路選択への支援の具体策として、より良い進路選択の支援については昨年度も指摘したが、義務教育修了者に対する進路選択の支援の課題で一番難しいのがいわゆる家族の経済的課題や人間関係に課題を持つ生徒への対応である。そこで生徒本人はもちろん保護者も一番知りたいのが、進学や奨学金取得の情報等である。進路に関わる情報提供として県立高校との連携を深めたことは評価に値する。一方、奨学金については返済の義務のあるものも多く、個々の実情にあった情報を生徒本人や保護者に提供できることが重要である。そのためには個々の担任の努力だけでは限界があり、素早く役立つ正しい情報を提供できるシステムの構築が喫緊の課題となるはずである。その意味ではまだ十分な対応ができていないとは言い難く、昨年同様のb評価では甘い評価と言わざるを得ない。

2) 高度学習ニーズへの対応について、今日のシニア世代の学習意欲には頭が下がるほどである。その意味では大学との連携による高度な学習機会の提供は内容の多彩ぶりからも十分にその役割を果たしていると考えられるものの、市民参画による自主運営的な学習のあり方の検討が必要な時期になっているとは考えられないだろうか。

### (4) 青少年の健全育成

1) 青少年の育成指導体制の充実については、一昨年度から申し上げているとおり、青少年関係団体への支援に関して特に補助金の項目を見ると、ここ何年間に渡って全く同じ団体へ全く同額の補助金が支給されている。今日の少子化の流れ等を考えれば、やはり活動実績に伴いこれらの補助金額が妥当であるかどうか第三者による評価が必要な時代となっていることは明らかである。なぜ市民目線から不自然と映る配分が行われるか全く理解できない。NPOをはじめとする新しい青少年のための活動を展開する例も増加している状況を考え、プレゼンテーションを行い、活動内容による配分を考える時期がきていることを自覚しなければならないと考えられる。

2) 青少年の社会参加・体験活動の機会づくりについて青少年活動の充実とは、昨年度も触れたように、東日本大震災の避難所での子ども会ジュニアリーダーの活躍ぶりを踏まえて、企画運営から指導までを体験することができる「元気っ子ゼミナール」のような取り組みが大変重要であると考えられる。このような活動こそが青少年健全育成分野ではもっと数多く行われるべきで、全国子ども会連合会ではジュニアリーダーを卒業したシニアリーダー・ユースリーダーの企画・運営による全国研修会が開催されるようになり、参画をキーワードとした活動が盛んになってきているのである。

3) 非行防止対策の推進について青少年の非行防止活動においては、情報メディアの急速な発展と共に新しい課題であるインターネット犯罪の予防が喫緊の活動となっている。特にインターネットへの有害情報や悪質な書き込みが昨年度4025件から2757件に大幅に減少したのはきめ細かな検索・監視による効果に他ならず、大変な成果を上げていることが分かる。評価がbからaに上がったことも十分に理解できる。

4) 家庭・地域の教育力の向上については家庭教育の啓発の広告棟ともいべき「家庭川柳」の発表を、本年は特に父親が題材となったものを選び、父親の育児参加をテーマにした展示の試みが

評価できる。このような展示はどうしてもマンネリ化し易いので常に新しい発想が必要となるので、  
今後もタイムリーな絞り込みを考えていただきたいものである。

